

令和2年度

研究成果報告書

総合的な探究(学習)の時間

真庭トライ&レポート (TR) まとめ冊子

岡山県立真庭高等学校 (落合校地)

【目次】

1. 巻頭言・・・1

2. 真庭トライ&レポート 全体計画(県提出)・評価表・ポンチ絵・・・・・・・・・・・・・・・・・・2～5
 - ・令和2年度 総合的な探究の時間 全体計画(1・2年)
 - ・令和2年度 総合的な学習の時間 全体計画(3年)
 - ・評価表
 - ・ポンチ絵(概念図)

3. 令和2年度真庭トライ&レポート成果発表会【令和3年2月5日(金)】・・・・・・・・・・6～15
 - ・レジュメ
 - ・プログラム
 - ・講師の先生からのおことば
 - ・研究協議まとめ
 - ・森年先生による研究発表(パワーポイント資料)

4. 総合的な探究(学習)の時間で育った学力についてのアンケート集計結果・・・・・・・・・・16

5. その他資料・・17～24
 - ・PPT作成講習会資料
 - ・まとめ冊子原稿A作成資料
 - ・真庭SDGsパートナー関係資料(登録書・ポスター・一覧)

6. 第1学年・・25～61
 - ・年間活動計画
 - ・1年生TR中間発表会プログラム
 - ・全17班資料 【原稿A(左ページ):スライド・メモ、原稿B(右ページ):学び・講評】
[MANIWA][こち防][ユネスコ]

7. 第2学年・・62～99
 - ・年間活動計画
 - ・2年生TR中間発表会プログラム
 - ・2年生TR学年発表会プログラム
 - ・全17班資料 【原稿A(左ページ):スライド・メモ、原稿B(右ページ):学び・講評】
[MANIWA][こち防][ユネスコ]

8. 第3学年・・100・101
 - ・年間活動計画

巻頭言

校長 豊田 涼

本校の総合的な探究の時間「真庭 Try & Report」は平成21年から始まり、本年度11回目の成果発表会を行うことができた。「真庭 Try & Report」では地域をフィールドにして、地域で行動し、地域と連携し、地域に貢献することを目指して様々な探究活動に取り組んでいる。そして、活動の中で地域の皆様方に色々と御協力いただき、生徒を育てていただいている。発表会では1年生が9つの教室に分かれて発表し、2年生が落合総合センターでスライド発表を行った。これらの発表を見ると、1年生は探究活動を通して論理的思考力や仲間と協働する姿勢をしっかりと身につけており、2年生はさらに表現力を高め課題解決に向けて地道な努力をしてきたと感じた。

昨年から1・2年生共通のテーマに「SDGs（持続可能な開発目標）」を取り上げて取り組んできた。そもそも、SDGsは自分達の生活とどのような関係があるのだろうか。国連は、今地球上にどのような課題があるかを考えて17の目標を定め、その下に169の具体的な行動目標をおいた。物質的だけでなく精神的にも豊かに暮らしていくためには、その行動目標に照らし合わせながらどのように生きてゆけばよいのか、さらに、今だけではなくて将来にわたって、すなわち自分達だけでなく自分達の子孫の時代も豊かに暮らしていくためにはどうあればよいのかを生徒諸君が考えていくことこそSDGsの最終的な目標だと考える。生徒諸君は、現在、具体的な答えを持っていないかもしれないし、何をしてよいかわからないかもしれない。そこで、自分たちでしっかりと課題を把握し、どうしていけばよいのかを考え、さまざまな人達と協働しながら行動を行っていくことこそが大切である。この探究活動の中で、自分たちの日々の行動が自分たちの豊かな未来を作り上げることを考えてもらいたい。

岡山県教育委員会では、令和3年1月に、「岡山県の教育でこれから進めていかなければならない新しい3つの柱」を公表している。この中に「地域学」がある。これは、「地域課題」をテーマにして課題解決型学習を行い、その中で「非認知能力」を身につけていこうというものだ。「非認知能力」とは、近年、若者に身につけてもらいたい力の一つとされ、学校のテストのように数値化できる力（「認知能力」）以外のものとされる。つまり、様々な活動のプロセスの中で見えてきた「自分自身の変化」を確認し、地域の方々や先生方からアドバイスをもらいながら「自分を高めていく力」を身につけていって欲しいということである。併せて、活動を通じて「自制心」や「忍耐力」などの「自分と向き合う力」や、「協調性」や「コミュニケーション能力」などの「他者とつながる力」も身につけてもらおうとも考えている。私は、生徒諸君にも、「真庭 Try & Report」の学習活動を通じて、このような力を身につけて欲しいと考えている。

最後に、御指導御助言をいただいた大学の先生方や、各行事の会場に御参集いただいた保護者そして地域の皆様に厚く感謝を申し上げ、巻頭言としたい。

令和2年度(1・2年生)総合的な探究の時間(落合校地)全体計画

岡山県立真庭高等学校(落合校地)

生徒の実態

純朴で素直な生徒が多い、学習面に苦手意識を持つ生徒が多いが、授業態度は総じて真面目であり、部活動や清掃などの諸活動に誠実に取り組むことができる。
近年、県北中山間地域の急激な少子化により志願者が減少している。入学してくる生徒の進路希望も多様化している。

地域・社会の実態

真庭市は、少子高齢化という問題を抱える一方で、国内外でバイオマスタウンとしての先進的な取組が目立っており、「地域エネルギー自給率100% 2030 SDGs 未来都市真庭の実現～持続的に発展する農山村のモデルを目指して(私がわたしらしく生きるまち)～」をタイトルとして、SDGs未来都市選定都市29の1つに選ばれている。
学校近隣に垂水向津矢住民会メンバーで構成される「まにわ・しめ山プロジェクト」がある。

学校の実態

2014年9月25日付でユネスコスクールに加盟承認されており、Think Globally Act Locally - 地球的な視野で考え、地域で行動する - を本校のミッションに掲げ、高い志を持ち、広く郷土の自然や伝統・文化・産業に学び、学力を高め、探究的・体験的な学習を通して、創造力にあふれ、たくましく豊かな人間性や社会性を育て、地域や社会の発展に貢献できる実践力を身に付けた若者を育成している。

学校における教育目標

- (1) 知識や技術を確実に身に付け、思考力、判断力等を養い、主体的に課題を解決する資質能力を持った人間を育成する。
- (2) 生涯にわたって自ら進んで学び、絶え間なく変化する社会に対応できる人間を育成する。
- (3) 社会規範を尊重し、人を思いやる心など豊かな人間性を身に付け、心身ともに健康でたくましい人間を育成する。
- (4) 郷土の伝統や文化、産業に学び、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。

学校において定める目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
- (4) 学校設定教科「課題探究サポート(1学年・2学年)」での学びと結びつけて、「探究のプロセス」(①課題設定、②情報収集、③整理・分析、④まとめ・表現)と「思考のスキル」を身に付ける。

保護者の願い

(普通科)進学・就職と多様な進路実現に向けて、生徒一人ひとりを支援して欲しい。(看護科)一人前の看護師になれるようしっかりとサポートして欲しい。
社会人になるための基礎力を養成して欲しい。
挨拶・服装・言葉遣い・時間を守ることなど、生徒の品位を向上させて欲しい。

地域の願い

進学実績を上げて欲しい。
優秀な看護師を養成して欲しい。
地域外へ進学しても、最終的には地元で働く人材を育成して欲しい。
地域に根ざした学校であって欲しい。

教職員の願い

確かな学力を獲得させ、進路希望を実現させたい。
自己指導能力を育成したい。
持続可能な地域社会をつくるユネスコスクールとしてのグローバルな人材を育成したい。
安全で安心な学習環境を整備したい。

学校において定める内容

名称「真庭トライ&レポート(略称:TR)」 トライ:実体験を重視する, レポート:必ず発表に結びつける(成果発表会・まとめ冊子・外部コンテストやイベントへの参加)

<p>目標を実現するにふさわしい探究課題</p> <p>地域の課題に対して、五感を通した体験活動を積み重ねることによって、改善策・解決策について考える。 体験活動においては、質と量の向上を心がける。(体験の量を増やして質の向上を図る)</p> <p>1学年:課題別グループ探究活動 学校周辺の地域の課題について考える。</p> <p>2学年前期:修学旅行を利用した職場体験学習 2学年後期:課題別グループ探究活動 真庭市全体の地域の課題について考える。</p> <p>3学年:進路別課題探究活動 進路希望に応じて、地域(学校周辺・真庭市・岡山県・日本・アジアなど)の課題について考える。</p>	<p>探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>論理的思考力</p> <p>インプット(聞く・読む)時・アウトプット(話す・書く)時に、シンキングツールを積極的に活用できる。</p> <p>聞いたり読んだりしたこと、を、分かりやすくまとめて、論理的に伝えることができる。</p> </td> <td> <p>協働性</p> <p>みんなで協力できる。</p> <p>各自の強みを生かして分担できる。</p> <p>集団で意見を出し合える。</p> </td> <td> <p>ねばり強さ</p> <p>〈失敗=×〉ではないことを理解する。 (失敗から学び、改善策を考えて次につなげる)</p> <p>試行錯誤を前向きに繰り返し、PDCAサイクルをまわすことができる。</p> <p>積極的に疑問を持ち、体験を通して疑問を解決できる。 (『?』→『体験』→『!』)</p> </td> <td> <p>地域参画力</p> <p>(=地域貢献力)</p> <p>地域課題解決の担い手として、地域と積極的につながることができる。</p> <p>地域に関心を持つ。</p> <p>地域の課題を知る。</p> <p>地域の人と協働する。</p> </td> </tr> </table>				<p>論理的思考力</p> <p>インプット(聞く・読む)時・アウトプット(話す・書く)時に、シンキングツールを積極的に活用できる。</p> <p>聞いたり読んだりしたこと、を、分かりやすくまとめて、論理的に伝えることができる。</p>	<p>協働性</p> <p>みんなで協力できる。</p> <p>各自の強みを生かして分担できる。</p> <p>集団で意見を出し合える。</p>	<p>ねばり強さ</p> <p>〈失敗=×〉ではないことを理解する。 (失敗から学び、改善策を考えて次につなげる)</p> <p>試行錯誤を前向きに繰り返し、PDCAサイクルをまわすことができる。</p> <p>積極的に疑問を持ち、体験を通して疑問を解決できる。 (『?』→『体験』→『!』)</p>	<p>地域参画力</p> <p>(=地域貢献力)</p> <p>地域課題解決の担い手として、地域と積極的につながることができる。</p> <p>地域に関心を持つ。</p> <p>地域の課題を知る。</p> <p>地域の人と協働する。</p>
<p>論理的思考力</p> <p>インプット(聞く・読む)時・アウトプット(話す・書く)時に、シンキングツールを積極的に活用できる。</p> <p>聞いたり読んだりしたこと、を、分かりやすくまとめて、論理的に伝えることができる。</p>	<p>協働性</p> <p>みんなで協力できる。</p> <p>各自の強みを生かして分担できる。</p> <p>集団で意見を出し合える。</p>	<p>ねばり強さ</p> <p>〈失敗=×〉ではないことを理解する。 (失敗から学び、改善策を考えて次につなげる)</p> <p>試行錯誤を前向きに繰り返し、PDCAサイクルをまわすことができる。</p> <p>積極的に疑問を持ち、体験を通して疑問を解決できる。 (『?』→『体験』→『!』)</p>	<p>地域参画力</p> <p>(=地域貢献力)</p> <p>地域課題解決の担い手として、地域と積極的につながることができる。</p> <p>地域に関心を持つ。</p> <p>地域の課題を知る。</p> <p>地域の人と協働する。</p>					

学習活動

週1時間(1・3年生…月曜日6限、2年生…金曜日6限)

1学年:ものごとを調べ、まとめる方法を学習する。

2学年:自ら課題を設定し、調べ、まとめ、発表する方法を学習する。

3学年:自らの進路実現に向けて、具体的に必要な内容を学習する。

指導方法

HR担任の枠を越え、各学年団全教員で指導に当たる。

少人数グループを編成し、各担当教員の指導のもと、学習に取り組む。

外部講師招聘や企業訪問など、校外へ積極的に赴く体験的な学習場面を設けるように配慮する。

指導体制

TR推進リーダー、TR推進チーム、TR総務からなる実施組織を中心に指導体制を構築する。

TR小委員会が全体計画・年間指導計画を作成する。

全体計画に基づき、各学年団で具体的な学習活動計画を作成し、実施する。

共有サーバーを利用し、ワークシートなど各学年団・過年度の資料を有効活用する。

学習の評価

TR小委員会で評価規準を作成する。

学習の過程での取組や、完成したレポート・プレゼンテーションなどから総合的に評価する。

生徒一人ひとりの個人内で、能力や態度に伸びが見られたかどうかを中心に評価する。

評価規準をもとに、観点別に評価を行う。

各教科等との関連

シンキングツールを活用して、論理的思考力を育成する。
各教科指導において、表現活動(スピーチ・プレゼンテーション・ポスターセッションなど)を積極的に取り入れ、TRと関連づけて指導する。

コンピュータや本・新聞・テレビなどを通して情報を収集する方法だけでなく、五感を通してアンケートやインタビューなど直接情報を収集する方法についても、TRと関連づけて指導する。

地域や大学との連携

病院・福祉施設・こども園・市役所などの地域の施設を活用する。

卒業生・保護者を含めた地域の人材も活用する。

落合・久世を中心とした真庭市という地域だけでなく、津山市・新見市といった近隣の地域にも目を向けて広く地域との連携を求めてゆく。

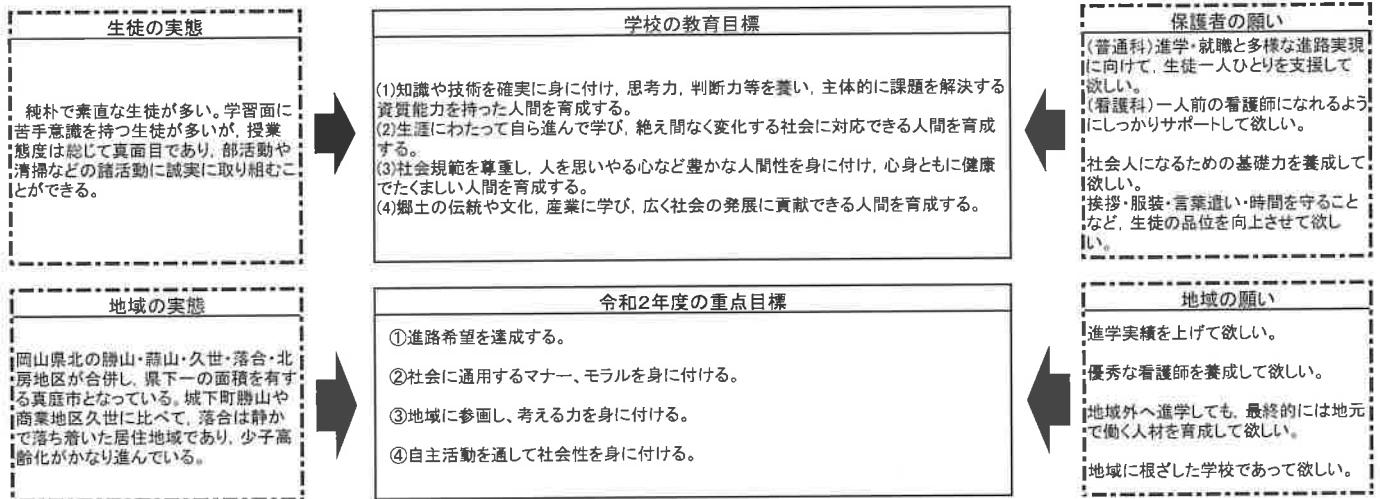
小・中学校や他の高等学校との連携

平素の取組については適宜HP上のブログを通じて各方面に発信していく。

年度末に学習活動の集大成の場として、成果発表会を行い、近隣小・中学校や他の高等学校の教職員を招待し、活動内容について知らせる。また、地域の方々(卒業生の就職先企業など)を招待し、活動内容について知らせる。[1学年・2学年]

令和2年度(3年生) 総合的な学習の時間(落合校地) 全体計画

岡山県立真庭高等学校(落合校地)



総合的な学習の時間目標 1 探究的学習や進路学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。 2 情報収集や情報整理の能力を身に付けさせるとともに、プレゼンテーション機器などを用いながら公の場で堂々と発表できる能力を育成する。
--

育てようとする資質や能力及び態度 1 【論理的思考力】 インプット(聞く・読む)時・アウトプット(話す・書く)時に、シンキングツールを積極的に活用できる。 分かりやすくまとめて、論理的に伝えることができる。 2 【協働性】 みんなで協力できる。 各自の強みを生かして分担できる。 集団で意見を出し合える。 3 【ねばり強さ】 (失敗=x)ではないことを理解する。(失敗から何を学ぶかが大切) 試行錯誤を前向きに繰り返し、PDCAサイクルをまわすことができる。 積極的に疑問を持ち、体験を通して疑問を解決できる。(['?']→['体験']→['!'])	内容(学習事項) 名称「真庭トライ&リポート(略称:TR)」 1学年:課題別グループ学習【1, 2, 3】 2学年前期:修学旅行を利用した職場体験学習【1, 2, 3】 2学年後期:課題別グループ学習【1, 2, 3】 3学年:進路別課題学習【1, 2, 3】 ※【 】内の番号は、対応する「育てようとする資質や能力及び態度」を示す。
---	--

学習活動 週1時間(1・3年生…月曜日6限、2年生…金曜日6限) 1学年:ものごとを調べ、まとめる方法を学習する。 2学年:自ら課題を設定し、調べ、まとめ、発表する方法を学習する。 3学年:自らの進路実現に向けて、具体的に必要な内容を学習する。	指導方法 HR担任の枠を越え、各学年団全教員で指導にあたる。 少人数グループを編成し、各担当教員の指導のもと、学習に取り組む。 外部講師招聘や企業訪問など、校外へ積極的に赴く体験的な学習場面を設けるように配慮する。	指導体制 TR推進リーダー、TR推進チーム、TR研究開発チーム、TR総務からなる実施組織を中心に指導体制を構築する。 総学小委員会で全体計画・年間指導計画を作成する。 全体計画に基づき、各学年団で具体的な学習活動計画を作成し、実施する。 共有サーバーを利用し、ワークシートなど各学年・過年度の資料を有効活用する。	学習の評価 総学小委員会が評価規準を作成する。 学習の過程での取り組みや、完成したレポートなどから総合的に評価する。 生徒一人ひとりの個人内で能力や態度に伸びが見られたかどうかを中心に評価する。 評価規準をもとに、観点別に評価を行う。
---	---	---	--

各教科との関連 シンキングツールを活用して、論理的思考力を育成する。 各教科指導において、表現活動(スピーチ・プレゼンテーション・ポスターセッションなど)を積極的に取り入れ、TRと関連づけて指導する。 コンピュータや本・新聞・テレビなどを通して情報を収集する方法だけでなく、五感を通してアンケートやインタビューなど直接情報を収集する方法についても、TRと関連づけて指導する。	地域との連携 病院・福祉施設・こども園・市役所などの地域の施設を活用する。 卒業生・保護者を含めた地域の人材も活用する。 落合・久世を中心とした真庭市という地域だけでなく、津山市・新見市といった近隣の地域にも目を向けて広く地域との連携を求めてゆく。	中学校や就職先・進学先との連携 平素の取り組みについては適宜HP上のブログを通じて各方面に発信していく。 年度末に学習活動の集大成の場として、成果発表会を行い、近隣中学校の教職員を招待し、活動内容について知らせる。また、地域の方々(卒業生の就職先企業など)を招待し、活動内容について知らせる。[1学年・2学年]
---	--	--

学年	時期	柱 つきたい力 探究活動 7つのプロセス	五感を通じた実体験を！ (体験の質・量の向上) ※以下はABC3段階評価で『A』◎の姿を表します。			
			論理的思考力	協働性	ねばり強さ	地域参画力
1年時	4月～5月	①HOW TO LEARN ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ (課題別グループ学習) ※担当教員主導・グループ単位	★シンキングツールの活用 ・インプット【聞く・読む】 ・アウトプット【話す・書く・行動する】	★グループが「チーム」になるために ・グループで1つのことに取り組む ・グループで複数のことに役割分担をする	★PDCAサイクル Plan計画・Do実行・Check評価・Act改善 ★OODAループ Observeみる・Orientわかる・Decideきめ ★「失敗=×」ではない! →成功へのステップ!	・地域の人・機関とつながる ・地域に貢献する
			・インプット (講義・講義会・資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用しようとする。	・グループ内で自分の意見を発言できる。 ・グループ内で他者の意見を尊重できる。	・全体テーマ導入の場面で、意欲的に取り組むことができる。 ・テーマ設定・計画立案に対して意欲的に取り組むことができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を活用する考えを持つことができる。 ・地域の課題に対して知ろうとする。
			・インプット (資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用しようとする。	・グループ内で自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・失敗を恐れず、積極的に行動 (体験活動) することができる。 ・失敗を前向きに捉え、次につなげるここができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
			・アウトプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で役割分担を協議して発表準備に取り組むことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・地域の課題解決に向けて取組から今後の課題を考えることができる。
			・インプット (講義・講義会・資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用できる。	・グループ内で自分の意見を積極的に発言できる。 ・グループ内で他者の意見を積極的に尊重できる。	・全体テーマ導入の場面で、意欲的に取り組むことができる。 ・テーマ設定・計画立案に対して意欲的に取り組むことができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・地域の課題に対して知ろうとする。
			・インプット (資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールの活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用できる。 ・地域の課題解決に向けて具体的な考えを提案できる。
			・アウトプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
2年時	6月～12月	②WHAT TO LEARN グループで課題を設定し、調べる (課題別グループ学習) ※生徒主体・グループ単位	・インプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用できる。 ・地域の課題解決に向けて具体的な考えを提案できる。
			・インプット (講義・講義会・資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・インプット (資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールの活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・アウトプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・インプット (講義・講義会・資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・インプット (資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールの活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・アウトプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
3年時	4月～5月	③HOW TO LIVE 個々の進路実現・卒業後のために学ぶ (進路別課題学習) ※進路実現に直結・個人単位	・インプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・インプット (講義・講義会・資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・インプット (資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールの活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・アウトプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・インプット (講義・講義会・資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・インプット (資料集め・情報収集) の場で、ワークシートにしたがってシンキングツールの活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。
			・アウトプット【話す・書く (発表・PPT作成・まとめ用子)】の場で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動 (体験活動) に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもちつづけることができる。 ・ゴールの具現化を持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート (友人・家族・先生・地域住民など) を積極的に活用する考えを持つことができる。 ・自分の進路と地域の課題を結びつけて考えることができる。



岡山県立真庭高等学校

総合的な探究（学習）の時間

■2014年9月25日ユネスコスクール加盟承認 ⇒ ESD(持続可能性)の視点
■2019年5月～真庭SDGsパートナー ⇒ Think Globally Act Locally

真庭トライ&リポート (TR)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

H22, H23 岡山県学力向上プロジェクト「高等学校教科指導致導ハリーアツク事業」研究指定
H24, H25 教育課程研究指定校事業「思考力・判断力・表現力」

トライ：五感を通じた実体験重視
リポート：必ず発表に結びつける姿勢（まとめ冊子・発表会・外部イベントなど）

3年生：HOW TO LIVE
進路実現・卒業後の生活のために学ぶ
※進路実現に直結・個人

2年生：WHAT TO LEARN
自分で課題を設定し、調べる
※生徒主体・グループ単位

1年生：HOW TO LEARN
ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ
※担当教員主導・グループ単位

1年生普通科・看護科 月曜6限
2年生普通科・看護科 金曜6限
3年生普通科 月曜6限

五感を通じた実体験 質・量の向上

TRを通して身につけさせたい4つの力

論理的思考力

ねばり強さ

協働性

地域参画力

シンキングツール活用（OUTPUT書く話す行動する ⇒ INPUT聞く読む）

【失敗×じゃない！】 ⇒ 失敗体験（試行錯誤）からの気づき

【集団がチームになるまで】 ⇒ みんなで一つのこと・各自の強みで役割分担

【＝地域貢献力】 ⇒ 地域に関心、地域課題の理解、地域の人との協働

令和2年度 真庭トライ&レポート (TR) 成果発表会

令和 3年 2月 5日 (金)
岡山県立真庭高等学校落合校地

【受付】 9:00～ 9:30

- 1 日程説明 (中山) <応接室> 9:30～ 9:35
講師案内 (事務室にお願い) 資料配付・日程説明 (中山)、教室棟に移動
1・2年生共通: 課題別グループ探究活動・学校全体テーマ「SDGs」
MANIWA チャンネル・こち防チャンネル・ユネスコチャンネル
講師案内 (住野先生・副校長→①1階講義室)

- 2 1年生発表会 <教室棟1～3階> 9:45～10:35

~~~~~ 落合総合センターへ移動 (講師送迎・教頭) ~~~~~
  
- 3 2年生発表会 <落合総合センター> 11:05～12:25
  
- 4 指導・講評 <落合総合センター> 12:25～12:40  
  
~~~~~ 学校へ移動 ~~~~~

- 5 アンケート記入・担任講評 <各HR> 13:30～14:00

- 6 研究協議 <会議室> 司会進行 (教頭) 14:10～15:30
(1) 副校長挨拶
(2) TR研究成果発表 (森年)
(3) 指導・助言 中国学園大学 副学長 住野 好久 氏
(4) その他

- 7 閉会挨拶 (教頭) 15:30～

※令和3年度TR成果発表会は令和4年2月4日(金)の予定です。

令和2年度 真庭トライ&レポート 成果発表会 プログラム

R03.02.05 (02.02修正版)

■ 1年生発表会 【50分】 (9:45-10:35) 課題別グループ探究活動 学年テーマ『SDGs』 【MANIWA】【こち防】【ユネスコ】 3チャンネルの番組をそれぞれお楽しみください。

【11分(発表8分+質疑応答3分)】 → 【教室内待機2分】 → 【11分(発表8分+質疑応答3分)】
----- 次の会場に移動してください。(生徒が案内) 【移動2分】 -----
【11分(発表8分+質疑応答3分)】 → 【教室内待機2分】 → 【11分(発表8分+質疑応答3分)】

※会場間の移動については、生徒がご案内いたします。(タイムキーパー：井上)

| 会場(会場担当教員) | テーマ | 生徒(◎司会進行と教室移動ご案内) |
|--------------|------------------------------|-----------------------|
| ① 1階講義室〔青野〕 | こ：真庭高校生にできる災害対策についての研究 | ◎山本大誠・瀧本稔・中塚麻景・古堤心 |
| | こ：食から考える避難所経営 | ◎野村一貴・西山智哉・平山和・山崎百々花 |
| ② 1年1組HR〔乙部〕 | ユ：3ヵ国の衣食住(日本、ブルガリア、韓国) | ◎久保琴充・前田彩花 |
| | ユ：地域の祭りと世界の祭り | ◎谷本芽依・岩崎麗奈・小野夕香子・名越優里 |
| ③ 1年2組HR〔麻田〕 | M：真庭の森林について | ◎池本早織・瀬島勝也・杉山大翔・政吉心優 |
| | M：真庭の石灰を使った製品が世界中で使われているかも！? | ◎榎本陽奈・志田純香・横山樹香・坂井亜友菜 |
| ④ 2階講義室〔池田〕 | M：真庭市の野生動物の現在 | ◎今石和希・黒岩大地・鈴木萌美・森本湖音 |
| | M：川の水質と生物の関係について | ◎杉山蒼弥・柴田鷹翔・金田唯那・佐々木愛 |
| ⑤ 3年1組HR〔井上〕 | M：祭について～久世祭りと勝山祭りのちがいを～ | ◎宮本菜桜・中川照太・瀬恒秀太・倉松采未 |
| | M：ぶどうと梨ができるまで～1年を比較～ | ◎樋口美咲・野島小晴・藤本遥 |
| ⑥ 3年2組HR〔井上〕 | M：コロナ下でのストレスと子供たちへの影響 | ◎山本友翔・中島季来・高藤穂乃花 |
| | | |
| ⑦ 3階講義室〔中川〕 | こ：災害時の小児の生活とメンタルケア | ◎西田圭佑・桑木恒太・村瀬まひる・長沼凜 |
| | こ：トイレの必要性～災害が起きたときのために～ | ◎屋敷千颯・西田葵・谷口久利生 |
| ⑧ 2年1組HR〔竹田〕 | M：うし(ジャージー牛)について | ◎鎌崎真衣・中西彪斗・池田愛友・白田芽生 |
| | M：久世祭りを活性化 | ◎濱戸美羽・高下奈々・浅雄萌 |
| ⑨ 2年2組HR〔藤田〕 | M：バイオ液肥について | ◎立石晃誠・江原暖稀・石田凜・平井千羽 |
| | M：まちかど展覧会の歴史や展示物について | ◎吉田壮汰・滝山見汰・石田欄・浜田桜花 |

□ 落合総合センターへ移動 【30分】 (10:35-11:05) 徒歩で西門から・会場座席誘導着席指示(山口・森下)
講師の先生方(教頭送迎)、生徒は10:45生徒昇降口集合→まとまって移動(1年担任は生徒と同行、2年団◎小林・山口サンプラ交差点)

■ 2年生発表会 【80分】 (11:05-12:25) 課題別グループ探究活動 学年テーマ『SDGs』

1. 副校長挨拶(3分) 2. 発表(7分×8組) 司会：大林久姫・岡崎芹奈

| 順 | チャンネル【担当教員】 | テーマ | 代表生徒 |
|---|-------------|---------------------------|----------------------|
| 1 | MANIWA〔宗田〕 | 落合ヒカリプロジェクト | 澤山希望・小野愛美・築澤ありさ・河原真心 |
| 2 | MANIWA〔宗田〕 | 子どもの豊かな想像力を育む映像教材 | 黒田真衣・佐田光・出口璃々・寺崎友香 |
| 3 | MANIWA〔難波〕 | 国際交流を地域活性化へ | 遠藤翔・長尾愛楓・尾崎葵・服部海成 |
| 4 | MANIWA〔中山〕 | Let's think!! ～考えることの大切さ～ | 森谷光喜・森元偉楓・中川心那・船木優愛花 |
| 5 | MANIWA〔中山〕 | 定山で ディスカバる 俺達 | 松岡壺織・丸本裕士・村上太郎・坂本勇輝 |
| 6 | MANIWA〔沼野〕 | 「真庭」をたずね 「私」を知る | 小見山結名・寺崎千夏・藤田梨紗子・牧美澪 |
| 7 | こち防〔矢吹〕 | 障がい者と防災 | 仁澤亜紀・小林伊織・宮地樹音・森下真妃 |
| 8 | ユネスコ〔宮地〕 | 海外の食と文化 | 浅尾心・大原菜緒・貝阿彌葵・加藤愛梨 |

■ 指導講評 【15分】 (12:25-12:40)

中国学園大学副学長 住野好久先生

□ 学校へ移動(1年生は教室棟片付け)・昼食(各HRにて)・休憩 【50分】 (12:40-13:30)

■ TRアンケート記入+担任講評【30分】 (13:30-14:00) ◎各HR

□ SHR(参観者の方は会議室へご移動お願いします) 【10分】 (14:00-14:10) ◎各HR

■ 研究協議 【80分】 (14:10-15:30) ◎会議室

①副校長挨拶(5分)→②TR研究成果発表(森年30分)→③指導・助言(住野好久先生30分)

令和2年度真庭トライ&レポート成果発表会 講師の先生からのおことば

■中国学園大学副学長 住野好久先生より（平成22年度から11年連続）



コロナ禍ということでも心配していたが、『例年以上』と言ってよい発表内容だった。これは、コロナの中でも地域に出て行ってさまざまな方々と体験活動に取り組んだ成果だろう。それは、コロナに対して配慮をしながら、生徒のみなさんががんばったことであると言えるし、学校として先生方もがんばったとも言え、地域の方々もがんばって協力してくれたことの表れであるとも言える。まずは労をねぎらいたい。

今日の1年生2年生の発表を聞きながら感じたこと。まず、本校のみなさんは『TRを通して大人になっていく』のだと感じた。小中学校時代は総合的な学習の時間で地域に行き地域の人に教えてもらう、そういった『教えてもらう側』だったのではないか。ところが高校でTRになると、教えてもらうのではなく、『地域の人と一緒に考えて、地域の担い手の一人として、地域に貢献できることを探し提案していく』。また、与えられた課題に対して言われたとおりのやり方で取り組むこれまでの学び方と異なり、TRを通して、『自分で課題を見つけて自分なりのやり方で解決していく学び方』を身に付けていっている。そんなことを考えていると、2年生の発表の中に、定山に行って自然の中で自らを見つめ成長したという発表があり、TRを通して大人になっていくという僕の仮説は当たっていると思った。



【みなさんの優れた探究と発表にあった特徴5点】

①わくわく感がある：そのテーマを探究することが自分の将来やこの真庭地域の未来に関わっていくというわくわく感。そういうテーマは、やる側も楽しく本気になれるし、聞く側も聞いていて楽しくなる。

②探究過程に工夫がある：（例1）地域の人力を借りるという探究過程。困ったとき・もっとうまくやりたいというときに、地域にいるさまざまなスキルをもった人に教えてもらう。画像編集の方法を教えてもらっていた班もあった。自分たちで全部やろうと思わず、地域の人力を借りる。（例2）チームで語り合う探究過程。誰か一人の意見でどんどん進んでしまうのではなく、みんなで語り合っ、目標とゴールを共有し役割分担をして進めていく、そういうことができたチームが2年生代表として発表していたと思う。

③ゴールや活動に関する焦点化が行われている：テーマが大きいままだと、右に行き左に行きと右往左往してしまう。他にも魅力的なやりたいことはあるけど、『最後のゴールはこれだ！』という絞り込みをしているのは素晴らしい成果を生むと思う。

④仮説を立てて調査している：仮説を立てないと、こんなふうになりました、こんなふうになりましたと『やっておしまい』になってしまう。仮説をあらかじめ設定しておく、調査の過程が仮説検証の過程となり、探究として深まっていく。

⑤振り返りをしている：優れた発表は、途中、失敗やうまくいかないことがあっても、じゃあどうしたらうまくいくだろうかとしっかり振り返って改善している。そういう振り返りや改善のプロセスが行われたところが今日の2年生代表の班になったはず。さらに、この振り返りは、失敗してもうまくいかななくてもあきらめずにがんばるといふ、TRの身に付けさせたい力の一つ『粘り強さ』の育成にもなっている。

高等学校というのは確かに教科の学力をつけることが大切であるが、それだけではない。人生百年時代と言われる、目標に向かって一生学び続ける力や仲間といっしょに目の前の課題を解決していく創造的な解決力といった、TRでこそ身に付く力が今後必要となる。ぜひこれからもTRで学びを深め、そういった力を将来発揮してもらいたい。



■中国学園大学副学長 住野好久先生より



真庭高校に入ってTRで直面する、小中学校までの学びと高等学校での学びとの違い、真庭高校のTRが求めている学び方、そこにうまくのっていている生徒と、うまくのっていていない生徒がいるのではないかと感じた。そこで、ぜひTRで自立した大人として自律した学び方ができるような力を身に付けてもらいたいというメッセージを込めて、生徒に向けて『本校生徒はTRを通して大人になっていく、そういうトレーニングを受けていくんだ』という話をした。

主体的な学習者、主体的に学習できる生徒というのはどういう生徒なのか。この話の裏側にあるのは『自己調整学習論 (Self-Regulated Learning)』。自らマネジメントしながら学びを進められるために必要となる3つの要素：①動機付け（学びたいという思い）②学習方略（ストラテジー。どうやって学べば良いのか学習方略を持っていること）③メタ認知（振り返り。たえず自分の学びをモニタリングして、自分の学びがどうなのか、なぜつまづいたのか、何が良かったのか、モニタリングしながら改善を進めていくこと）という論がある。今日の生徒たちの発表は、この自己調整学習論の3要素を高めていく学びだったのではないかという意味づけをした。

①動機付け：TRする意味は？TRするのはなぜ？それが揺れている生徒もいるが、優れた発表をしたグループはそこが明確だった。将来教育者になりたいからとか、うちの学校に避難してきた人たちに役立ちたいとか。『高校生だからこそ子どもたちや障がいを抱えている人たちに関わっていける』と答えた1年生がいた。この子は自分の取り組んでいるテーマの価値・意義をよく理解している。動機をどうやって生徒たちに持たせていくのかが1つの課題。

②学習方略：問題設定ができるスキル、疑問を見つける力。ブルガリアのパンを食べて（まずい）と思ったと同時に（なぜこんなまずいものを毎日たべるのか）と思ったはずなのにそこが探究のテーマ・問になっていかない。こういう素朴な疑問を探究していくのも面白く、難しい高尚なものをテーマに選ばないといけなわけではない。問のハードルを下げるのも大切。

私が非常に納得したのは『焦点化』『仮説を立てる』この2つ。私自身今でも研究を続けていて、研究は結局どれだけ絞り込めるか。今自分たちは何にこだわりたいのかという絞り込み、これは人間関係が良くないとできない。班員4人それぞれにやりたいことがあって、どれに取り組むか1つに絞る、Aさんの考えを採用して残りの考えを採用しないという、人間関係に関わる問題になりうる。焦点化はとても大切で、それが人間関係論的な落とし穴に入り込まないように教員はアドバイスする必要がある。AさんとBさんは違うことを言っているようで実はここが同じなんじゃないかと共通部分を伝えて一体化するなど。生徒たちは発表の中で『焦点化』ということばでよく表現できていたと感心した。次に、仮説を立てて調査することとても重要。学校の先生の実践研究でも仮説がなく実践と結果のみのレポートが多く、仮説を立てて検証していく研究スタイルがなかなか日本人には定着しない。この研究スタイルを生徒たちに経験させていくというのは重要で、そこに気づいたグループがいるというのもとても素晴らしい。

③メタ認知（振り返り・リフレクション）：生徒の発表を見て振り返りがよくできていると思っていたが、森年先生の研究発表を聞いて、そういう指導が丁寧に行われてきたからだと理解した。Google Classroomの有効活用で日常的な振り返りがよくされている。『自分のことばで表現できるようになった』という振り返りを生徒がしたときに、教員がその変化を意味づけてあげることが大切。ことばの力だけでなく、ことばで表現しようとし続けた粘り強さ、書けない・無理だとあきらめなかったレジリエンスという力など。生徒の自己評価・自分の学び・客観視して出てきた変化を教員が意味づけてあげることができるととても良い。生徒たちの発表でも身に付けさせたい4つの力について自己評価できていて、自己成長に気づく評価観点としてよい活用の仕方だ。

森年先生の発表の中で、生徒の学びの実態について調査を通して把握して、その事実に基づいて改善を図るといえるのはとても重要。そのデータから指導を改善していく、指導と評価の一体化という説明だったが、『指導の改善』というより『カリキュラムの改善』が必要なのではないか。1学期、2学期、3学期の到達目標を明確にして、その目標に到達するためにどう指導プロセスを組み立ていくのか、そしてそのカリキュラムをやってみて目標は達成できたかどうか評価する。ステップ、ステップがもう少しはっきりするのではないか。

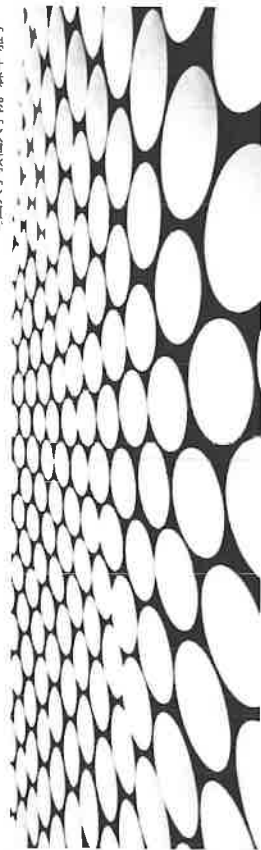
最後に、TRと各教科とのつながりが見える化するカリキュラムマップがあると役立つし、生徒は教科横断的な学び・その活用を意識できるようになる。岡山大学附属中学校のものを参考に。



自分の価値を見いだせる「総合的な探究の時間」

-自ら人生の舵をとることができる生徒の育成のために-

岡山県立真庭高等学校寄校地
岡山大学教職大学院 森年 雅子



学習指導要領の改訂

課題を解決することで自己の生き方を考えていく学び

- ▶ 自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開

総合的な探究の時間

- ▶ 学校教育目標との直接的な関係を持つ唯一の時間として教育課程上に位置づけられる。
- ▶ 各教科等を横断して資質・能力を統合する教育課程上の役割を担う。
- ▶ 学校独自のカリキュラムをデザインするという「教育課程の起点」と考えられる領域。

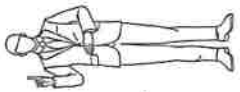
田中幸・藤瀬志保「探究」を探究するー本気で取り組む高校の探究活動ー、学事出版、2017

総合的な探究の時間（森年まとめ）

- ▶ 特定の親学問をもつ教科には入らない。
- ▶ 子どもと地域の実態に応じて、教科横断的な教育課程を編成し、**個性的な授業**ができる。
- ▶ 協動的に探究活動に取り組むことで、**領域固有の認識論や実践の方法**を学ぶ。
- ▶ 教科書を使わない。それに代わって授業の基本構造に**探究課題**を位置づける。
- ▶ 生徒だけが学ぶための時間というより、**教師も同様に、生徒の一連の学習活動を通して、問題の深刻さを考え、多様な人々に出会い、世界にも視野を広める**など、探究の醍醐味を味わえる。
- ▶ 高等学校は、道徳の授業が存在せず、**心の教育や自己の在り方生き方を**正面から深く考えさせる授業が少ないため、総合的な探究の時間はキーとなる教育活動。

豊かな体験的学びには振り返りが重要！


結局、うちのグループの活動、どうなの？ (内省→概念化)



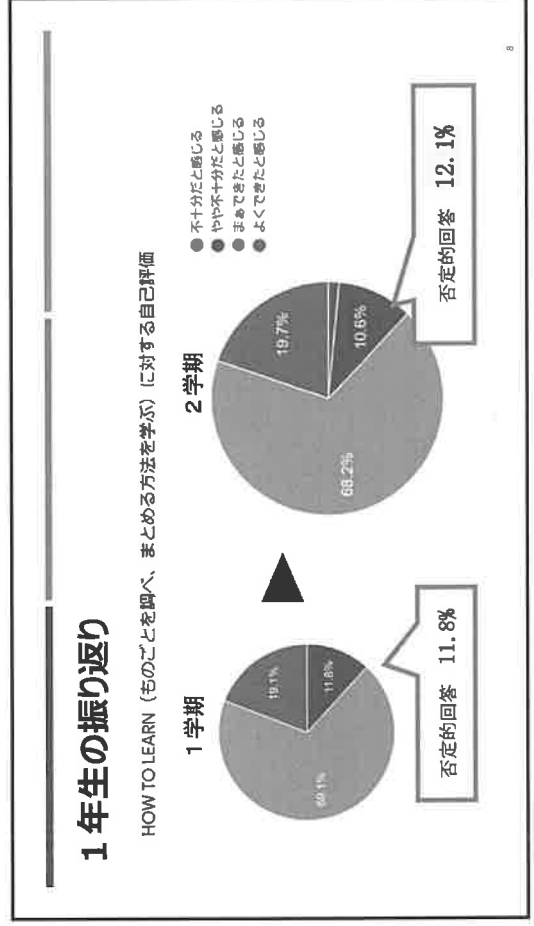
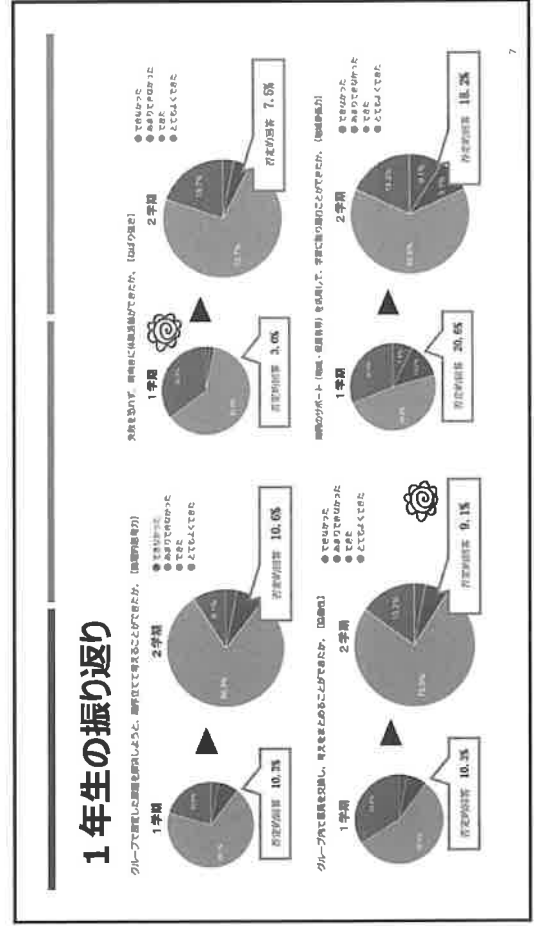
各学期終わりに振り返り。
フィードバックシートを活用して
ベクトル合わせをしましょう！

リフレクション質問項目（長期休業中課題）

- TRで身につけさせたい4つの力
- 各学年指導段階
- 取組内容・学び・次学期への抱負
- 見通し・意欲・協働・受容・価値・主体性に関する問い
- (3年) 進路意識・自己効力感
- グループの成長点
- 自身の成長点
- TR活動への協力者と協力内容
- 先生からのアシスト
- 自由記述



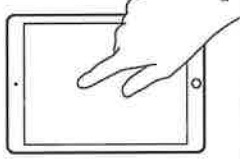
丁寧に振り返ってみると
新しい視点が現えてきた！



2 学年での積極的取組

OGoogle Classroomの活用

- ① 教師からの評価、思考のアウトプットの促し
- ② 生徒からの質問・気づき
 - タイムリーなやりとりで生徒に高評価
 - 言語表現活動の幅が広がる
- ③ 他者の介入→活動のヒント



担当の先生から

先生からの評価

先生からのメッセージ

第三者からのアドバイス

14

4月の自分と比べながら振り返り

2020/11/27
4月のころと比べて自分のしたいことや自分ができていることがわかってきたと思います

2020/12/24
4月ころと比べて自分なりに積極的になれたと思います。それのおかげか、何事にも前向きに考えられるようになったと思います。

1月5日
4月頃と比べて実行力が身につきました。(出した案は全て実行)

1月12日
4月当初の目標は一人で何もできなかつたけど、仲間と協力することで、目標を達成していくうちに、どんな目標的になっても打ち合わせの頻度も増え、やりたいことをみんなと共有することで、企画力や個性にも負けないコミュニケーションが出来るようになったり、時にはほめてくれる言葉も使ったりに対して面白いくらいコミュニケーションが出来るようになったり、時にはほめてくれる言葉も使ったりによって、想像力が増えコミュニケーション力が上がった。さらに、打ち合わせの役割で計画していたプランをすべて実行することで、自分に自信がたまってきた。みんなTRが面白いと思えるようになった。ですが、最近のTRでは自分がいい役割をやらせてもらってとても気持ちいい。失礼しました。以上です。

15

外部講師の講義と生徒からの相談

外部講師の講義

生徒からの相談

16

| 項目 | 1学期肯定的回答 | 2学期肯定的回答 |
|---|----------|----------|
| 【論理的思考力】
インプット(講義や講演、資料集めなど)の場面で、自分で情報を整理して考えることができたか。 | 12.8% | 2.4% |
| 【協働性】
自分の進路実現のために他者(先生・支人・地域等)と協働して探究活動に取り組むことができたか。 | 7.7% | 2.4% |
| 【ねばり強さ】
失敗を恐れず、自分で目標を立て、前向きに活動ができたか。 | 18.0% | 2.4% |
| 【地域参画力】
周囲のサポート(地域・保護者等)を積極的に活用して、学習に取り組むことができたか。 | 12.8% | 2.4% |
| HOW TO LIVE (進路実現・卒業後の生活のために学ぶ)に対する自己評価 | 20.6% | 4.9% |

17



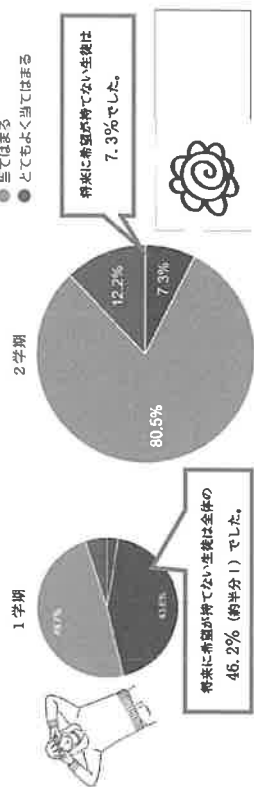
3年生の振り返り

| 項目 | 1学期肯定的回答 | 2学期肯定的回答 |
|---|----------|----------|
| 【論理的思考力】
インプット(講義や講演、資料集めなど)の場面で、自分で情報を整理して考えることができたか。 | 12.8% | 2.4% |
| 【協働性】
自分の進路実現のために他者(先生・支人・地域等)と協働して探究活動に取り組むことができたか。 | 7.7% | 2.4% |
| 【ねばり強さ】
失敗を恐れず、自分で目標を立て、前向きに活動ができたか。 | 18.0% | 2.4% |
| 【地域参画力】
周囲のサポート(地域・保護者等)を積極的に活用して、学習に取り組むことができたか。 | 12.8% | 2.4% |
| HOW TO LIVE (進路実現・卒業後の生活のために学ぶ)に対する自己評価 | 20.6% | 4.9% |

19

3年生振り返り

<将来展望>
私の将来には希望が持てる。



3年生振り返り (フィードバックシート掲載)

○進路学習を進めていく中で、しつかりと自分と向き合い、自分の強みや長所を自覚することができた。これから先、その強みや長所が君たちの軸となる！

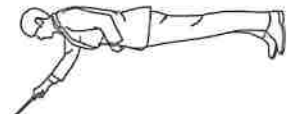
○高校時代には考えられないような社会の荒波にこれから立ち向かう。上手くいかなかったらうっていちいちシヨグていたら君たちの価値は下がるぞ！

○レジリエンス (打たれ強い心) を高めるには、他者との繋がりがややセルコントロールが大切！

○社会に出てから対人スキル、対応力、柔軟な思考力等は伸ばしていくかなければならない重要な力。

○少し先の将来をイメージして、自分で決めたことに責任を待とう。

○卒業はゴールじゃない！ 次のSTEPへ！



21




＜3年生からメッセージ＞
後輩たちの目に留まるよう、指導要領の裏に貼りに掲示。先輩からのアドバイスが盛りだくさん！

後輩の語り！

多分 経験＝成長
先輩の方々は自分達を誇りにしている！
最初は不安。チームワーク大切！
TRは自分のレベル上げ。
TRは自分のレベル上げ。
TRは自分のレベル上げ。

22

TRキーワード



社会

資源 (ヒト・モノ)

学校教育目標

各教科

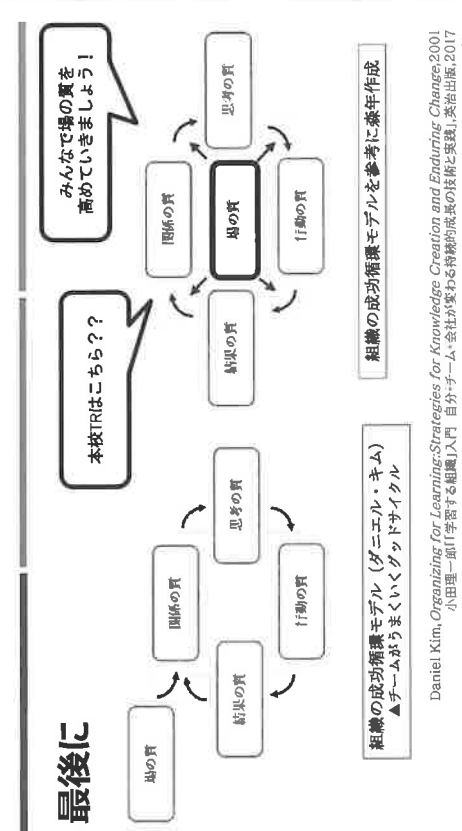
進路実現

つながり・結びつき

学びの土壌・集団の質の向上
安心・安全/協働/対話の場/地域・社会への夢画

23

最後に



みんなで場の質を高めよう！

本校TRはこちら??

場面の質

結果の質

関係の質

思考の質

行動の質

組織の成功循環モデル (ダニエル・キム)
▲チームがうまくいくグッドサイクル

組織の成功循環モデルを参考に毎年作成

Daniel Kim, *Organizing for Learning: Strategies for Knowledge Creation and Enduring Change* 2001
小田理一 (前) 学習する組織入門 自カ・チーム・会社が変わる特種的成長の技術と実践, 実業出版, 2017

24

真庭Try&Report (TR) PPT作成講習会資料 (令和元年度1年生中間発表会に向けて作成したものを編集)

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

1. TR1年生中間発表会<10月28日(月)>

3チャンネル×6班=全18班
(7分発表+2分質疑応答) 配布資料自由

- ・プレゼン形式(パワーポイント)
- ・観覧者を意識して、原稿なしで大きな声でハッキリとユックリと
- ・伝わりやすいスライド作成を心がけて

※TR成果発表会 令和2年2月7日(金)
8分発表+3分質疑応答、9教室で全18班発表
(大学・高校・地域の方々が来校→質疑あり！)

1

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

2. 発表用スライドの流れ(例)

※発表用スライドは1枚(タイトル・メンバー)+6枚の合計7枚で作るのがオススメ!
まとめ冊子原稿作成時に、この最初の一枚を削除するだけでよいので楽!。年度末原稿提出の際は忙しいぞ!

活動の目的・きっかけ

取り組んだ内容(過去)

結果に対する考察・気づき(現在)

成果・今後の課題(未来)

まとめ・感想・SDGs17のアイコンの図2、3枚

※この流れが絶対ではないが、主要ポイントは外さないように!

2

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

3. 発表用スライドのラストに

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

自分たちの取り組んだことが17の目標の何につながるかを考えたが、最後のまとめ・感想のスライドに2、3枚のアイコンを選んでね!

SDGs⇔TR
Think globally, Act locally
つながりの実感

3

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

4. まとめ冊子(成果報告書)原稿作成

スライド6枚(手書きの解説)モノクロ

①活動の目的・きっかけ(タイトル・メンバーはページ上に入力)

②～⑤取り組みの内容・考察

⑥成果・今後の課題・まとめ

12月作成スタート→2月末提出

スライドに加えて、必要な情報・解説をスライド下に入力。

※だから、発表スライドは1枚(タイトル・メンバー)+6枚の合計7枚で作るのがオススメ!

※別紙まとめ冊子作成マニュアルあり

4

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

5. スライドの作り方 伝わりやすいスライドとは

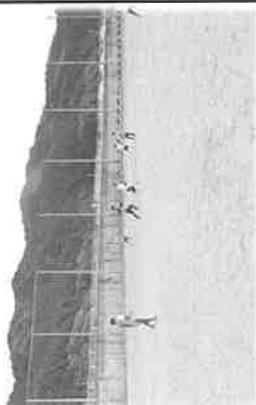
- **文字の大きさ**(大きすぎず、小さすぎず)
- **文字の量**(少なめで。口頭で伝えれば良い)
- **色使い**(スクリーン映り具合も要確認)
- **アニメーション**(むやみに使わない)
- **イラスト・写真・図・表**(伝わりやすい)

6

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

6. 写真を使うと…

- ① **Aさんの畑は1ヘクタールもあります！(1ヘクタールって伝わる?)**
- ② **1ヘクタール=100m×100m**
- ③ **Aさんの畑は1ヘクタール**
ちよど落合校地のグラウンドくらい
(伝わるでしょ!)



6

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

7. 写真を使うと…

自分たちが写っている
→ 実体験している様子が伝わる

写真選びのポイント

- ◎ 何をしているかよく分かる
- ◎ 関係ない人が写っていない
- ◎ 伝えたい部分だけを切り取る

校外に出て行ったときの記録など、
頻繁に写真を撮っておくべき！
★ 恥ずかしいとか言って写真に写らない人がいると、チームみんなが最終的に困るぞ！



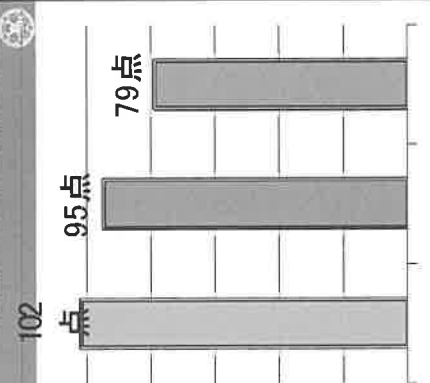
7

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

8. 図や表を使うと…

- ① **体育祭の順位は、1位A組102点、2位B組95点、3位C組79点でした。**
- ② **体育祭の順位**

| | | |
|----|----|------|
| 1位 | A組 | 102点 |
| 2位 | B組 | 95点 |
| 3位 | C組 | 79点 |



8

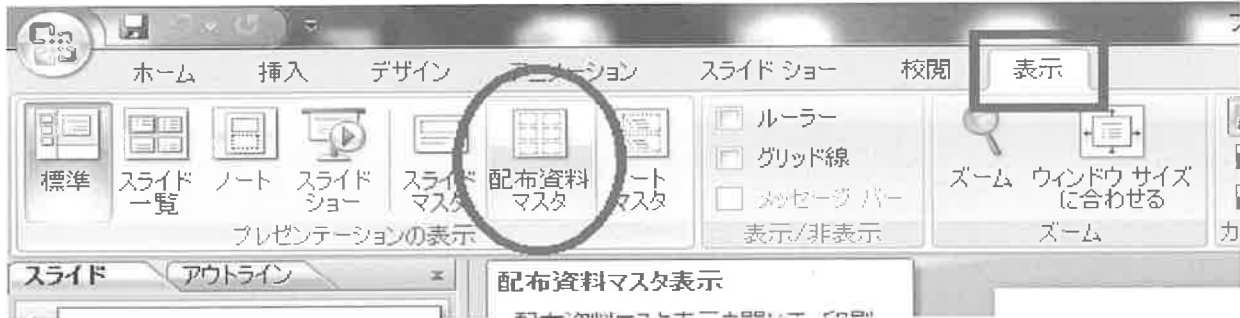
| 岡山県立真庭高等学校(落合校地) 総合的な探究(学習)の時間 アンケート集計 | | | 肯定的回答 | | | | 肯定的回答 | | | | 肯定的回答 | | | | | | |
|--|------|---------------------------------------|--|---------|----------|----------|-------------------------|---------|----------|----------|---------|----------|---------|---------|---------|-------|--|
| 視点 | 観点 | NO | R02 | | | | R01 | | | | H30 | | | | | | |
| | | | 全生徒
1FN
2FN
3F | 3年
普 | 2年
普普 | 1年
普普 | 全生徒
1FN
2FN
3F | 3年
普 | 2年
普普 | 1年
普普 | 3年
普 | 2年
普普 | 2年
普 | 2年
普 | 1年
普 | | |
| 令和2年度全体集計 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習意欲に関する事 | 課題設定 | 1 | 日常生活の中で「知りたいな」と思うことや「不思議だな、なぜだろう」と思うことがある。 | 89.4 | 97.4 | 92.6 | 80.0 | 87.0 | 82.2 | 88.6 | 88.4 | 91.4 | 85.3 | 80.4 | 95.5 | 87.8 | |
| | 課題設定 | 2 | 何か分からないことや困ったことがあった時に、どこに問題があるかを考えることができる。 | 88.2 | 94.7 | 88.2 | 83.6 | 83.7 | 84.4 | 84.3 | 82.6 | 93.1 | 80.9 | 82.6 | 77.3 | 90.2 | |
| | 課題設定 | 3 | 課題解決の道筋を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる。 | 81.9 | 92.1 | 82.1 | 74.5 | 74.5 | 84.4 | 67.1 | 75.4 | 77.6 | 69.1 | 65.2 | 77.3 | 70.7 | |
| | 収集分析 | 4 | 解決したいことを、書籍やインターネット等を使って調べることができる。 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 96.7 | 97.8 | 95.7 | 97.1 | 98.3 | 97.1 | 95.7 | 100.0 | 97.6 | |
| | 収集分析 | 5 | 解決したいことを、電話やメール、インタビューでたずねることができる。 | 67.7 | 71.1 | 72.1 | 60.0 | 66.8 | 80.0 | 65.7 | 59.4 | 74.1 | 61.8 | 69.6 | 45.5 | 63.4 | |
| | 収集分析 | 6 | 収集した情報が正しいかどうかについて考えることができる。 | 93.1 | 94.6 | 95.6 | 88.9 | 84.7 | 95.6 | 81.2 | 81.2 | 96.6 | 82.4 | 78.3 | 90.9 | 87.8 | |
| | 収集分析 | 7 | 課題の解決に役立つ情報がどうかを考えながら、情報を集めることができる。 | 92.5 | 94.7 | 92.6 | 90.9 | 89.7 | 88.9 | 85.7 | 94.2 | 91.4 | 91.2 | 89.1 | 95.5 | 87.8 | |
| | 思考判断 | 8 | 収集した情報を関連づけて、比較したり、推測したりして考えを広げることができる。 | 81.4 | 84.2 | 82.4 | 78.2 | 81.0 | 88.9 | 80.0 | 76.8 | 84.5 | 77.9 | 73.9 | 86.4 | 73.2 | |
| | 思考判断 | 9 | 課題の原因や現状等を理解して、自分の考えを持つことができる。 | 91.9 | 92.1 | 94.1 | 89.1 | 87.0 | 91.1 | 87.1 | 84.1 | 94.8 | 85.3 | 82.6 | 90.9 | 75.6 | |
| | 思考判断 | 10 | 課題を解決する時に、何から始めれば良いか優先順位を付けることができる。 | 88.2 | 92.1 | 85.3 | 89.1 | 84.2 | 86.7 | 82.9 | 84.1 | 75.9 | 73.5 | 71.7 | 77.3 | 75.6 | |
| | 思考判断 | 11 | 課題の解決のために、複数の方法を考えることができる。 | 81.4 | 86.8 | 85.3 | 72.7 | 82.1 | 88.9 | 84.3 | 75.4 | 77.6 | 72.1 | 69.6 | 77.3 | 70.7 | |
| | 表現省察 | 12 | 相手や目的に合わせて、自分の考えの根拠を明確に整理して表現することができる。 | 75.0 | 78.9 | 72.1 | 75.9 | 78.1 | 84.4 | 73.9 | 78.3 | 86.2 | 58.8 | 65.2 | 45.5 | 63.4 | |
| | 表現省察 | 13 | 学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習や生活に生かすことができる。 | 85.7 | 89.5 | 85.3 | 83.6 | 84.2 | 84.4 | 81.4 | 87.0 | 79.3 | 79.4 | 73.9 | 90.9 | 85.4 | |
| 自分自身に関する事 | 意思決定 | 14 | 人とは異なる意見でも、自分の考えを状況に応じて伝えることができる。 | 83.2 | 86.8 | 80.9 | 83.6 | 77.6 | 84.4 | 84.3 | 66.2 | 82.8 | 70.6 | 65.2 | 81.8 | 75.6 | |
| | 意思決定 | 15 | 自分の考えに責任を持ち、自分がすべきことを決定できる。 | 83.0 | 84.2 | 83.6 | 81.5 | 82.1 | 84.4 | 84.3 | 78.3 | 89.7 | 73.5 | 67.4 | 86.4 | 90.2 | |
| | 計画実行 | 16 | 課題解決に向けて、見通しをもって行動できる。 | 81.4 | 81.6 | 77.9 | 85.5 | 82.1 | 88.9 | 78.6 | 81.2 | 72.4 | 70.6 | 78.3 | 54.5 | 75.6 | |
| | 計画実行 | 17 | 自分の役割を自覚し、計画的に行動できる。 | 84.4 | 81.6 | 86.6 | 83.6 | 86.4 | 88.9 | 85.7 | 85.5 | 82.8 | 73.5 | 73.9 | 72.7 | 92.7 | |
| | 計画実行 | 18 | 失敗しても、もう一度挑戦したり、最後までやり遂げたりしようとする。 | 93.2 | 92.1 | 92.6 | 94.5 | 88.0 | 95.6 | 90.0 | 81.2 | 93.1 | 85.3 | 80.4 | 95.5 | 92.7 | |
| | 自己理解 | 19 | 自分の良いところや得意なことをあげることができる。 | 74.5 | 81.6 | 72.1 | 72.7 | 67.4 | 86.7 | 67.1 | 55.1 | 75.9 | 64.7 | 63.0 | 68.2 | 68.3 | |
| | 自己理解 | 20 | 自分は、地域や社会から必要とされていると思う。 | 75.0 | 84.2 | 72.1 | 72.2 | 64.1 | 77.8 | 67.1 | 52.2 | 65.5 | 57.4 | 58.7 | 54.5 | 70.7 | |
| | 自己理解 | 21 | 学習や生活での気付きを、自らの改善につなげている。 | 83.9 | 89.5 | 86.8 | 76.4 | 80.9 | 88.9 | 78.6 | 77.9 | 77.6 | 67.6 | 69.6 | 63.6 | 78.0 | |
| | 将来展望 | 22 | 自分の将来について考えることがある。 | 96.9 | 100.0 | 95.6 | 96.4 | 97.3 | 97.8 | 97.1 | 97.1 | 96.6 | 86.8 | 87.0 | 86.4 | 100.0 | |
| | 将来展望 | 23 | 興味や関心のある職業をいくつかあげることができる。 | 88.8 | 89.5 | 91.2 | 85.5 | 89.1 | 93.3 | 94.3 | 81.2 | 96.6 | 80.9 | 78.3 | 86.4 | 87.8 | |
| | 将来展望 | 24 | 人の役に立てる人になりたいと思う。 | 97.5 | 100.0 | 95.6 | 98.2 | 94.0 | 97.8 | 97.1 | 88.2 | 93.1 | 91.2 | 89.1 | 95.5 | 100.0 | |
| 他者や社会に関する事 | 他者理解 | 25 | 異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う。 | 96.9 | 100.0 | 95.6 | 96.3 | 94.6 | 100.0 | 91.4 | 94.2 | 100.0 | 89.7 | 89.1 | 90.9 | 97.6 | |
| | 他者理解 | 26 | 異なる立場や考え方の良いところを見付けることができる。 | 91.3 | 94.7 | 89.7 | 90.9 | 89.1 | 91.1 | 90.0 | 87.0 | 88.3 | 85.3 | 82.6 | 90.9 | 85.4 | |
| | 協同 | 27 | 話し合いの時に、班やクラスの意見をまとめることができる。 | 66.5 | 68.4 | 64.7 | 67.3 | 62.0 | 73.3 | 70.0 | 46.4 | 55.2 | 57.4 | 60.9 | 50.0 | 46.3 | |
| | 協同 | 28 | お互いの良いところや違いを認め、協力することができる。 | 95.0 | 94.7 | 95.6 | 94.5 | 92.3 | 93.2 | 95.7 | 88.2 | 93.1 | 86.8 | 82.6 | 95.5 | 92.7 | |
| | 協同 | 29 | 異なる意見から得た気付きを生かして、考えを発展させることができる。 | 82.5 | 84.2 | 85.3 | 77.8 | 80.4 | 88.9 | 80.0 | 75.4 | 91.4 | 75.0 | 67.4 | 90.9 | 82.9 | |
| | 共生 | 30 | 環境への影響を考えて、行動することができる。 | 90.1 | 89.5 | 92.6 | 87.3 | 84.8 | 93.3 | 84.3 | 79.7 | 93.1 | 82.4 | 82.6 | 81.8 | 82.9 | |
| | 共生 | 31 | 人や生き物の生命を守り、ともに生きようと思う。 | 96.3 | 100.0 | 95.0 | 94.5 | 90.2 | 95.0 | 100.0 | 92.8 | 100.0 | 89.7 | 84.8 | 100.0 | 97.6 | |
| | 共生 | 32 | 自分の生活だけでなく、社会全体のことを考えたいと思う。 | 87.6 | 92.1 | 88.2 | 83.6 | 85.2 | 93.2 | 84.3 | 81.2 | 89.7 | 85.3 | 84.8 | 86.4 | 90.7 | |
| | 社会参画 | 33 | 地域社会の一員として、自分にできることはないかと考えたことがある。 | 74.5 | 78.9 | 75.0 | 70.9 | 77.5 | 86.7 | 76.5 | 72.5 | 81.0 | 75.0 | 76.1 | 72.7 | 82.9 | |
| | 社会参画 | 34 | 社会や地域の課題解決に向け、主体的に活動したいと思う。 | 79.9 | 84.2 | 77.6 | 79.6 | 76.5 | 91.1 | 75.4 | 68.1 | 81.9 | 61.6 | 69.6 | 63.6 | 90.2 | |
| | 社会関心 | 35 | 日本国内で起きている出来事について、自分で調べたり、考えたりすることができる。 | 75.2 | 76.3 | 79.4 | 69.1 | 70.1 | 75.6 | 71.4 | 65.2 | 60.3 | 63.2 | 63.0 | 63.6 | 75.6 | |
| 社会関心 | 36 | 世界で起きている出来事について、自分で調べたり、考えたりすることができる。 | 67.1 | 76.3 | 70.6 | 56.4 | 66.3 | 75.6 | 67.1 | 59.4 | 44.8 | 54.4 | 60.9 | 40.9 | 75.6 | | |
| 学習活動に関する事 | 価値認識 | 37 | TRは生きていく上で大切なことを学んでいると思う。 | 93.2 | 100.0 | 95.6 | 85.5 | 90.8 | 91.1 | 90.0 | 91.3 | 89.7 | 88.2 | 87.0 | 90.9 | 100.0 | |
| | 価値認識 | 38 | TRは楽しい。 | 88.8 | 86.8 | 91.2 | 87.3 | 79.7 | 77.8 | 82.6 | 77.9 | 84.5 | 69.1 | 65.2 | 77.3 | 87.8 | |
| | 価値認識 | 39 | TRは、何を勉強しようとしているのかわからない。(反転項目) | 16.3 | 18.9 | 13.2 | 18.2 | 28.3 | 42.2 | 28.6 | 18.8 | 17.2 | 27.9 | 32.6 | 18.2 | 29.3 | |
| | 学習意欲 | 40 | TRに一生懸命取り組んでいる。 | 96.9 | 97.4 | 95.6 | 98.2 | 91.8 | 95.6 | 89.7 | 91.3 | 93.1 | 88.2 | 84.8 | 95.5 | 97.6 | |
| | 学習意欲 | 41 | 教科で学習したことを生かして、TRで調査や分析をしている。 | 82.0 | 86.8 | 82.4 | 78.2 | 68.5 | 82.2 | 72.9 | 55.1 | 72.4 | 72.1 | 65.2 | 86.4 | 68.3 | |
| | 学習意欲 | 42 | TRでは、今まであまり考えなかった問題に取り組んでいる。 | 93.8 | 92.1 | 94.1 | 94.5 | 87.5 | 91.1 | 87.1 | 85.5 | 86.2 | 79.4 | 80.4 | 77.3 | 92.7 | |
| | 価値認識 | 43 | 教科の学習とTRはつながっていると感じることがある。 | 82.6 | 86.8 | 86.8 | 74.5 | 79.2 | 86.4 | 84.3 | 69.6 | 75.9 | 66.2 | 60.9 | 77.3 | 80.5 | |
| | 価値認識 | 44 | TRで学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う。 | 93.2 | 97.4 | 94.1 | 89.1 | 91.3 | 95.6 | 94.3 | 85.5 | 89.7 | 82.4 | 78.3 | 90.9 | 92.7 | |
| | 学習意欲 | 45 | 家族とTRについて話すことがある。 | 49.1 | 57.9 | 48.5 | 43.6 | 50.0 | 73.3 | 48.6 | 36.2 | 43.1 | 47.1 | 45.7 | 50.0 | 58.5 | |
| | 学習意欲 | 46 | TRで取り組んでいる課題について、新聞やテレビなどで見たたり聞いたことのあることがある。 | 58.4 | 76.3 | 63.2 | 40.0 | 65.8 | 73.3 | 60.0 | 66.7 | 51.7 | 50.0 | 54.3 | 40.9 | 68.3 | |

まとめ冊子原稿A 作成マニュアル 印刷前の設定！！

¥¥WS5420DN611D¥otiai_terastation¥2020 データ作成注意 過去1年分のみコピー可¥T_TR(真庭
トライ&リポート)¥000.作成マニュアル (PPT・まとめ冊子原稿 AB)

☆設定する手順

「表示」タブの「配布資料マスタ」をクリック



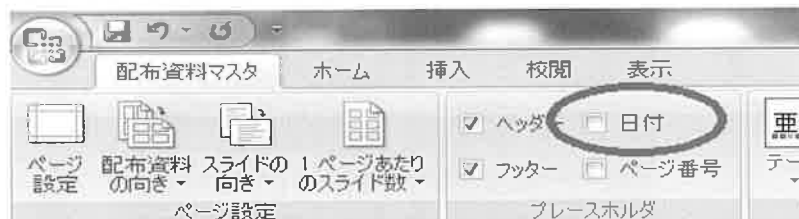
①発表者名の入力

左上のヘッダーに名前を入力



②日付の削除

日付のチェックをはずす



③ページ番号の削除

ページ番号のチェックをはずす



④挿入

横書きテキストボックス

フォントサイズ10で160文字以内

☆ 印刷手順 ☆

① 「印刷」もしくは「印刷プレビュー」画面にする。

The screenshot shows the 'Print' menu in a presentation software. The menu items are: 上書き保存, 名前を付けて保存, 開く, 閉じる, 情報, 最近使用したファイル, 新規作成, **印刷**, 保存と送信, ヘルプ, オプション, 終了. The '印刷' (Print) option is highlighted. Below the menu, the '印刷' (Print) dialog is open, showing a printer icon, the number of copies (1), and a list of printers including 'RICOH imagio MP 5000 RPCS'. Under the '設定' (Settings) section, the 'スライド指定' (Slide Selection) dropdown is expanded, showing options: '6 スライド (横) 配布資料 (6 スライド/ページ)', '片面印刷', and '部単位で印刷'. The '6 スライド (横) 配布資料 (6 スライド/ページ)' option is highlighted with a red box. Below this, there are options for '縦方向' and 'グレースケール'.

【完成イメージ】
 網掛けの部分にコメントを書く。
 詳しくは前年度冊子を参照。

The image shows a grid of presentation slides for a 'Soil Disaster Experiment' (土砂災害実験). The slides are arranged in a 2x3 grid. The top-left slide is titled '土砂災害実験' and contains a table with columns '45°' and '60°' and rows 'I', 'II', 'IV', and 'III'. The top-right slide is titled 'メンバーなど' and contains a flowchart. The bottom-left slide is titled '実験の分析' and contains a table with columns '結果について' and '原因について'. The bottom-right slide is titled '岡山大学訪問' and contains a table with columns '結果について' and '原因について'. The grid is surrounded by a pattern of small squares, representing the 'grid' mentioned in the text.

美作地域の寺社と神仏習合



- 一、化生寺
- 二、両山寺
- 三、神仏習合
- 四、木山寺・木山神社
- 五、まとめ
- 六、将来に向けて

2年2組 前川 貴紀
3組 小林 詩歩
三村 香奈代

私達がこのテーマを設定した理由は、私達が歴史に興味があり、今年が美作の国、健国1300年なので美作地域に焦点をあて身近な寺社を調査しようと思、たからです。

両山寺 (久米郡美咲町)

- ・お寺が神様をお祀りしている
- ・降神の奇祭として有名な護法祭



714年に秦澄大師によって建てられました。両山寺のある二上山という山は古くから靈山として信仰を集めており、寺を建てた際に祀ったこの山の神様のために、毎年お祭りをを行う。

木山寺・木山神社の成り立ち

木山寺と木山神社は元々「木山宮」と呼ばれていたお宮でした。しかし、明治の神仏分離の政策により、神と仏が別々のものとされ、現在の形に鎮まりました。

化生寺 (美作山形町)

- ・境内に神社が建てられた
- ・伝説の秋狐を封じた殺生石




1386年当時の勝山藩主 三浦貞宗によって建てられました。お寺の中に鳥居があるのは不思議な光景ですが、これは元々お寺があった場所に神社を呼びよせたからだそうです。このお寺には、「九尾の狐の伝説」にまつわる石が祀られています。

化生寺や両山寺が神様という異質な存在を受け入れられたのは、神仏習合の歴史のおかげです。それぞれのお寺の住職さんに、神仏習合ならば、ぜひ木山寺・木山神社を調べたらどうかとおすすめのされ調査をしました。

まとめ・将来に向けて

- ・現在では再び神と仏の境目があいまいになっている
- ・日本人独特の家系観が生まれた



- ・楽しい企画展示のできる宇野目になる 小林 詩歩

現在では仏壇と神棚が一つの場所に存在したりと神仏の境目が再びあいまいになってきている。私達は今回の経験を自分の将来に生かしていきたいと思、います。

真庭SDGsパートナー登録書

岡山県立真庭高等学校 殿

貴殿を真庭SDGsパートナーに登録しました。

貴殿の宣言内容

真庭SDGsパートナー宣言書

1 関係するSDGs目標（ゴール）

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|--|----------|---|-----------|---|
| (1)貧困 | | (2)飢餓 | | (3)保健 | ○ | (4)教育 | ○ |
| (5)ジェンダー | | (6)水・衛生 | | (7)エネルギー | | (8)成長・雇用 | |
| (9)イノベーション | | (10)不平等 | | (11)都市 | | (12)生産・消費 | |
| (13)気候変動 | | (14)海洋資源 | | (15)陸上資源 | ○ | (16)平和 | |
| (17)実施手段 | ○ | | | | | | |

2 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する内容

Think Globally Act Locally

- ユネスコスクールとしてSDGs目標達成に向けて学校全体で取り組みます。
- 【学校全体】こちら高校市民課防災係『通称こち防』で地域と協働して防災活動に取り組みます。
- 【普通科・看護科】真庭トライ&リポート『通称TR』（総合的な学習の時間、総合的な探究の時間）の取組を通して、SDGsについて学び、高校生にできることを地球的な視野で考え、地域で行動します。
- 【生物生産科・食品科学科】真庭市と連携・協働し、ジビエを活用した商品開発や、バイオ液肥実証研究に取り組みます。
- 落合校地が中心となり、真庭市内2校4校地で真庭いきいきテレビ『SDGsって何？』番組協働制作。（令和元年5月～令和2年3月）

真庭市



岡山県立真庭高等学校



【代表者（校長）】豊田 涼 【担当者】中山 順充
【住所】落合校地：〒719-3144真庭市落合垂水448-1 / 久世校地：〒719-3202真庭市中島143

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



団体の概要

机に向かうだけでなく、**地域をフィールドに活動する、それが真庭高校です。**

【落合校地普通科】21世紀を生き抜くための「新しい学力」を育み、あなたの夢を咲かせます！

【落合校地看護科・専攻科】看護師資格取得への最短コース！5年一貫教育で専門知識を身に付け、看護の心を育てます！

【久世校地生物生産科】緑を育み、人とふれあい、社会で輝く実践力を身に付けます！

【久世校地食品科学科】地産地消を実現する“職のスペシャリスト”を目指します！

宣言内容

Think Globally Act Locally

『真庭高×地域』動かすのは、ペンだけじゃない

【学校全体】こちら高校市民課防災係『通称こち防』で地域と協働した防災活動、ユネスコスクールとしてESD（持続可能な社会開発のための教育活動）に取り組みます。

【普通科・看護科】真庭トライ&レポート（TR）SDGsを全体テーマとして、高校生にできることを地球的な視野で考え、地域で行動します。

【生物生産科・食品科学科】真庭市と連携・協働して、ジビエを活用した商品開発やバイオ液肥実証研究に取り組みます。

SDGsに関する特徴的な取組

真庭トライ&レポート（TR）令和2年度2年生



『落合ヒカリプロジェクト』
アートでまちを元気に！



『国際交流を地域活性化へ』
高校生から見た真庭 高校生から見た世界

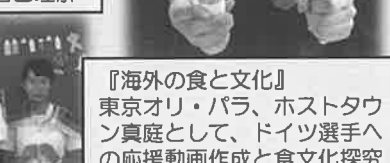


『子どもの豊かな想像力を育む映像教材』
デジタル動画教材の制作と子ども教育

『Let's think!!~考えることの大切さ』
水質検査を通して考える！



『S定山でDディスカバる俺達 uys』
アウトドア体験で地域理解・自己理解



『海外の食と文化』
東京オリ・パラ、ホストタウン真庭として、ドイツ選手への応援動画作成と食文化探究

『障がい者と防災』災害時に障がいを抱えた人に役立つコミュニケーション道具開発。
ヒノキ素材で真庭高校生みんなのスクールバッグにつけてもらいたい！



× 高校生 × 地域資源活用

真庭SDGsパートナー一覧

(R03.02.02現在)

| 番号 | 企業・団体名 | 番号 | 企業・団体名 | 番号 | 企業・団体名 |
|----|--------------------------|-----|----------------------|-----|-------------------|
| 1 | ランデス株式会社 | 61 | 東真産業株式会社 | 121 | 草澤水路組合 |
| 2 | 株式会社イシン住宅研究所 | 62 | 参画まにわ | 122 | 有限会社靛湖の里 |
| 3 | 中高年から始めるらくらくピアノサークルinまにわ | 63 | 津山人権擁護委員協議会真庭地区 | 123 | 株式会社真庭運創研 |
| 4 | 株式会社藤岡エンジニアリング | 64 | 真庭市DV被害者サポーター | 124 | 株式会社村松木工所 |
| 5 | 株式会社グリーンピア蒜山 | 65 | 真庭市立遷喬小学校 | 125 | 株式会社イマガワ |
| 6 | 株式会社マルイ | 66 | 真庭市電水協同組合 | 126 | 有限会社名和香美堂 |
| 7 | 梶岡建設株式会社 | 67 | ワイテック工業株式会社 | 127 | 牧野木材工業株式会社 |
| 8 | 服部興業株式会社 | 68 | ひるぜんワイン有限公司 | 128 | 山縣電機工業株式会社 |
| 9 | 大島技術コンサルタント株式会社 | 69 | 岡山県小学校長会真庭支部 | 129 | 株式会社蒜山興業 |
| 10 | 真庭農業協同組合 | 70 | 岡山県中学校長会真庭支部 | 130 | 有限会社中村工業所 |
| 11 | 株式会社三謳 | 71 | 岡山地方方法務局津山支局 | 131 | パートナーシップ |
| 12 | 有限会社エコライフ商友 | 72 | 真庭市立河内小学校 | 132 | 清音金属工業株式会社津山工場 |
| 13 | 銘建工業株式会社 | 73 | 一般社団法人真庭観光局 | 133 | 岡山県真庭地区猟友会 |
| 14 | 十字屋グループ | 74 | 岡山パールライス株式会社 | 134 | オーティス株式会社 |
| 15 | 株式会社アストピア蒜山 | 75 | まにわ・しめ山プロジェクト | 135 | 三栄源エフエフアイ株式会社岡山工場 |
| 16 | 公益財団法人真庭エスパス文化振興財団 | 76 | 有限会社ファインアートかわばた | 136 | 一般社団法人コミュニティデザイン |
| 17 | 特別養護老人ホーム千寿荘 | 77 | 社会福祉法人秋桜会 | 137 | Mdenネット真庭店 |
| 18 | 株式会社ヒルゼン高原センター | 78 | 真庭地域自立支援協議会 | 138 | 福田農機株式会社 |
| 19 | 山下木材株式会社 | 79 | 株式会社齋藤燃系 | 139 | 津山信用金庫 |
| 20 | (株)HAPPY FARM plus R | 80 | 中国電力株式会社津山営業所 | 140 | 大和リース株式会社岡山デポ |
| 21 | 岡山トヨタ自動車株式会社 | 81 | 真庭市環境衛生協議会 | 141 | 株式会社道満石油店 |
| 22 | NPO法人真庭めぐりガーデンプロジェクト | 82 | 一般社団法人真庭市医師会 | 142 | ピタゴラス放課後真庭 |
| 23 | CHICK | 83 | 真庭市議会 | 143 | 一般社団法人真庭青年会議所 |
| 24 | 有限会社フクモトタクシー | 84 | 株式会社すえ木工 | 144 | 岡山県立勝山高等学校 |
| 25 | 岡山県立真庭高等学校 | 85 | 小林測量設計株式会社 | 145 | 株式会社ツリーサービス |
| 26 | 真庭圏域危険物安全協会 | 86 | 真庭交通安全協会 | 146 | まにわフッジョイ |
| 27 | 真庭市栄養改善協議会 | 87 | 真庭市人権教育推進委員会 | 147 | 蒜山食品加工株式会社 |
| 28 | 株式会社トシボ | 88 | 株式会社四方一商店 | 148 | 株式会社平出建設 |
| 29 | 合同会社PORT-LAIT | 89 | NPO法人子育て支援の会「サポートあい」 | 149 | 株式会社カネカ |
| 30 | 真庭歯科医師会 | 90 | 放課後児童クラブ ピオキッズ学童クラブ | 150 | JA晴れの国岡山真庭女性部 |
| 31 | 真庭市愛育委員会 | 91 | 昭和化学工業株式会社 | 151 | 株式会社岡田組 |
| 32 | 株式会社三木工務店 | 92 | 真庭市立久世中学校 | 152 | 西日本電信電話株式会社 岡山支店 |
| 33 | 一般社団法人岡山県建築士会真庭支部 | 93 | 真庭市立北房小学校 | 153 | 有限会社西本建設 |
| 34 | 真庭市消防団 | 94 | 真庭市立湯原小学校 | 154 | 株式会社中国銀行 |
| 35 | 一般財団法人真庭スポーツ振興財団 | 95 | 真庭市立湯原中学校 | 155 | 鳥越工業株式会社 |
| 36 | 真庭市老人クラブ連合会 | 96 | 真庭市立八束小学校 | 156 | 有限会社手打ちうどん味平 |
| 37 | 公益社団法人真庭市シルバー人材センター | 97 | 真庭市立落合中学校 | 157 | 竹藤建設株式会社 |
| 38 | 岡山県建設業協会真庭支部 | 98 | 真庭市立木山小学校 | 158 | 株式会社ベブルフードオペレーション |
| 39 | 真庭森林組合 | 99 | 真庭市立川上小学校 | 159 | 河井林産株式会社 |
| 40 | 真庭木材事業協同組合 | 100 | 真庭市立北房中学校 | 160 | ベッド通販セラビス |
| 41 | 真庭市立草加部小学校 | 101 | 真庭市立美川小学校 | 161 | 美作ピアワークス |
| 42 | 真庭バイオマス発電株式会社 | 102 | 真庭市立余野小学校 | 162 | 木工房ものたね |
| 43 | 真庭市立天津小学校 | 103 | 真庭市立蒜山中学校 | 163 | 0867合同会社 |
| 44 | 社会福祉法人真庭市社会福祉協議会 | 104 | 真庭市立櫻呂小学校 | 164 | まるいおやつとパン moi |
| 45 | 真庭市民生委員児童委員協議会 | 105 | 真庭市立勝山小学校 | 165 | 株式会社MATSURIKA |
| 46 | 真庭地区保護司会 | 106 | 真庭市立落合小学校 | 166 | 合同会社蒜山耕藝 |
| 47 | 岡山県栄養士会真庭支部 | 107 | 真庭市立富原小学校 | 167 | 中国防災工業株式会社 |
| 48 | 真庭市文化連盟 | 108 | 真庭市立川東小学校 | 168 | 株式会社柴田工務店 |
| 49 | 真庭商工会 | 109 | 真庭市立美甘小学校 | 169 | 志田工業株式会社 |
| 50 | 有限会社ダイサン | 110 | 真庭市立勝山中学校 | 170 | 真庭リユースプラザの会 |
| 51 | テクノス株式会社真庭支店 | 111 | 有限会社竹中商店 | 171 | 大進建設株式会社 |
| 52 | 株式会社明日香 | 112 | 真庭市立米来小学校 | 172 | 合同会社ウーラ |
| 53 | 株式会社マニワプラン | 113 | 真庭市立中和小学校 | 173 | リサイクルプラザまにわの会 |
| 54 | 株式会社ケーアイケーコンサルタント | 114 | 生活協同組合おかやまコープ | | |
| 55 | 有限会社ナラサキシビルエンジニア | 115 | 株式会社三協商建 | | |
| 56 | 大成コンサルタント真庭支店 | 116 | 岡山県農業共済組合 | | |
| 57 | 株式会社アークコンサルタント真庭営業所 | 117 | 岡山県立勝山高等学校蒜山校地 | | |
| 58 | 株式会社ウジョウ | 118 | 有限会社富永ふとん店 | | |
| 59 | 岡山県看護協会真庭支部 | 119 | 真庭市内郵便局 | | |
| 60 | 真庭市立月田小学校 | 120 | 家庭食堂 ROOF | | |



第1学年

井上・麻田・青野
中川・田中・池田
藤田・竹田・乙部

令和2年度 1年生 課題探究サポートA 真庭トライ&レポート (TR) 年間活動計画

| 月日 | 探サポA (月曜5限) | | | | | TR (月曜6限) | | | | | |
|--------|--|-------------|---------------|----------|----|---|-----------------------|-----------|-------------|--|------|
| | 内容 | 形態 | 活動場所 | 担当者 | 回 | 内容 | プロセス | 評価 | 形態 | 活動場所 | 担当者 |
| 6月1日 | ① Lesson01
人に分かりやすく伝えるコツ | 普通科/
看護科 | 会議室/
1-3HR | 竹田 | ① | ■TR導入、TRムービー・真庭Tryやってみる、Report人に伝える、3年間の見直し
■SDGsについてIPPT講師:Think Globally, Act Locally
■各チャンネル活動IPPT講師:長明後すぐ希望議題配布・記入・提出 | (1)テーマ導入 | 評価
I | 普通科/
看護科 | 会議室/
1-3HR | 乙部 |
| 6月8日 | ② Lesson02
主張には根拠を | 各クラス | 各HR | 担任 | ② | | (2)テーマ設定
(3)探究活動計画 | | | | |
| 6月15日 | ③ Lesson03
論理的なおかしさを見抜く | 各クラス | 各HR | 担任 | ③ | ■チャンネル内グループ割り
→計画・テーマ設定 →活動計画書 (A4版) 担当者へ提出 | | 評価
II | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 6月22日 | ④ Lesson04
捉得のある伝え方を実践する
【PPT中山作成】 | 各クラス | 各HR | 担任 | ④ | | | | | | |
| 6月29日 | TRへ | | | | ⑤⑥ | ■探究活動
◎五感を通じた実践を積み重ねる。
◎input (読む聞く) +output (話す書く行動する) →outcome (成果・効果)
自分の目で見る、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる。
メディア情報 (本・TV・PC) だけに頼らない。
・各プロジェクトで外部講師講演OK
・図書館・インターネットでの調べ学習
・校外インタビュ
・アンケート (生徒、教員、保護者、地域)
・実験・実習・制作
・カメラ、ビデオ活用・パソコン
・映画 (同じ場所に行き回) (異なる場所と比較分析) | | 評価
III | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 7月6日 | TRへ | | | | ⑦⑧ | | | | | | |
| 7月20日 | ⑤ 夏季休業課題 探究レポート 配布・説明 | 1年全体 | 会議室 | 乙部 | ⑨ | | (4)探究活動① | 評価
III | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 7月27日 | TRへ | | | | ⑩⑪ | | | | | | |
| 9月14日 | ⑥ RO/ハイオマズナー事前研修 (OJ資料送下さん事前送付) | 1年全体 | 会議室 | 1年団 | ⑫ | ※9月14日⑫@PPT講習会 | | 評価
II | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 9月28日 | ⑦ 夏季休業課題 探究レポート発表 | 各クラス | 各HR | 担任 | ⑬ | | | | | | |
| 10月5日 | TRへ | | | | ⑭⑮ | ■10/26中間発表会に向けたまとめ (パワーポイント作成)
MANIWAch1-観覧室、防災chとユネスコch-視聴覚教室
・スライド6枚 (作成マニュアルあり)・プレゼン練習 (原稿なし発表) | (5)まとめ① | 評価
II | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 10月19日 | TRへ | | | | ⑯⑰ | ※10月19日@観覧室現地実習 | | | | | |
| 10月26日 | TRへ | | | | ⑱⑲ | ■中間発表会 7分発表→2分質疑応答 5・6限 | (6)発表① | 評価
II | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 11月2日 | ⑧ Lesson05
情報を構造化する | 各クラス | 各HR | 担任 | ⑳ | | | | | | |
| 11月9日 | ⑨ Lesson06
アクトラインを考える (MANIWA
ネットワークの活用) (PPT中山作成) | 各クラス | 各HR | 担任 | ㉑ | ■実践を通して学習
中間発表会での学びを活かして、さらにスケールアップを図る。 | (4)探究活動② | 評価
III | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 11月30日 | TRへ | | | | ㉒ | | | | | | |
| 12月14日 | TRへ | | | | ㉓ | | | 評価
III | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 冬季休業 | 冬季休業課題 探究レポート | | | | | | | | | | |
| 1月18日 | ⑩ 統計の基礎 | 普通科/
看護科 | 会議室/
1-3HR | 池田
乙部 | ㉔ | ■成果発表会に向けたまとめ パワーポイントなど発表準備
■まとめ冊子作成 (パワーポイント印刷+手書きメモ)
※今年度は成果発表会のおと1週間しか授業がないため、
成果発表会準備と並行してまとめ冊子作成を行う。 | (5)まとめ② | 評価
II | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 1月25日 | ⑪ 効果的なグラフ | 普通科/
看護科 | 会議室/
1-3HR | 池田
乙部 | ㉕ | | | | | | |
| 2月1日 | TRへ | | | | ㉖㉗ | ■チャンネル内発表会→Q&Aまでできれば | (6)発表② | 評価
II | 各チャンネル | ① 社会科教室
② 1組HR
③ 2組HR
+
視聴覚教室
図書室
校外など | 各担当者 |
| 2月5日 | TRへ | | | | ㉘㉙ | ■TR成果発表会 | | | | | |
| 2月15日 | ⑫ ロググラフの分析 | 普通科/
看護科 | 視聴覚/
電評 | 池田
乙部 | ㉚ | ■TRアンケート・年鑑振り返り | (7)フィードバック
総括 | 評価
II | 各クラス | 各HR | 各担任 |
| 春季休業 | 春季休業課題 探究レポート | | | | | | | | | | |

活動場所 ①MANIWA ②こち防 ③ユネスコ

■1年団: 井上・池田・麻田・乙部・藤田・中川・竹田・青野

■形態: 学年単位とし、3年間を通して段階的に発展していく。3年間の見直しをもって、総合的な探究の時間『真庭Try&Report (TR)』を計画する。

【第1学年】『HOW TO LEARN』(ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ) 課題別グループ学習 (興味・関心を広げる)

【第2学年】『WHAT TO LEARN』(自分で課題を設定し、調べる) 進路別課題学習 [知識・理解を深める]

【第3学年】『HOW TO LIVE』(進路実現・卒業後の生活のために学ぶ) 進路別課題学習 [具体的な自身の進路実現]

■学校全体TRテーマ『SDGs』

■まとめ冊子のデータを有効活用してください!

RO1冊子P.24: 真庭市SDGs/パートナー一覧、H30冊子P.75: 地域の匠・名人・プロフェッショナルの方々、H29冊子P.78: 特別活動記録メモ (コンテストやイベント)

■学年テーマ『SNGs』

1年生61名【普通科37名+看護科24名】→3チャンネル 普通科看護科混合、1班4名が基本 【①11班40名・②4班15名・③2班6名】

▼11月14日(土) 真庭ひとつなぎフォーラム (@落合総合センター) に①②③代表生徒発表

| CH | チャンネル名 | 活動内容 | 生徒数 | 班番号 (USB番号) | 活動場所 | 担当者 |
|----|-------------|---|-----|-------------|------|----------------------------|
| ① | MANIWAチャンネル | ■フリーテーマで課題設定、昨年度の継続的な取組にも期待。
コミュニティベース活用、トンボ学生服素材活用、森林資源活用など
真庭市役所、真庭いきいきテレビ、地域おこし協力隊、落合垂水向洋生民会、しめ山プロジェクト | 40名 | 11班 (1~11) | 講義室 | 池田
麻田
藤田
竹田
井上 |
| ② | こち防チャンネル | ■こち防高校市民防災訓練 (こち防)
6月兵庫県県立高校訪問 (事前準備・事後振り返り)、8月リーダー研修会 (県・校内)
11月地域合同防災訓練、11月全国防災ジュニア@東京、1月兵庫県県立高校研修
【土砂崩れ・洪水・地震・火災】を各班テーマに探究活動? | 15名 | 4班 (12~15) | 1組HR | 中川
青野 |
| ③ | ユネスコチャンネル | ■ユネスコスクールとしての活動
11月岡山県高校ユネスコスクール実践交流会 (事前準備・事後振り返り)
ブルガリア高校生との交流・ブルガリア研修 | 6名 | 2班 (16~17) | 2組HR | 乙部 |

■コロナ情勢メモ ■ 外部への直接交流体験は難しいので...

▼学習動画紹介、家で何ができるか、youtube (小中高生向けなどターゲットを明確に)、テレワークやってみた!・LINEグループでテレビ会議やってみた!家にいながらできるSDGs

▼春休みみんな何してた? (雨晴天気関係ある?起床時間就寝時間は?スマホ何時間?ゲーム?手強い?勉強?オリジナルで考えた遊び?勉強ある?、よく入れたアプリは?)

→問題点は? →提案 (個人・家族・地域の視点や、小中高生向けの視点)

▼海外の小中高は?ユネスコスクールネットワーク活用で交流可能、

令和2年度 1年生TR中間発表会

■ 令和2年10月26日(月) 5・6限 グループA@会議室 / グループB@社会科教室 / グループC@1年講義室

■ 1年生68名(普通科38名・看護科30名) 3チャンネル全17班 各班7分発表・2分質疑応答(フィードバックシート記入)

①MANIWAch 44名 ②こち防ch 16名 ③ユネスコch 9名

◎他のチャンネルの取組も知って自分たちの活動に生かそう!!
◎よりよい発表になるようにいろいろな視点から質疑応答を!!

| 班 | 発表タイトル | 班員 | 会場 | 担当教員 | 日程 |
|--------------------------|------------------------------|----------------------|-------|----------------|---|
| グループA | 1 真庭市の野生動物の現在 | 今石和希・黒岩大地・鈴木萌美・森本湖音 | 会議室 | 乙部
藤田
井上 | 13:15-挨拶
確認事項(6分1チーム→7分2チーム)
13:20-13:29 班1
13:30-13:39 班2
13:40-13:49 班3
13:50-13:59 班4
13:59-14:09(休憩)
14:10-14:19 班5
14:20-14:29 班6
14:30-14:39 フィードバックシート
(各班まとめて回収→班内回覧→教員再回収)
14:40-14:55 指導講評 |
| | 2 真庭の森林について | 瀬島勝也・杉山大翔・池本早織・政吉心優 | | | |
| | 3 バイオ液肥について | 立石晃誠・江原暖稀・石田凜・平井千羽 | | | |
| | 4 うし(ジャージー牛)について | 中西彪斗・池田愛友・臼田芽生・鎌崎真衣 | | | |
| | 12 災害時の小児の生活とメンタルケア | 桑木恒太・西田圭佑・村瀬まひる・長沼凜 | | | |
| グループB | 16 三カ国の衣食住(日本、ブルガリア、韓国) | 前田彩花・久保琴充・福島和奈・講元千乃都 | 社会科教室 | 麻田
青野
竹田 | |
| | 5 川の水質と生物の関係について | 杉山蒼弥・柴田鷹翔・金田唯那・佐々木愛 | | | |
| | 6 まちかど展覧会 | 吉田壮汰・滝山晃汰・石田欄・浜田桜花 | | | |
| | 7 コロナ下でのストレスと子供たちへの影響 | 中島季来・山本友翔・高藤穂乃花・松永知子 | | | |
| | 8 祭について～久世祭り～ | 中川照太・瀬恒秀太・倉松采未・宮本菜桜 | | | |
| グループC | 13 食から考える避難所経営 | 西山智哉・野村一貴・平山和・山崎百々花 | 1年講義室 | 池田
中川 | |
| | 17 地域の祭りと世界の祭り | 岩崎麗奈・谷本芽依・小野夕香子・名越優里 | | | |
| | 9 ぶどうと梨ができるまで～1年を比較～ | 野島小晴・樋口美咲・池田唯菜・藤本遥 | | | |
| | 10 真庭の自然について | 志田純香・横山樹香・榎本陽奈・坂井亜友菜 | | | |
| | 11 オリジナルうちわ・はっぴの考案～久世祭りを活性化～ | 高下奈々・浅雄萌・濱戸美羽・元島梨緒 | | | |
| 14 真庭高校生にできる災害対策についての研究 | 瀧本真・山本大誠・中塚麻景・古堤心 | | | | |
| 15 トイレの必要性～災害が起きたときのために～ | 西田葵・谷口久利生・屋敷千楓・中元理瑚 | | | | |

☆1026中間発表までの流れ(PPT作成・カメラや活動記録画像・動画など一応分かる範囲で一部が共有データを視聴覚電算共有に移しておきます)

■ 9月7日(月)6限(1時間)、9月14日(月)6限(1時間)、9月28日(月)5・6限(2時間)、

10月5日(月)5・6限(2時間)、10月19日(月)5・6限(2時間)：PPTデータ作成は視聴覚教室

※担当教員からUSBメモリを受け取る⇒PPTデータ作成⇒担当教員に提出(10/21水曜日17:00締切)⇒担当の先生は乙部へ提出。

真庭市の野生動物について

1班 今石和希・黒岩大地・鈴木萌美・森本湖音

活動のきっかけ

- ・自然豊かな真庭市の野生動物が気になった
- ・SDGsの15番に当てはまると思った
- ・野生動物について知ることで、自分たちにできることがあるかもしれない



活動内容

- ・真庭市役所の環境課の方から電話で話を聞き、資料を頂いた
- ・ネットや本で調べた



- ・真庭市の野生動物についての具体的なデータが少ない
- ・数多くの動物が絶滅危惧種に指定されている
- ・野生動物を脅かす「外来種」の存在

私たちのきっかけは、真庭の野生動物について気になったので調べていくうちに、SDGsの15番の目標と関連付けられるのではないかと考えたことです。

私たちは、ネットや本で調べる他、真庭市役所の環境課の方に資料を送ってもらいました。そして、数多くの絶滅危惧種がいること、野生動物を脅かす外来種がいることを知りました。

絶滅危惧種

カヤネズミ

- ・準絶滅危惧種
- ・かつては草地があればどこにも生息していた
- ・市街化の進行や河川改修などにより生息域が縮小している



ツキノワグマ

- ・絶滅危惧Ⅱ類
- ・本州、四国に生息しているが、四国の個体群は絶滅寸前と言われている
- ・岡山県では近年増加傾向にある



絶滅危惧種の例を挙げると、生息環境が縮小したカヤネズミや、珍しく岡山で個体数が増加している、ツキノワグマなどがいます。

外来種の影響

アメリカザリガニ

- ・肉食傾向の強い雑食
- ・絶滅危惧種を含む魚類や水生昆虫の捕食など、多くの生物に影響を及ぼす
- ・駆除しようとするために農薬を使用すると、間接的にほかの多くの生物にも影響を与える



アカミミガメ(ミドリガメ)

- ・植物性傾向の強い雑食
- ・北海道から沖縄までの全都道府県に分布
- ・水辺環境に蔓延し、地域の生態系に影響を及ぼしている



外来種は肉食傾向の強いアメリカザリガニや、水場の生態系を破壊する、アカミミガメなどが、例に挙げられます。

まとめ

- ・野生動物と一括りにしても、いろいろな環境の生物がいることが分かった
- ・守るべき絶滅危惧種もいるが、外来種による生態系破壊があることも分かった



まずは野生動物について知ってもらうことが大切！

今後の課題

外来種による被害を少しでも減らせる
自分たちにできる取り組みを考える



それをたくさんの人に広め、実際に取り組んでもらう



野生環境の改善になり、SDGsの15番につながる

調べていくうちに、様々な状況下の野生動物がいること、外来種による生態系破壊があることが分かりました。これらから、まずは野生動物について知ってもらうことが大事だと思いました。

今後の課題は、外来種による被害を減らせる取り組みをし、それをたくさんの人にやってもらうことです。そうすればSDGsの15番につながると思います。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭市市役所環境課

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(今石和希)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を集めて、必要な情報をスライドにまとめるために取舍選択することがとても難しいことだと分かった。 ・期限までに原稿やスライドを完成させ、原稿を覚えることの大変さと重要さを学んだ。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は指示されたことをその通りに実行するだけだったが、今は自分から行動するようになった。 ・課題に対して積極的に取り組むことができるようになった。 | <p>(森本湖音)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の方に電話で質問をさせていただいたときに、どのような言葉を使って応答や質問をしたら良いのか学ぶことができた。 ・チームで意見を出し合うことの大切さを学ぶことができた。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TR活動をする前より自分の考えをメンバーのみんなにはっきりと伝えることができるようになった。 ・前より文章をまとめることが早くなり、得意になった。 |
| <p>(黒岩大地)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真庭の動物についてのことだと分かったが、何をどう研究しているのか分からなかった。 ・自分は何のために活動すればよかっただろうか。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をすればいいのかわからなかったからカヤネズミについて自分から調べた。 <p>原稿に疑問を持った結果、ツキノワグマについても調べた。</p> | <p>(鈴木萌美)</p> |

【担当教員 池田祐弘 講評】



学期を重ねるごとに、グループ内で話し合いをする機会が多くみられるようになり、自分たちで課題を見つけ解決しようとする姿勢が身についたと思います。また、スライドを用いた発表をする準備について、わかりやすいスライドを作成することはもちろん、聞く側の視点を考えた原稿が作成できるよう工夫していた点で特に成長できたと思います。発表についても伝えたいことを頭に入れ、原稿を読むだけでなく、臨機応変な発言ができていたと思います。

『真庭の森林について』～森林の役割と地域の産業について～

2班 瀬島勝也 政吉心優 池本早織 杉山大翔

活動内容

真庭市の森林の特徴について知ってもらう
↓
森林の役割を知る(環境との繋がり)
↓
森林の活用方法について知る
↓
SDGsとの繋がりを考える
写真: 林野庁 岡山森林事務所

真庭市の森林

- ・森林面積:71700ha/
総面積89500ha
- ・林野率:80%
- ・私有林の人工林
面積:37000ha
- ・人工林率:57%
- ・森林の面積は県平均
を上回っている

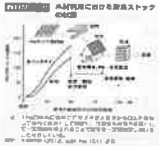



私たちのグループは地域に山がたくさんあり、木材を加工する産業が盛んな理由を調べてみたいと考えました。かつて営林署と呼ばれていた森林事務所に行き、市内の森林の状況を聞き管理方法や森林官の仕事についてお聞きした。

真庭市はとても自然が豊かです。森林事務所の方から様々なヒントをいただきました。真庭市の森林の様子だけではなく、植林と適切な森林管理、そこから産出される木材を活用すれば、二酸化炭素を減らすことができることが分かりました。

【木材利用で大気中の二酸化炭素を削減】

- ・森林の伐採という人間活動によって森林生態系の外に炭素を固定、貯留することができる。
- ・伐採された木が燃料として用いられた場合は、即座に大気中に二酸化炭素として放出されますが紙や家具、住宅の部材として用いられれば、一定期間炭素を製品の中に固定しておくことができる。
- ・特に若い木はCO2を最も吸収するためとても重要だと森林事務所でも山下木材でも言われていた。







出典: 林野庁H29年度森林計画(国)

木材の製材から加工まで

原木
↓
製材
↓
乾燥
↓
製品
↓
加工

- ・建築用構造材
- ・造作材
- ・プレカット 木材軸組


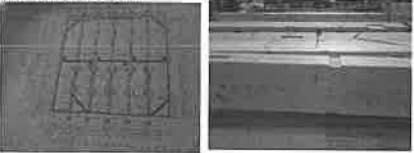
木材は植林後50年程度は二酸化炭素をたくさん吸収するそうです。適度なサイクルで伐採すれば、木が二酸化炭素を吸収し蓄えることが分かります。伐採後どのような形で資源を活用すれば良いのか考える機会を与えていただきました。

森林資源をどのように加工するのか知るために市内の山下木材を訪問させていただきました。木材の製材から加工までの流れです。基本的な働きはです【丸いものを四角にすること】です。乾燥させた後は目視で確認後加工して納品していきます

真庭プレカッタについて




プレカッタとは一般に、何かの生産工程においてあらかじめ切断しておくこと

CAD/CAMの導入により構造材の加工を一貫して行い大幅な省力化を実現するプレカッタシステム。誤差0.1mm以下の高精度の仕上がりで、品質のばらつきが少なく常に高品質の製品を安全供給することが可能

まとめ

- ・真庭市の森林について分かることができた。
- ・森林は加工して建物になり長い期間CO2を蓄えておくことで環境にやさしくなることを知ることができた。その為近年はコンクリートなどが住宅建設の際用いられているが木材の利用、そして長期間の保存を推進していくべきだと思った。
- ・SDGsの中では12番と15番に関わると思った。

CADとはコンピューターを用いて設計する事ができる設計支援ツールでCAMとはコンピューター支援による住宅支援製材システムの事。すこの2つを導入することで常に高品質の製品を支給できることが出来ます。

私たちの活動はSDGsの12番と15番につながると思います。私たちの身の回りには多くの木材が利用された建物がありそれを今後も私たちは守るべきだと考えました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

勝山森林事務所
山下木材
真庭高校事務室

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(瀬島勝也)</p> <p>① 一つの目標に向かってメンバーと一緒に取り組むことで、メンバーとの信頼を深めたりや協力することの大切さを学んだりすることができた。</p> <p>② 前までは自分から意見を出すということができなかったが、自分の意見を採用してもらえて自分もどんどん意見を出していこうと思ひ、自分から意見を出すようになった。</p> | <p>(杉山大翔)</p> <p>① 一つの活動として積極的に活動できた仲間と最後まで協力して活動する大切さを学んだ
人前で話す力を身に着けることができた。</p> <p>② 様々なものに興味を持つようになった
色々の人と話す事でコミュニケーションをとることができた。</p> |
| <p>(池本早織)</p> <p>① チームの人と意見を交換したり、どこに話をしに行くか、何を聞くか、チームの中でも分かれて話を聞きに行ったりした。それぞれ学んだことをチームで共有した。チームの協力は重要だということ学んだ</p> <p>② TR活動を始めた最初は自分のことだけをしていただけ実際に事務所に行ったときにメモをしたり調べ物するときに積極的に調べ物をして自分のこと以外のこともしたけど放課後のTR制作には積極的に参加できていなかった</p> | <p>(政吉心優)</p> <p>① このように自分たちで自発的に考えたりまとめたりすることをする様なときはやらない人がいるからって一人で進めることはだめだということ学んだ</p> <p>② 全然興味のないことでも調べたりまとめたりできるようになった
今まではインターネットで調べるばかりだったが2回校外へ直接話を聞きに行ってみてわかることや疑問に思ふことが多く見られるようになった</p> |

【担当教員 麻田典生講評】

2班は「真庭の森林」というテーマで探求活動を始めました。勝山森林事務所でSDGsにつながるヒントをいただきました。真庭で木材をどのように活用しているか実際に製材所を訪問し、森林資源の活用と、木材についての知識をいただくことができました。発表会では実物を披露することもできました。クラスルームを使った話し合いもしっかりできました。フィールドノートにしっかりとまとめ、発表原稿をつくるために活用できました。

『バイオ液肥について』

3班 立石晃誠 江原暖稀 石田凜 平井千羽

活動のきっかけ

- ・真庭市は令和6年から「バイオ液肥」の取り組みの実施で真庭市内全域の家庭などから生ごみを集めることを知った(真庭市ホームページ)

真庭市では現在、真庭市久世地域で生ごみを集めてバイオ液肥という肥料を実験的に作っています。この取り組みが令和6年から市内全域に広がることを知り、私たちはバイオ液肥について真庭市民全員に知ってもらいたいと思いました。

活動内容

- ・インターネットを使って調べる
- ・電話インタビュー
- ・ポスター制作
 - 男子:バイオ液肥のメリット
 - 女子:生ごみを集めるのはなぜ令和6年なのか 令和6年までに真庭市民が準備すべきこと



まず、インターネットでバイオ液肥について調べました。それでも分からないことは市役所の環境課の方に電話インタビューをしました。インタビューをする中で、バイオ液肥のメリットについて、様々なことが分かりました。

◆バイオ液肥のメリット(コスト)

ゴミ袋を販売する市の収入は年間約7000万円だが
 ゴミ処理費は10倍の7億円!
 ゴミの85%が燃えるゴミでその約半分が生ゴミ
 市のゴミ処理費用を減らすにはバイオ液肥の
 取り組みが必要!
「バイオ液肥」はコスト削減になる!!

バイオ液肥の1つ目のメリットはコスト面です。真庭市はゴミ袋の収入に対してゴミ処理費用がとても高くなっています。今まで燃やしていた生ゴミを資源化することで、その分の市のゴミ処理費用を削減することができます。

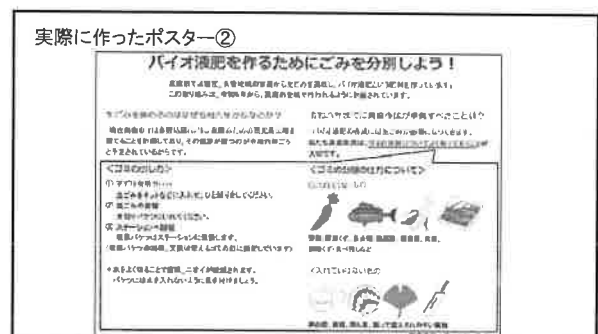
◆バイオ液肥のメリット(環境)

ゴミ処理の中で全体のゴミの量が約14000tのうち
 約85%が燃えるゴミでその約50%が生ゴミ!
 生ゴミは全体のゴミのうち約5950tになる
 バイオ液肥は約5950t分の焼却時に出る二酸化炭素を
 減らせることになる!
「バイオ液肥」は地球温暖化対策になる!!

2つ目のメリットは環境面です。バイオ液肥を作るという取り組みを通して生ゴミを資源化することができれば、ゴミの焼却時に排出されていた約5950t分の二酸化炭素を減らすことができます。二酸化炭素を減らせば、地球温暖化対策にもなります。



以上のメリットを多くの人に知ってもらうために、ポスターを作成しました。バイオ液肥の取り組みが真庭市のめざす資源循環型社会の実現につながることも文章に加え、イメージ図を用いることで一目で分かりやすいような内容を意識しました。



もう一つのポスターは、真庭市民が令和6年までによく知っておく必要がある「ごみの分別方法」についてのもので、今後はこの2枚のポスターを市内の施設に張り出すことで、より多くの人にバイオ液肥について知ってもらいたいと思っています。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭市役所環境課

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(立石晃誠)</p> <p>① 正しい情報を伝えることには責任がともなうことを学んだ。私たちの場合は実際に真庭市役所に電話し、バイオ液肥についての事実確認をした。また、調べた情報をポスターやパワーポイントでまとめる時に、図や文字の大きさに気をつけると、情報が分かりやすく伝えられることを学んだ。</p> <p>② 今までは真庭市が行っている取り組みについて深く考えることがなかったが、活動していくにつれて、詳しく知ることができた。その中で、今行っている取り組みはなぜ行うのか、メリット、デメリットは何なのかなどを具体的に知りたいと思い、自分から調べるようになった。</p> | <p>(江原暖稀)</p> <p>① バイオ液肥について調べていくうちに、真庭市はごみ問題という深刻な環境問題を改善しようとしていることが分かった。また、身のまわりで起きている問題に注目して調べることで、世界で起きている問題の深刻さに気づくことができた。</p> <p>② 班で協力しなければ良い探究活動ができないと思い、自ら質問したり積極的に動いたりすることをがんばった。この活動を通して、以前よりもコミュニケーション能力や集団をまとめる力が身についた。また、成果発表に備えて原稿を作成する中で、自分の言いたいことをまとめる力が向上した。</p> |
| <p>(平井千羽)</p> <p>① この活動を通して、自分たちでテーマ決めから成果発表までをやり通す大切さを学んだ。グループ活動だったため一人でも欠けると完成できず、目的を達成するには、自分のできることを探して取り組まなければならないことに気づいた。</p> <p>② 原稿やパワーポイントを作っていく中で、今までは自分から「何かしようか」と声をかけることができなかったが、自分からグループに働きかけられるようになり、メンバー全員で協力できた。</p> | <p>(石田凜)</p> <p>① 最初はグループでの会話も少なく、何をすることも手が動かさず止まっていたが、協力すれば一つのもので作り上げることが出来ると気づいた。この活動を通して、グループの中で話し合うことの大切さを実感した。</p> <p>② はじめは活動が止まっているときに自分から声をかけることができなかったが、発表原稿やパワーポイントを作る中で、グループでの会話が増え、班員が協力して活動ができるようになった。</p> |

「真庭市のバイオ液肥をもっと多くの人に知ってほしい！」という思いのもとで活動してきた4人ですが、中間発表までは自分のすべきことに悩み、活動がなかなか進まないこともありました。しかし、分からないことは素直に聞いたり頼ったりしてもよい、ということが分かってからは各自が自分たちの役割に責任を持つようになり、その行動の変化には感心するものがありました。世界で起きている環境問題は数多くありますが、その反面で身の周りの環境問題について改めて考える機会は少ないと思います。今回の活動をきっかけに、広い視野と確かな行動力を持つ人になってもらえたらと思います。

【担当教員 藤田優衣 講評】

「うし (ジャージー牛) について」

4班 中西彪斗 池田愛友 臼田芽生 鎌崎真衣

活動のきっかけ

- ①真庭市の魅力を考えた時、全員共通して、広大な緑の牧草地に放牧されているジャージー牛が思い浮かんだ
- ②実際にジャージー牛乳と普通の牛乳を飲み比べてみると、ジャージー牛乳の方が濃厚で甘く、普通の牛乳と全く違うと感じることができた
- ③濃厚で甘いことを活かしたスイーツを作りたい



真庭市の魅力を考えたとき、全員共通して、広大な緑の牧草地に放牧されているジャージー牛が思い浮かんだ。ジャージー牛乳と普通の牛乳を飲み比べてみると、ジャージー牛乳のほうが甘くて濃厚であった。そこで、この甘くて濃厚であるという特徴をいかしたスイーツを作ることにした。

作ったもの [甘くて濃厚なことを活かす]

シャーベット



ミルク餅



クレープ



フレンチトースト



シャーベット・ミルク餅・クレープ・フレンチトーストを作った。この4つにした理由は、そんなに調理工程が難しくなく、甘くて濃厚なジャージー牛乳の良さがでると考えたからである。難しいものを選んだがクレープの生地が上手く焼けなかったり、フレンチトーストが少し焦げたりと調理実習を通して作ることの大変さを学んだ。

考察

[ジャージー牛乳と普通の牛乳で作った場合を比較]

○ジャージー牛乳の良いところ

| | 濃厚さ | 食感 | 味 |
|----------|-------|-------|-------|
| シャーベット | 濃厚 | 変わらない | 濃い |
| クレープ | 変わらない | もちもち | 甘い |
| フレンチトースト | 変わらない | 変わらない | 変わらない |
| ミルク餅 | 変わらない | 変わらない | 変わらない |

ジャージー牛乳で作ったときと普通の牛乳で作ったときを比較した。ジャージー牛乳で作ると、シャーベットは、濃厚で舌触りがよかった。クレープは、生地がモチモチしていた。フレンチトーストは、味は変わらなかったが食感がモチモチしていた。ミルク餅は、餅の風味がすごく、あまり違いを感じることはできなかった。

コンクール応募



自分達で作ったスイーツを牛乳・乳製品利用料理コンクールに応募した。結果は、なんの賞もとることができなかったが、ジャージー牛乳の特徴を再確認することもできて、出してよかったと思う。賞に入っていた人たちは、栄養バランスや飾り付けにまでこだわっていて学ぶことが多かった。

実際に牛と触れ合って



久世校地の牛舎に行った。実際に牛と触れ合って、牛を育てることの大変さを学んできた。普段何気なく飲んでる牛乳だが牛を育ててくれる人がいるということを感じて飲みたいと思った。



実際にジャージー牛に触れ合いたいと考えていたが、現在コロナ禍であるということもあり、和牛だが同じ牛ということで、久世校地の牛舎に行った。実際に牛と触れ合って、牛を育てることの大変さを学んできた。普段何気なく飲んでる牛乳だが牛を育ててくれる人がいるということを感じて飲みたいと思った。

まとめ

今まで何気なく飲んでた牛乳の背景には私たちが知らないだけで牛を育てる人や私たちが飲む安全な牛乳にする人などたくさんの方が関わっていることが分かった。

そして、牛を育ててきた人の苦勞を少しだが体験して牛乳を飲むときの意識が変わった。また、牛乳からスイーツや料理になるまでの大変さも調理実習を通して学ぶことができた。

このことから、SDGsの「つくる責任、つかう責任」を改めて感じることもできた。ジャージー牛がこれからも安心安全に育て続けられるために「陸の豊かさを守ろう」を大切にしていきたい。



牛を育てることや私たちが飲める牛乳になるまで、牛乳を加工して製品になるまで等の大変さを調理実習や実際に牛に触れ合うことで学ぶことができた。これからはジャージー牛が育てられている真庭市の広大な牧草地を守るために私たちにできることを考えていきたいと思う。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他のの方々)

真庭高校（久世校地）の池田先生

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(臼田芽生)</p> <p>①私たちの班は「ジャージー牛」について真庭での飼育頭数や牛乳の特徴、牛乳からできるスイーツ、牛の育て方など幅広く研究を行った。その中で、牛を育てる大変さはもちろん、牛乳やスイーツが私たちの口に入るまでには、たくさんの方が関わっていることも分かった。お店に売ってあるものすべてに、作っている人の愛がこもっているのだと気づくことができた。</p> <p>②疑問に思ったことを調べ、体験し、まとめ、発表することを最後まで責任をもってやり抜くことができた。この活動を通して、今までは意識していなかったが、班のメンバーで協力することの必要性や助け合うことの大切さを改めて感じることもできた。</p> | <p>(鎌崎真衣)</p> <p>①ジャージー牛乳は濃厚で甘いという特徴があることが分かった。そこでこの特徴を活かしたスイーツ作りを行い、牛乳から商品になるまでの大変さを学んだ。他にも牛舎の見学に行き、えさやり体験をさせていただくことで、牛を育てることの大変さを学んだ。私達が普段何気なく飲んでいる牛乳も、誰かが大変な思いや手間暇をかけていることで、安心して飲めているということのをこれからは意識して生活していきたい。</p> <p>②始めは班員同士で協力することができず、自分自身も積極的に活動を行うことができなかった。しかし、調理実習やパワーポイント作りを通してチームのみんなと協力し積極的に行動できるようになった。</p> |
| <p>(池田愛友)</p> <p>①ジャージー牛乳の良さを活かすスイーツ作りを行った。試作品について意見を交換するなかで、ジャージー牛乳は甘くて濃厚で、それを活かしたスイーツはとても美味しいということが分かった。また、メンバーそれぞれ育ってきた地域や環境が違って、話し合いを重ねることでお互いの意見を認め合い、価値観を広げることができた。</p> <p>②班のメンバーと意見を交わしたり話しあったりしてパワーポイントや原稿にまとめた。この活動を通して、意見を交換することで相手の考えを知ることができ、自分の知識・理解も高めることができた。</p> | <p>(中西彪斗)</p> <p>①班のメンバーと協力することや意見を交換し深め合っていくことが大切であると学んだ。ジャージー牛乳と普通の牛乳の飲み比べをして、ジャージー牛乳は甘くて濃厚であることが分かった。今までは何気なく牛乳を飲んでいたが、この活動を通して様々な人達の協力によって牛乳ができていることを知り、感謝の気持ちを持って食事をしたかった。</p> <p>②班のメンバーと話し合いをして意見を交換することで、今までは発言をしていなかった自分が、積極的に意見を言えるようになった。また相手の考えを尊重して話を聞くことができるようになった。</p> |

【担当教員 竹田史生子 講評】

自分たちの食生活が生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力によって支えられていることに気づくことができたのはとても良かったですね。これからは食事をする時にただ「おいしい!」と感じるだけではないはず。動物や植物の生命、多くの人々の勤労に感謝の気持ちをもつことができたのは大きな成長だと思います。

川の水質と生物の関係について

5班 杉山蒼弥 柴田鷹翔 金田唯那 佐々木愛

水質について

- ・私たちは身の周りの水は綺麗な
のか気になり水質について調べた。
- ・水質が変化することによって
生物にどう影響するのか調べた。

私たちの身の周りの水は綺麗なのか気になったので水質について調べることにした。また水質を調べるにあたって、水が家庭に供給されるまでの流れについて調べた。

河川の水質調査

水生生物を調べる

- ・水生生物は綺麗な水を好むものと汚れた水を好むものがあり、それらを調べることで水質を確かめることができる。
- ・評価階級 (I ~ V)
 - I ...サワガニ
 - II ...ヘビトンボ
 - III ...カワニナ
 - IV ...貝類
 - V ...ホシチョウバエ

川の水質は川に住む生物を見ることで判断できる。川に住んでいる生物は川の状態確認することができる重要な指標である。

綺麗な川

I ...サワガニ



II ...ヘビトンボ



綺麗な水質では、サワガニ等の生物が住んでおり水も透明で澄んでいる。綺麗な川には石等によって水の流れが複雑になるため、浄化作用が高いという特徴がある。

汚い川

IV ...貝類(タニシ)



V ...ホシチョウバエ



汚れた水質には貝類やハエが多く藻等の植物は生きることが出来ないため腐敗してしまう等の特徴がある。

旭川での調査の結果

旭川では貝類やカエルが多く見られた。石の状態は「沈み石」が多く、コンクリートで囲まれた所もあり浄化作用は小さいと考えられる。石の付着物を見ると腐敗した藻が付着していた。このことから旭川の水質は悪いと考えられる。



旭川での調査の結果、タニシなどの貝類が多く水の色も緑色で水質が悪いことが分かった。また、石を見てみると浄化作用が低いことが分かった。

より良い環境作りのために

良い環境を作るため私たちができることは

- ・ポイ捨てをしない
- ・洗濯洗剤などを使いすぎない
- ・油を川に流さない
などが挙げられる。

身の周りの水質が悪化すれば水生生物だけではなく、我々の生活にも影響を与えるため綺麗に保つ必要がある。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

なし

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(杉山蒼弥)</p> <p>① グループで水質の調査等の活動をする中で、自分の考えを伝え、物事をより良いものへと改善するために、話し合いをすることの大切さを知ることができた。</p> <p>② 自分の考えが良い物なのか自信を持てなかったため行動できなかつたが、PowerPoint 等を作る時に思いついたことを、より深める事で自信を持ち、積極的に行動へと移すことができるようになったこと。</p> | <p>(柴田鷹翔)</p> <p>① 班のみんなと協力する大切さ。調べて終わりではなく、その調べたことを他人に伝えることの大切さを学んだ。また、わかりやすく伝えるためのパワーポイント作成の仕方が分かった。</p> <p>② 班員と最初はなかなか話せなかったけど、自分から積極的にコミュニケーションをとることができるようになった。今まで水について興味がなかったけど、TR活動を通じて水に興味を持つようになった。</p> |
| <p>(佐々木愛)</p> <p>① グループで協力して活動を進めていくことが大切だということに気づいた。今回は、旭川の水質調査を行ったが、他の川についても調査すると、様々な川の水質の違いについて調査できるため、良いと思った。</p> <p>② 探究することについて自分でパソコンを使って、情報を集めることが出来た。今までは一つのことについてあまり深く調べたりすることはなかったけど、TRを通してより深く探究することが出来た。</p> | <p>(金田唯那)</p> |

【担当教員 池田祐弘 講評】

旭川で水質調査を行い、校外で実物にふれることで、自分たちの探究内容に関する興味や関心が増えたように思います。また、各自の振り返りであるように複数の川で調査を行うことによって、比較をすることができるので、2年生以降は調査をする際は複数の視点から行うことでさらに良い探究につながると思います。発表について、回数を重ねるごとに、発表者の意識が原稿を読むことから聞く側の視点に立つことに変化し、良い発表ができるよう成長できたと思います。

『まちかど展覧会の歴史や展示物について』

6班 吉田壮汰 滝山晃汰 石田欄 浜田桜花

【活動目的】

真庭市の芸術文化についてみんなに知ってもらいたい



【活動内容】

1. 落合総合センター・勝山文化センターへ電話インタビュー
2. 街頭インタビュー
3. まちかど展覧会に行く
4. ポスター制作

私たちは真庭市の芸術文化について知りたいと思いました。そこで年間を通して、落合総合センターと勝山文化センターへの電話インタビュー、サンプラザでの街頭インタビュー、まちかど展覧会の見学、ポスター制作に取り組みました。

電話インタビュー

◆勝山まちなみ体験クラフト市

2013年から開始。竹細工、ベンガラ染め、ガラス細工などを展示している。
年間の来場者数は約620人、2020年の来場者数は約500人

◆まちかど展覧会

2004年から開始。絵画、陶芸、手芸作品などを展示している。
昨年の来場者数は約3万人。参加者を増やすために、オープニングセレモニーへの参加や宣伝活動をしてほしい。

勝山文化センターと落合総合センターに、各イベントの開催開始時期やどんなことをしているのか、年間の来場者数などを電話で聞きました。その中でも、私たちは学校の近くで開催されているまちかど展覧会に興味を持ちました。

まちかど展覧会についての街頭インタビュー

→サンプラザ入口で実施



まちかど展覧会について地域の人がどのくらい知っているのか、街頭インタビューをしました。展覧会のことを知っているのは高齢の方がほとんどでした。特に60代の方が多く20代から40代の方は少なかったです。

まちかど展覧会に実際に行ってみて

- | | | |
|---------------------------------|-----------------------|---|
| 1件目
<個人宅> | 2件目
<なべや旅館> | 3件目
<落合SAKAI-e> |
| 展示物
・狂言面
・備中神楽面
・大黒天の面 | 展示物
・アクセサリー
・お花 | 展示物
・カバン
・アクセサリー
・茶わん
・キャンドル
・マグネット
・植物を使った作品 |



調査する中で実際に見てみたいと思い、まちかど展覧会に行ってみました。個人宅となべや旅館と落合SAKAI-eの3件に行きました。絵画だけでなく花やお面の作品もあり、さまざまな作品を見ることができました。

ポスター作成

まちかど展覧会に行った感想についてのポスター。
真庭市内の施設に貼り出し予定。



まちかど展覧会のことをさらに多くの人々に知ってもらうために、実際に行った感想をポスターにまとめました。模造紙に自分たちで手書きして、許可を得て作品写真を貼らせてもらいました。

まとめ

- ・まちかど展覧会を開催することによって地域の活性化につながる事が分かった。
- ・自分たちでは思いつかないようなアイデアで作品を作っていてすごいと思った。
- ・真庭市だけでなくもつ他の地域で行われている活動についても調べてみたいと思った。

まちかど展覧会を見学してみて、地域の方々が楽しそうに参加していた姿が印象的でした。まちかど展覧会は地域の活性化につながる事が分かりました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他のの方々)

まちかど展覧会実行委員会、勝山まちなみ体験クラフト市実行委員会、サンブラザ、地域の方々

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(吉田壮汰)</p> <p>① 自分が知らなかった落合地区や勝山地区の活動について詳しく調べていく中で、地域の人たちのつながりや新しい発見などがあった。ここからさらに視野を広げ、地域活性化のための様々な活動について調べていきたいと思った。</p> <p>② 人と話したり自分から意見を出したりすることがあまり得意ではなかったが、グループ活動や街頭インタビュー、イベントに実際に行き、自分から意見を出したりグループをまとめたりできるようになった。</p> | <p>(石田欄)</p> <p>① 落合地区で行われているまちかど展覧会では地域の人々が活発に動いており、地域のイベントは町の活性化につながる事が分かった。また、自分のできることを探して自主的に行動する中で、班員と協力することの大切さを知った。</p> <p>② 落合地域の文化について知る機会が今までなかったが、地域の文化について調べることで、興味を持つようになった。最初はお互いに提案しあったり質問したりすることが苦手だったが、徐々にグループ内での会話がぐえ、相談できるようになった。</p> |
| <p>(滝山晃汰)</p> <p>① 限られた時間の中で活動を行うためには、一人で行動せずに班員と協力することが大切だと学んだ。真庭市のイベントを調べたことで地域活性化のために様々な取り組みをしていることが分かり、これからも真庭市について詳しく調べていきたいと思った。</p> <p>② 最初は班のメンバーと相談することができていなかったが、時間がたつにつれて積極的に話すことができるようになった。また、成果発表のパワーポイント作成を通して、自分の意見を周りに伝えることができるようになった。</p> | <p>(浜田桜花)</p> |

地域活性化活動のうち、地元の芸術イベントにテーマを絞ったことがとても興味深いと思います。話し合いの際に最初に発言する人がなかなか出でず、物静かな班だなあと思うこともありましたが、そうした印象が変わったのは学校外での調査活動の時です。こちらが特に指導しなくても積極的に地域住民へ丁寧に話しかける姿が、これまでの姿とは正反対でとても感心しました。社会とつながる力を身につけ、社会を盛り上げる仕組みについて知れたことは今後の皆さんにとって必ず役に立つことだと思います。活動中にお互い相談しながら役割分担をきっちりと振り分けられていた点を見ても、全員がリーダーになれる素質を持っている班だと感じました。

『コロナ禍でのストレスと子どもたちへの影響』

7班 山本友翔 中島季来 高藤穂乃花

目的 コロナ禍でのストレスと子どもたちへの影響を調べ、現状を理解する。



方法
保護者・保育士へのアンケート実施

コロナ禍でのストレスと子どもたちへの影響を調べ、現状を理解するために保護者や保育士へのアンケートを実施しました。

アンケート協力していただいた 保育園、こども園

| | | |
|---------|----------|--------|
| 落合こども園 | ・天の川こども園 | ・木山保育園 |
| 園児 180名 | 園児 177名 | 園児 43名 |
| 職員 32名 | 職員 32名 | 職員 8名 |



天の川こども園に行った時の写真

落合こども園、天の川こども園、木山保育園にアンケートをお願いし、たくさんの方がアンケートに協力してくださりました。

コロナで困っていること

- 外出の制限で
- ・子どものメディア時間の増加
 - ・遊ぶ場がない
 - ・家で楽しめる遊びがない

保護者アンケートの結果をまとめると、子どものメディア時間が増加していること、遊ぶ場がない、家で楽しめる遊びがないなどということがわかりました。

まとめ

- ・子どもたちに我慢をさせてしまう。
- ・周りの目や子どもたちの行動が常に気になってしまう



ストレス

子どもたちに我慢をさせてしまい、周りの目や子どもたちの行動が常に気になってしまうことで、子どもたちや保護者にもかなりのストレスがかかってしまうことがわかりました。

家でもできる遊びの考案

ポウリング
用意するもの
・ペットボトル
・画用紙
・色ペン
・新聞紙

方法
1 画用紙に絵を描く
2 貼り付ける
3 ピン完成!

1 新聞紙を丸めてガムテープでぐるぐる巻く
2 ポール完成!



ピン完成!



作成時の様子

子どもたちや保護者のストレスを解消する方法として家で、親子で一緒に作り遊ぶことができるものを考え、実際に作ってみました。

今後やってみたいこと

- ・いろいろな遊びを紹介する



チラシの作成



保護者へ配布

私たちが考案したおもちゃの作り方をチラシにしてこども園や保育園を通じて、保護者に配布してもらいたいと思います。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

保育士の方々、こども園や保育園の保護者の方々

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

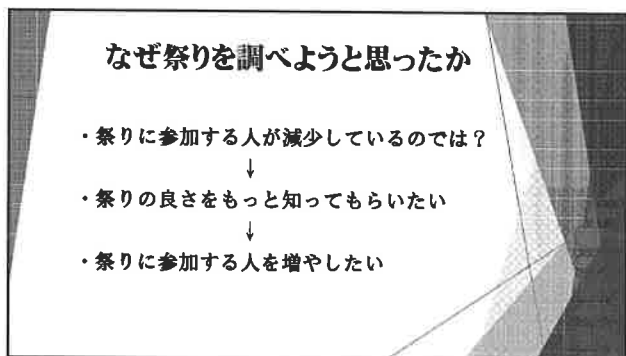
| | |
|---|---|
| <p>(中島 季来)</p> <p>① 真庭市のことを調べ、みんなと情報を共有して真庭市の良いところや問題点を知り、真庭をよりよい地域にしたいと思った。</p> <p>② 保育園に行つてアンケートをとるなどの活動を自分たちで話し合い、実行することで行動力を身に着けることができた。TRが始まったときは班員のひとと相談などがあまりできなかつたが活動を通して、コミュニケーションをしっかりとることができるようになった。</p> | <p>(山本 友翔)</p> <p>① TRにこんなに力を入れている自分に気がついたので。授業や活動の一貫として、積極的に参加することができた。</p> <p>② 最初は、班のメンバーとも、初対面で関わりがなかつたが、活動を進めていくうちに、仲良く、コミュニケーションがとれるようになった。円滑なコミュニケーションをとるために、「このようなことを言ったらどうなるのか。」ということのを頭の中で整理してから、発言をすることができるようになった。</p> |
| <p>(高藤 穂乃花)</p> <p>① ただネットで調べるだけではなく、直接意見を聞き、アンケートを実施することによってよりリアルな意見を取り入れることができテーマにそつた活動をするすることができた。</p> <p>② 最初はTRで何をするのかよくわからずあまり積極的に取り組めていなかったが、メンバーと意見交換をし、一緒に活動していく中で積極的に物事に取り組めるようになりTRの大切さがわかつた。</p> | |

【担当教員 井上五月 講評】

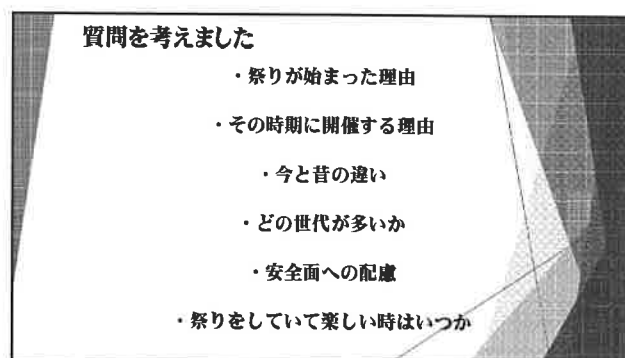
コロナ禍で幼い子どもたちや保護者がどんなことに困っているのかを知り、高校生として何ができるのかと一生懸命に考え活動することができました。可能ならば地域の子どもたちや保護者が参加できるイベントなども提案したいという意見も出ましたね。地域のために、そして困っている人のために何かをしたいという姿勢を今後の探究活動に生かしてください。

『祭りについて』 ～久世祭りと勝山祭りを比べて～

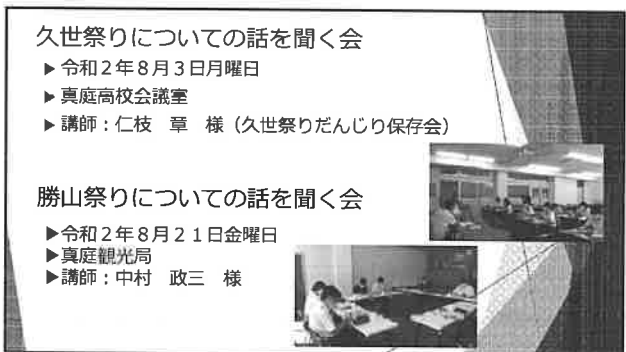
8班 中川照太 瀬恒秀太 宮本菜桜 倉松采未



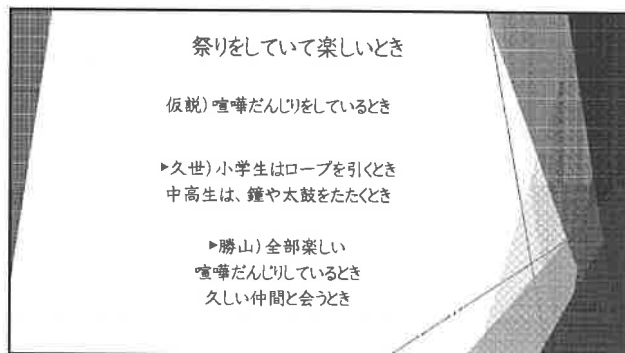
地域の祭りのすばらしさを広めて、他の地域から来る人を増やし地域を活性化させたいと考えました。



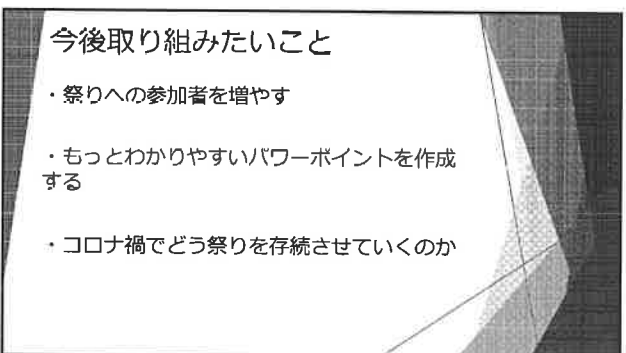
久世祭りと勝山祭りについて調べることになり、祭りについての質問とその質問の答えの仮説を班のみんなで考えました。



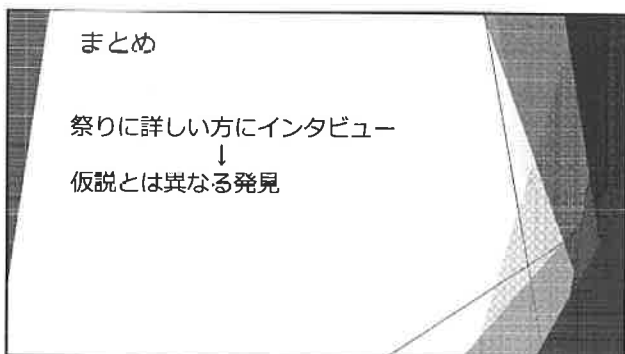
祭りに詳しい人たちに話を聞きに行きました。私たちが考えた質問に丁寧に答えてくださり、とても勉強になりました。



喧嘩だんじりをしている時が一番楽しいという仮説を立てましたが、お話を聞き、1年かけて祭りの準備をする過程のすべてが楽しいということがわかりました。また、世代によって楽しみ方が異なることもわかりました。



今年度はコロナの影響で、久世祭りも勝山祭りも行われませんでした。今後はそれぞれの祭りをどう存続させていくかについて調べたいです。



祭りに詳しい方にインタビューをして自分たちの仮説とは異なる発見がありました。久世祭りも勝山祭りもそれぞれに自分たちの知らなかった魅力がたくさんありました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

仁枝 章 様 (久世祭りだんじり保存会) 中村 政三 様 (真庭観光局)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(中川 照太)</p> <p>① 外部の人にインタビューするのはとても緊張した。しかし、メンバーのみんながいてくれたので、緊張が和らぎ順調にインタビューすることができた。その時、仲間といることの大切さに気が付いた。</p> <p>② 目的をもって、1つのテーマについて協力して調べることで、みんなとうまくコミュニケーションをとれるようになった。班員みんなで協力して1つの目標を決めて、やり遂げることの大切さが分かった。</p> | <p>(瀬恒 秀太)</p> <p>① メンバーに自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることが大切であると気がついた。パワーポイントを作成するときに、どうすれば相手に伝わりやすいかを考え、工夫する能力が身についた。</p> <p>② 今まで自分の意見を積極的に言う性格ではなかったが、TRの活動を通して相手に自分の意見を積極的に伝えることができるようになった。</p> |
| <p>(宮本 菜桜)</p> <p>① パワーポイントを作成するときにどのようにすれば伝わるか考え、分かりやすく伝える事の大切さを学ぶ事ができた。インターネットで調べるだけでなく実際に話を聞きに行くことができた。</p> <p>② 自分の意見を言うのが苦手だったが、グループ内の意見交換を通し積極的に自分の意見が言えるようになった。</p> | <p>(倉松 采未)</p> |

【担当教員 井上五月 講評】

地域の文化として久世祭りと勝山祭りに着目し、仮説を立てたうえで地元の祭りに詳しい方にインタビューすることで、仮説との違いを知ることができました。高校生として地域の文化について知ろうとする姿勢は、地域の方々にも温かく受け入れてもらうことができましたね。コロナ禍で今後祭りをどのように存続していくべきか、さらに探究していく必要がありますね。

『ぶどうと梨ができるまで』～一年を比較～

9班 野島 小晴 藤本 遥 樋口 美咲

地域の財産
↓
温泉、農業、建物、古見屋羊羹、のれん。


魅力が1番アピールできるものは？
⇒農業



梨とぶどうの栽培について調べたい
↓
方法：農業を営むメンバーの家族にインタビュー

私たちは地域の財産は何かと考えたとき温泉、農業、建物、古見屋羊羹、のれんが浮かびました。その中で真庭を一番アピールするには農業が一番良いと考えました。


梨とぶどうの栽培について農業を営むメンバーの家族にインタビューをして調べました。

梨の場合



| | | |
|----------------------------|----------------|---|
| ～春～
3月 施肥 | ～秋～
9月 収穫2回 |  |
| 4月 受粉/消毒 (実粉が終わってから) | 10月 収穫 | |
| 5月 摘果 | 11月 休み |  |
| ～夏～
6月 摘果/消毒2回(月の前半と後半) | 12月 休み | |
| 7月 袋掛け/消毒2回(月の前半と後半) | 1月 剪定 | |
| 8月 摘果0回 | 2月 剪定 / 消毒 | |

ぶどうの場合



| | |
|----------------------------------|-------------------------|
| ～春～
3月 主枝の結束 | ～秋～
10月 収穫/かん水/お礼肥施用 |
| 4月 ポリ網履 | 11月 土作り/基肥施用/部分選果 |
| 5月 房のき 2回/摘果/選果/選果/選果 | 12月 高ち葉を除外へ/不良葉の摘除 |
| ～夏～
6月 花蕾豊熟/房作り/玉直し/選果なしにするの葉 | ～冬～
12月 凍害防止対策/排水対策 |
| 7月 ポリ網覆撤去/袋かけ/水やり | 1月 棚・トンネルの修繕 |
| 8月 節間対策/水やり | 2月 剪定 |

梨を作るうえで一番大変な時期は、袋掛けや消毒をする7月、収穫をする10月、剪定や消毒をする2月です。

ぶどうを作るうえで大変な時期は、房作り・水やりなどの作業の多い夏と、収穫や土作りなどをする秋です。休みがないのでとても大変ですが作り甲斐があるそうです。


インタビューからわかったこと

- ・梨やぶどうの栽培には、技術や手間が必要
- ・農業の後継者不足

まとめ

梨やぶどうのおいしさを全国にアピール
↓
真庭市に観光客を呼び込む
↓
真庭市の活性化

私たちの活動はSDGsの9番目のゴール →



インタビューをして、農業には技術、手間、時間が必要だとわかりました。また後継者が不足しているという問題点も明らかになりました。

私たちの活動はSDGsの9番目に当てはまっています。農業で真庭をアピールし観光客を呼び込み真庭を活性化できればいいと思います。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

メンバーの農業を営んでいる家族

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(野島 小晴)</p> <p>① 梨やぶどうができるまでにどういった苦労があるのか全然わかっていなかったが、メンバーの家族の方に答えていただいたインタビューの結果を見ると、大変なことがたくさんあるということを知った。</p> <p>② 前までは自分から意見を言うことができずにいたが、メンバーのみんなとの話し合いの場面を通して自分の意見が言えるようになった。</p> | <p>(藤本 遥)</p> <p>① 計画的に探究活動を進めることは難しかったが、協力することで達成感を得ることができた。
この活動で、いろいろな地域の方々に関わったり、地域の問題点に気づいたりすることができた。</p> <p>② 以前は計画的に物事を進めることが苦手だったが、計画にそって少しずつ物事を進めることができるようになった。</p> |
| <p>(樋口 美咲)</p> <p>① 今まで農業に興味がなく、わからないことがたくさんあったがTRで農業について調べ、農業の大変さがわかった。
一年中休みがほとんどなく大変だときづき、手伝いをしようと思った。</p> <p>② 積極的に物事に取り組むようになった。
農業の大変さを知って、祖母の手伝いを少しでもして力になりたいと思うようになった。</p> | |

【担当教員 井上五月 講評】

メンバーの家族が果樹園を営んでいるということで、梨とブドウの栽培について非常に詳しく教えていただき写真も提供していただきました。農業には手間と技術が必要であることがよくわかりましたね。農業という素晴らしい伝統を次世代に受け継ぐためにはどうすればいいかさらに探究する必要がありますね。

『真庭の石灰を使った製品が世界中で使われているかも！？』

10班 榎本陽奈・坂井亜友菜・横山樹香・志田純香

テーマを選んだ理由



・自然について調べているときに石灰のことについて書かれていたから。

・私たちの生活に石灰石が使われているのを知りたかったから。

・本当に石灰が必要なか気になったから。



真庭市

活動内容

- ・真庭市内の鍾乳洞や石灰岩に関わる情報をインターネットなどを調べて自分たちで調べた。
- ・道路から露天掘りの鉱山や施設が見える⇒中山石灰株式会社に見学を申し込む。
- ・他の天然資源(鉱石)についても興味を持ち、真庭市蘇山にある珪藻土の採掘現場の調査も計画した⇒積雪のため冬季期間の見学を断念した。

中山石灰工業株式会社に行ってみました。

生石灰+水の実験



この原理を使って加温剤として使われています。



反応した瓶を触ってみた感想
・思っていた以上に熱かった。

生石灰が沈殿し水と反応し、熱くなりました。

※加温剤・乾燥剤の実験

泥水+消石灰の実験



・浄化しておいしい水を作るには、消石灰が欠かせない。

・泥水に消石灰を入れることによって沈殿する。

※水の利用の実験

石灰岩の実験を見せていただいた。

- ・加温剤、乾燥剤の実験は、私たちの身近にある「おせんべい」や「焼き海苔」の袋に入っている。
- ・水の実験は消石灰に小さな穴がたくさんあり、その穴に泥が吸着して沈殿する。その原理で水が浄化され、きれいになった。

自分たちで考えた質問

Q石灰石をとる山はどのように決めているのですか？

- ・県の制約があるので勝手に決められない。
- ・ボーリングをして石灰石がたくさんあるところで採掘する。
- ・新見市が石灰石ドームの場所を決めるのは大変。

※土地の所有や買取り権は別

Q食品にも石灰石が入っているのか？

- ・中山石灰工業株式会社でとっていない。
- ・許可が必要。
- ・食用用にするには資格が必要。

Q会社でとれた石灰は真庭で使用しているのか？

- ・真庭クリーンセンターやコスモスクリーンセンターで使われている。
- ・新見でとれたものはホームセンターで売られている。
- ・主に水島の製鉄所で鉄を作るために使われている。

Qなぜ階段状に採掘するのか？

- ・階段状に採掘したほうが安全だから。
- ・ダイナマイトを設置して階段状にする。
- ・(階段状に採掘するときは後人の人に被害を与えないように採掘する。)

地下資源の採掘は厳しく県によって管理されている。土地を買えば採掘できるわけではない。従業員と周辺住民への安全が確保されなければ採掘できないことがわかった。食品に石灰を使うことがある。別途許可が必要なことがわかった。

石灰石とは



石灰石

・サンゴ礁や貝殻でできた物。



生石灰

・石灰石を焼成するとできる物。(1000℃くらいで焼く)



消石灰

・生石灰を水化する。

石灰岩の製品についてわかったこと

- ・採掘した鉱石は中山石灰の施設内で加工され、製品化される。石灰岩はセメントに加工されるイメージがあるが、中山石灰では瀬戸内沿岸の製鉄で使用される石灰の原料として出荷されたり、消毒用の消石灰として鳥インフルエンザの拡散防止のために散布される製品などをつくっている。

5台分

・砕石作業で土や石などをダンプに積み込む作業に使用します。

・一般の車のタイヤとは違い、舗装されていない地面でもパンクしないよう強度を増したタイヤが装着されています。

・タイヤのチェーンはおよそ100万円。

・1日 250トン

・1000℃で焼いて大きな固まり(生石灰)を半分にする。

・ロータリーキルで半分になった生石灰を水と合わせて消石灰を作る。

鉱山では専用の重機が使われていました。一般道を走ることができる大型ダンプカー5台分の積載量がある。大型ホイールローダーに使われるタイヤチェーンはおよそ100万円することがわかった。石灰岩を焼成するロータリーキルは4人3交代で24時間365日働いていることがわかった。

まとめ

・石灰石について学べました。

- ・石灰石は私たちの身近な場所でたくさん使われていることがわかりました。
- ・真庭に産産資源があつて多くの雇用を生み出していることがわかりました。

今後の活動

- ・鍾乳洞や石灰岩地形を見に行く。

今回調査できなかった珪藻土について次回の研究課題としてい。インターネットで調べてみると珪藻土製品が私たちの身近なところで使われていることがわかった。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

栗木先生 乙部先生 中山石灰工業株式会社の担当の方

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どうしたことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(志田純香)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 石灰石や珪藻土は私たちの身近な場所で使われていることを学びました。
インターネットのことだけではなく、自分たちの足でいろんな方に話を聞いたほうが正しいことが聞くことができました。インターネットには書かれてないことも知ることができました。 ② あまり自分が思っている意見を相手に伝えることができないので、少しは意見を伝えるようになりました。
グループ活動では最初は敬語で話してしまう癖があるが、活動を通して積極的に話せるようになった。 | <p>(横山樹香)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 真庭にあるものが様々な場所で活躍していることがわかりました。今回、石灰について調べてみて石灰が私たちの生活に必要でそれが真庭でとれるとわかりました。 ② 真庭に住んでいるため自分の周りに自然があるのが当たり前で真庭の自然のことなんて気にもならないし、知ろうともしてなかったけどTRで自然について調べて石灰のことを深く知れて、知識も増えだし真庭についても知れたので興味を持てるようになりました。 |
| <p>(榎本陽奈)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① メンバーの皆で協力しながら石灰石について調べることができました。クラスルームを使いメンバーそして先生の意見も取り入れながら話し合うことができました。 ② 最初はあまり意見を出せずにいたがだんだん意見を皆で出し合いながら進めていくことができました。
そして、TRで真庭の自然について知ることができました。
Google クラスルームを活用して、積極的に意見を出し合えました。 | <p>(坂井亜友菜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自分が出来ないことでも、そこを補ってくれたりしたので、チームの人達の大切さに気付きました。理科の乙部先生と栗木先生に話を聞いて、実際に見に行きました。 ② 最初は、あまり積極的ではなかったけどチームで活動していくにあたって、調べることに積極的になれました。
また、TRをする前は真庭の自然のことにあまり興味がなかったけど、TRを通して真庭の魅力的な部分が変わり、興味を持つようになりました。 |

【担当教員 麻田典生講評】

10班は当初「真庭の自然」というテーマで探求活動を始めました。自然とは何かという点で様々な意見を交換し、石灰岩にたどり着きました。石灰岩を軸に、鍾乳洞や石灰岩地形なども興味を持ち、新しい真庭の見方を確立できた点が最も素晴らしかったと思います。クラスルームの活用も上手にできました。中間発表後、最終的には真庭北部の珪藻土の調査も企画しましたが、積雪で実地調査はできませんでしたが、興味関心と行動力は高く評価できました。

「久世祭りを活性化」

11班 濱戸美羽・高下奈々・浅雄萌

活動のきっかけ

真庭を活性化させるために、自分たちに何ができるか考えた。
一番興味のある久世祭りでは何かできないか？
↓
そこで、地域の人(仁枝さん)に久世祭りの話を聞いた。
↓
はっぴの色やデザインについて研究し、真庭をPRできるようなオリジナルはっぴとうちわを考案することにした。

私たちが、真庭市を活性化させたいと思った理由は、現在真庭市では少子高齢化が進んでいるからです。多くの人に真庭の良いところを改めて知ってもらい、若者の人口流出を少しでも抑えたいと思いました。

活動① 久世祭りについての話を聞く

日時:8月3日(月) 場所:会議室

講師:久世祭りだんじり保存会 仁枝 章さん

はっぴやだんじりのデザインが地区ごとに違うのは、どこの地区か分かりやすくするため。



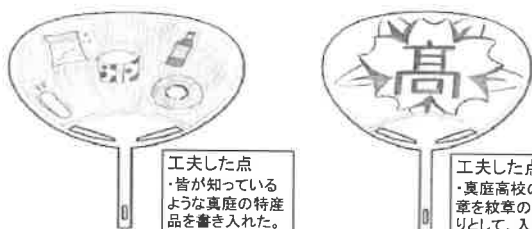
被服は、「着ている自分にとって意味がある」と同時に「見ている人にも意味がある」(原田聖徳の長針屋より)

祭りの中ではっぴやうちわは多くの人の目につきやすい。

↓
真庭をPRできるようなデザインにする。

仁枝さんと話をしたときに、私たちが真庭市を活性化させるためにできることは、久世祭りで使うためのオリジナルうちわとはっぴのデザインを考えて作ることだと考えました。

活動② うちわのデザインを考える



工夫した点
・皆が知っているような真庭の特産品を書き入れた。

工夫した点
・真庭高校の校章を紋章の代わりとして、入れた。

真庭市の良いところをPRするために、表には、真庭市の特産品である蒜山ジャージーヨーグルト、蒜山大根、蒜山ワイン、豆乳焼きドーナツ、コシヒカリを入れるデザインにしました。また裏には、真庭高校の校章を入れました。表にたくさん色を使ったのでシンプルにしました。

活動③ はっぴのデザインを考える



工夫した点
真庭の四季をイメージ。
春→醍醐桜 夏→アジサイ・蛍 校章だと難しいから真庭のM。

工夫した点
真庭市のマークを大きく。秋→紅葉の風景をイメージ。冬→雪がたくさん降る蒜山をイメージ。真庭市の良いところをつめた。

真庭の四季をイメージしてデザインしました。はっぴの表は春の夜と夏の夜をイメージしました。春は醍醐桜、夏は普門寺で有名な紫陽花と蛍です。裏は秋の夕方と冬の朝をイメージしました。秋は山一面に広がる紅葉の風景、冬は雪がたくさん降る蒜山です。このはっぴには、四季の移り変わりや朝から夜にかけても色々な風景が楽しめるという真庭のいいところを詰め込みました。

活動④ うちわの作成



春夏秋冬の順番になるように書いた。季節にあった色をグラデーションになるようにした。



真庭の特産品であるコシヒカリ・蒜山ワイン・蒜山大根・豆乳焼きドーナツ・蒜山ジャージーヨーグルトをいれた。

* 今年にはコロナ禍で久世祭りが中止になり、持って行くことはできませんでした。

完成したうちわです。はっぴは時間がなく作ることが出来ませんでした。その代わりに、はっぴでデザインしていた真庭の四季をうちわに書き入れました。本来ならば実際に久世祭りに持って行きたかったのですが、今年にはコロナ禍でお祭りが中止になり、持って行くことができず残念でした。

まとめ

私たちの活動はSDGsの目標の中で特に



当てはまると思いました

真庭市は少子高齢化が進んでいるので祭りで市を盛り上げるとともに地域を活性化させていきたい。

今回の活動を通して、真庭市の特産品や季節など、たくさんのいい所を改めて知ることができました。真庭市の良い所や魅力をたくさんの人に知ってもらい地域活性化につながればいいと思いました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

仁枝 章 様 (久世祭りだんじり保存会)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(高下奈々)</p> <p>①久世祭りだんじり保存会の仁枝さんから話を聞いて、はっぴの色やだんじりの飾りつけなど、久世祭りの中でも特に装いについてより詳しく知ることができた。中間発表で他の班の発表を見て、パワーポイントのまとめ方や発表の仕方について学ぶことができた。また、限られた時間の中であったため役割分担をして活動を行うことで、グループで協力することの大切さも学ぶことができた。</p> <p>②始めは自分の意見を言うことができずにいたが、班のメンバーが発言しているところを見て、私も徐々に意見を言えるようになった。</p> | <p>(濱戸美羽)</p> <p>①久世祭りについてインターネットで調べたり地域の方に話を聞いたりした。地域を盛り上げるために自分たちに何ができるか考え、人の目につきやすい装いに注目し、はっぴとうちわのデザインの考案と作成を行った。みんなで協力して一つのことをやり遂げることができた。</p> <p>②久世祭りについてメンバー全員で協力して研究していくことを通して、今まであまり発言をしてこなかった自分が、積極的に意見を言えるようになった。また自分からコミュニケーションをとることができるようになった。</p> |
| <p>(浅雄萌)</p> <p>①同じ班の人と協力して、1つの目標に向かって最後までやり遂げることができた。地域の方に話を聞くことで、来場者数やはっぴの色やだんじりのデザインなど久世祭りについて詳しく知ることができた。真庭の良いところを詰め込んだはっぴとうちわを考えることで、真庭の特産品や四季の移ろいを再確認することができた。</p> <p>②前までは自分の思っていたことを素直に言うことが出来なかったが、班の人との関わりが増えるにつれ、自分の思っていることを言えるようになった。中間発表と比べて成果発表は大きな声で堂々と発表することができた。</p> | |

【担当教員 竹田史生子 講評】

得意・不得意なこともありましたが、不得意なことにも失敗を恐れることなくチャレンジしていく姿が見受けられました。日を追う毎につれて協力し合い、お互いを認め合いながら、共通の目標に向けて活動を行うことができるようになりましたね。何より、全員が対等に意見を言い合える雰囲気自然と作ることができていたのはとても良かったと思います。

『災害時の子供のメンタルケア』

12班 西田圭佑 長沼凜 桑木恒太 村瀬まひる

活動のきっかけ

災害時の被災地の生活状況が報道される様子を観て「子どもたちはどのような現状におかれ避難所生活をしているのだろうか?」という疑問が浮かび、調べてみることにした。

災害時に報道される避難所の場面では、大人達の避難所生活を中心とした場面が目立ち、子ども達は避難所でどのような環境で過ごしているのか疑問に感じていた。そのことから災害時の子ども達の避難所での生活の状況について調べることになった。

- ・災害時の子供は、遊ぶ事でストレスを軽減している。
- ・災害時の子供を肯定してあげる事がメンタルケアに繋がると思う。
- ・保護者などの身近な大人の心の安定が、子供の心の安定に繋がる。

本やインターネットで調べ、災害時の子供に見られる反応を私たちは調べた。調べて分かったことは、子供は災害時の出来事に脳が追いつかず、普段はしない行動をしてしまう。しかし、保護者は異常な事とは捉えず、子供に安心できる空間を作ることが大切だ。

真庭市では大きな災害が起こらない限り、DWATの活動はない。

子どもに焦点を当てた活動等もしていない。

TRの時間は災害時の子供についての学習で、危機管理課と福祉課の方々に避難者に対する福祉支援についてコンタクトを取るために電話をした。話を聞いたり質問したりして真庭の現状を知ることができた。

子どもたちのおかれている現状と反応

- ▶現状 = 子供が必要とする安心感を得る事が難しい
- ▶反応 = 食欲がなくなる、イライラする、落ち着かなくなる、赤ちゃん返りをする

災害時の子どもの現状は環境により外で遊ぶことが出来ず、ただ避難所でじっとしている子どもがいるかもしれません。親が生活場所の確保のため奮闘し、避難所から一時的に不在になることもありえます。様々な環境の変化が子ども達にとって大きなストレスとなっている状況が容易に想像できた。

地域合同防災訓練で展示した「避難所での子どもの遊び場」

展示内容

- ・段ボールで作成したおもちゃ
- ・絵本・ぬりえ・ぬいぐるみ
- ・赤ちゃん段ボールベッド など

子どもたちが安心して楽しめる遊び場の提供を意識し取り組みました。



災害時の子供は周りの環境の変化でストレスを感じる事がわかった。ので、私たちは何が良いか調べ、子供のストレスを減らすため複数人で遊べる物や寝るために必要なベットを段ボールで作った。防災訓練での時はベットやコンロを展示した。

まとめ

・災害時の子どものメンタルケアは、まず保護者(周りの環境)から変えていく事が大切だとわかった。次の活動では、保護者など大人のメンタルケアについて調べようと思います。

・真庭市では、災害時の子どもに対する活動はしていないので、今後、災害が起こった時どのように対処するのか今から考えていく必要があると思った。

現状の被災地にいる全ての人々がストレスを溜めている状況で生活している。全ての人に健康とメンタルケアが必要です。なので、SDGsの3番、すべての人に健康と福祉にした。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

社会福祉協議会・真庭市役所危機管理課・福祉課・地域の方々

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どうしたことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(村瀬まひる)</p> <p>① 災害時の子どもの様子や避難所について、社会福祉協議会や危機管理課、福祉課などに電話をかけ真庭市では現在子どもに焦点を当てた活動等はしていない事が分かった。災害時における子どもへの対応策について、これからも学び、行動していく必要があると感じた。</p> <p>② 岡山は災害が少ないので、災害時にとるべき行動や災害の様子などあまり知らなかったが、このTRの活動を通して災害に対する理解が深まった。また、災害時の子どものメンタル状態について学び、適切な対応の仕方を学ぶことが出来た。</p> | <p>(桑木恒太)</p> <p>① 災害時の子どものメンタルケアについて調べていくことで、初めはまだはっきりと分からないことが多かったが、災害時の子どものおかれている現状や子どもの心情を学ぶことができた。学びから子どもに何をししてあげられるか考えることができた。</p> <p>② 同じ班のメンバーや他の班のメンバーの話に耳を傾け協力することが僕にはなかったがTRの活動を通して自然とできるようになった事はうれしかった。今後も他の人と協力して様々な活動をしていきたい。</p> |
| <p>(西田圭佑)</p> <p>① 今回のTRを通して、始めは詳しい計画をあまり立てずに活動をしていたために物事が進まず困る場面があった。きちんとした計画を立て、目標をもって活動することが大切だという事を学ぶことができた。次回からは見通しの通った計画と目標を立て、TRに取り組んでいきたい。</p> <p>② 僕たちのテーマについて調べていた時、あまり人を頼りにしてこなかったが、同じ班の三人と関わっていくうちに自分ひとりの力では限界があるけれど仲間と一緒に協力をすることが、大切だと感じるようになった。</p> | <p>(長沼凜)</p> <p>① 災害時の子どもの生活の仕方や、避難所での仕事の分担など、専門の方々に電話をし、また、HUGゲームを通してどのように対処すればよいのか学ぶことができた。次は災害時の生活をより生活しやすくなるよう改善していきたい。</p> <p>② 私たちは子どもに焦点を当てた取り組みをしていたが真庭市にはそういった取り組みはしていないということが分かった。今後も災害時の子どもについて学び、市役所など自ら積極的に提案し、実際に取り組んでいこうと思った。</p> |

【担当教員 中川かおり 講評】

今回は被災時の子ども達に焦点をあて調べ学習やおもちゃの作成等をメンバーと協力し一生懸命に取り組んでいる姿が印象的でした。日常から、子ども達の特徴をつかんでおき災害時には素早く対応できるように訓練をしておくことも大切ですね。また、真庭市の被災時における子ども達への支援の課題についても学ぶ良い機会となり、今後はその課題解決に向けて地域の方々と協力し取り組んでいけるといいですね。

『食から考える避難所運営』

13班 野村一貴 西山智哉 平山和

山崎百々花

活動の目的



- ①真庭高校が避難所として運営される際に食生活の場面で役立つような活動ができる。
- ②災害時に備えて備蓄の食器を使いやすい状態にする。

災害時に真庭高校が避難所として運営されることを想定し、高校生である私たちに何か出来ることはないかと考えました。調べ学習を行うなかで、卒業された先輩方が「かまどベンチ」を作成されていたことを知り、それを活用すれば避難所の食事の運営に役立つのではないかと考えました。

活動内容 1-1

自衛隊の方との訓練

- かまどベンチを使用し飯ごう炊飯を実施
- 飯盒の使い方について
 - ・外蓋すり切り：三合
 - ・内蓋すり切り：二合
 - ・水の量：飯盒の中の線が目印
 - かまどベンチについて
 - ・最大で一回に約2升のお米が炊ける。



1つ目の活動では、自衛隊の方に飯合について教えてもらいました。飯合の蓋で米の量をはかれることが分かりました。米は学校のかまどベンチで炊きました。かまどベンチでは合計6つの飯盒をかけることができ、約2升のお米が炊けることが分かりました。

活動内容 1-2

○炊き方のコツ

- ・火をつけた時、黒い煙が出にくい木を使う。
<例> 杉の木など
- ・お米の炊けたいいにおいてお米の炊き具合を判断する。
- ・飯盒を約10分間ひっくり返して蒸す。



自衛隊の方にいかまどベンチを使ったご飯の炊き方を教えてもらいました。今回は、学校にある廃材を使いましたが、本来は火の出にくい杉の木などを使うといいと教えてもらいました。また、炊き方のコツでは、米の炊き具合の判断のしかたやひっくり返して蒸すことなどを教えてもらいました。

活動内容 2 食器作り

- ・新聞紙で食器を作った。
 - 1/2の大きさだとお茶碗約10杯分くらいで大きすぎた。
 - 1/4の大きさで作ると約3人分のおにぎりが入る食器を作ることができた。



2つ目の活動では、新聞紙での食器作りをしました。最初1/2のサイズで作るととても大きくなったため1/4で作ると丁度いいサイズにすることができました。1/4のサイズではおにぎりが10個くらい入るサイズにでき、ラップに包んだおにぎりをいれました。ラップに包むことで新聞紙を汚さず再利用できます。

活動内容 3 食器の在庫確認

- ①学校にある飯合や食器等の在庫の調査を実施。
- ②段ボールにつめ直して個数と入っているものの名前を書き整理整頓を行った。
- ③保管倉庫のドアに食器の保管場所を提示した。



3つ目の活動として、学校にある災害時に使う食器や飯合の数を調べました。そして、どこにあるのか一目で分かるよう段ボールに名前を書くなどして整理しました。

まとめ

今回のことを通して飯盒でお米を炊けるようになり、災害時の食事を準備する場面で役立つような活動ができた。また、災害時に使う食器を自分たちで整理したことで災害が起こった時にすぐ準備することができ、目的を果たすことができた。そして、普段からの備えが大切だと分かった。



この活動を通してSDGsの3番について考えることができました。まだすべての人に対する避難所の食事について考えられていないので今後は高者などにも目を向け、考えていきたいです。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

自衛隊の方々、地域の方々、副校長先生

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どうということを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(野村一貴)</p> <p>① 食事は健康を維持するために欠かせないものであり、災害時の場面においても安定した食事が提供できるように自分たちが率先して活動に関わらなければいけないことが分かった。さらに、災害時に自分たちができることは何かを考えることができるようになった。</p> <p>② 今までは災害は他人事のように考えていたが活動を通して防災や地域の方々へも目を向けることができるようになった。</p> | <p>(西山智哉)</p> <p>① 災害時の食べ物の支給には十分な食料を集めて作るにはとても時間がかかるため容易ではないものだとは学ぶことができた。そのため、安全で美味しく、さらに早く作れる食についてもっと知るべきだと思った。今後も学習を積み、スムーズに食べ物の支給が出来るよう試行錯誤をしていくべきだと感じた。</p> <p>② 日々のTRの活動や成果発表を通して、人前で少しは話せるようになり、自ら取り組みに参加できるようになった。</p> |
| <p>(平山和)</p> <p>① 飯盒の構造や炊き方などを初めて知り、災害時では飯盒をどう使うか、お米の炊き具合はどうなのかという大変さを体験することができた。また、この体験から災害時での美味しい食事を提供と健康の維持ができる食の技術を学ぶことができた。</p> <p>② 今までは災害時の知識が全くなかったため避難所では活躍できなかったと思うが、災害時における食の技術を自衛隊の方々に教わり身につけたことで、今後は自分でも何か協力できるのではないかと感じた。</p> | <p>(山崎百々花)</p> <p>① 私はTR活動を通して、飯盒でのお米の炊き方など災害時の食事について知ることができた。また、そこから災害時にご飯を用意することの大変さを実感して学ぶことができた。</p> <p>② 今までは、災害が起こった時の事や避難所をどうやって運営すればいいのかなど考える機会はなかったが、TRの活動から災害があった時避難所でどのような手伝いができるかなどを考えられるようになった。</p> |

【担当教員 中川かおり 講評】

避難所の生活においては、配給される飲食物や調理設備に限られるため様々な年代や1人1人の健康状態に合わせた食事の提供が困難な状況にあります。今回の皆さんの活動はそのような被災時に対応できるよう校内の調理器具や食器の整備をメンバーと協力して取り組むことができていましたね。また、自衛隊や地域の方々にご協力いただき様々な生活体験をさせていただくことでこの1年で逞しくなったように思います。これからも積極的に取り組み、自ら考え行動できる人に成長していきましょう。

『真庭高校生でもできる災害対策についての研究』

14班 山本大誠 瀧本稟 中塚麻景 古堤心

【活動の目的】

真庭高校が災害時の避難所となった場合の避難所運営の課題を把握する。

このテーマを調べようとしたきっかけは西日本豪雨などの災害が起きたことで災害を身近なこととして考えるようになったことである。

これらのことから真庭高校が避難所になったとき、私たちができることがあるのか、どのような課題があるのか気になり調べることにした。

【HUGゲームをやってみて】

<HUGゲームでの学び>



- ・避難所には様々な年代や人種の方が避難してくることが分かった。
- ・限られたスペースの中でコミュニティーを生かした配置をすると避難者が生活を過ごしやすいかと感じた。
- ・次々と避難されてくる方にベストな配置を考えることの難しさを知ることができた。
- ・情報量が多くこれが現実におこると整理しきれないと感じた。

など..

避難してきた人数が増えれば増えるほど運営が難しくなり食料問題などが出てきた。課題の中でも一番は衛生面の管理だった。例えば、避難してきたときにできた傷から発生した感染症などの病気になってしまう人が出てきてしまうことがある。このHUGゲームの中で失敗してしまうことは避難者全員を受け入れてしまっただけで避難所が満帆になってしまうことだった。

【避難所運営を体験してみ①】



地域合同防災訓練では、作成した段ボールベッドを活用し避難所での生活スペースを体育館内に再現し避難所の展示を行った。

<活動での学び>

思っていたより狭く、1人1人のスペースを仕切りで区切り、場所の確保の配慮を行うが実際には沢山の避難者がいると想定すればプライバシーの確保が難しいと感じた。

自分たちが避難所で生活する時、沢山の避難者に人と生活する上でプライバシーの保護はどうなっているのかが気になったことをきっかけに避難所運営の中で「住」を視点に活動を行った。この活動をする中で問題が多く発生した。例えば段ボールベッドを作成するにあたり段ボールを大量に使用するため同じ形のものを探すことにも時間がかかるという問題が発生した。

【避難所運営を体験してみ②】

今はなき山岳部で使用していたテントを活用して自衛隊の方に協力いただきグラウンドにテントを設置し避難所として過ごしてみた。

<活動での学び>

02月02日

- ・テント設営は説明書があれば簡単に立てる事が出来ると感じた。
- ・設営の手間はあがるがプライバシーは比較的守られやすいと感じた。
- ・夏は暑く、冬は寒いので対策が必要と感じた。



地域合同防災訓練でテント運営を体験した。テントを設営するとき自衛隊員の方が指導してくれたおかげで手間をかけることもなく終わらせることができた。この体験を通して気がついた課題は、立てる方法が分かる人がいないと時間がかかってしまうということだった。これらの課題を解決するために説明書を作った。テントは古いものが多くて、カビなどのおいがあった。

【学び】

<避難所>

- ・プライバシーが守られるように仕切りを作ることが大切
- ・年齢、性別、病気なども配慮しながら運営していかなくてはならない
- ・テントなど、災害時使えらるよう日ごろから、状態を整える必要だと感じた
- ・トイレ、食料など生活には欠かせないものは多く手配していかなければいけない
- ・家族や団体などの中にも一人ひとりのスペースを確保する必要があった

災害について学ぶ中で気になったことは、災害の時には多くの人が避難してくるため段ボールが不足し段ボールベッドを使用できない人や状況によっては素早く段ボールベッドが作成できない場面もあるのではないかと気になった。僕たちが作った段ボールベッドよりも簡単に作れる段ボールベッドを考え作り直す必要があると考えた。

【まとめ】

- ・実際にテントを立てる・段ボールベッドをつくるということをして想定して一人ひとりの区域を作ってみるなどの体験をして
- ・困る点、改善点などを自分たちで考えることができた。
- ・体験することによって少しでも被災者の気持ちに寄り添うことができた



段ボール不足、プライバシーの保護が確保できていないなどの問題点を解決するためにネットでの情報や地域の人の、実際に災害にあった人の意見を取り入れて素早い対応ができる対策をしていきたいと思った。もし真庭市で災害が起きた時に、避難してきた人が安心して過ごせるようにすることが今後の私たちの目標である。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

自衛隊員、消防隊員、3年生の先輩、地域の方々

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(瀧本稟)</p> <p>① TRを通して災害時のテントの張り方を学んだ。テントの張り方や必要な部品を確認し実際に経験することで、慣れないと早くテントが張れないことが分かった。災害時に困らないよう早く建てられるようになりたい。</p> <p>② 今までは災害時どのようにすれば良いか分からなかったが、TRを通して自ら行動したいと思えるようになった。その時のためにどう行動するかを今から考えていきたい。そしていちばん変化したことはみんなと協力できるようになれたことだと思う。</p> | <p>(山本大誠)</p> <p>① 自衛隊・消防隊・教員の方々の協力してもらい、テントの立て方や避難所運営に関する課題、災害に関する知識など、沢山学ぶことができた。そして、自分たちができることを見つけることができた。</p> <p>② 入学当初は誰かに何かを教えたりすることができなかったが、TRの班長を務めることで率先して物事を調べ、班員にいろいろな知識を提供することができた。また、指導いただく内容をいかに自分のものにできるのかをよく考えるようになり、積極的に体験も行えるようになった。</p> |
| <p>(古堤心)</p> <p>① 災害時に使用するテントや災害時に使用するダンボールベットの組み立て方、作り方など初めて知ることが出来た。避難所の運営で大切なことなど今まで考える事なかった事について詳しく調べ、体験することで何が大切かなどわかるようになった。</p> <p>② 今までは災害時の非難の方法や災害時の必要物品など全く知らなかったがTRを通して自分事となり、少しずつ考えられるようになった。避難所運営以外に他県であった災害のことや、その時の運営仕方などにも目を向けられるようになり関心をもって考えられるようになった。</p> | <p>(中塚麻景)</p> <p>① 避難所運営の難しさ、テントの立て方、ダンボールベットの作り方、避難所での生活の大変さなどが調べていくうちに分かるようになった。そして、今の自分でも出来ることや協力できることが沢山あることに気付くことが出来た。</p> <p>② 今までは災害を自分の事として考えてこなかったが、災害について向き合い、今自分ができることとは何かを考えられるようになった。生まれる前の災害などにも関心を持てるようになり、習得した知識を生かして自分達が率先して取り組みたいと考えられるようになった。</p> |

【担当教員 中川かおり 講評】

避難所は地域の方をはじめとし様々な方が安全な場所を目指し避難してこられる場所です。今回、HUGゲームを通して避難所運営の難しさや課題を体感しその学びを生かしてより良い生活の場が提供できるよう創意工夫をこらし皆で協力し合いながら活動に取り組むことが出来ましたね。災害時にはみなさんのような高校生の力が必要不可欠です。日頃から自分にできることを考え、災害時には今回の学びを生かし行動できる人になれるよう頑張ってください。

『トイレの必要性 ～災害が起きた時のために～』

15班 屋敷千颯 西田葵 谷口久利生

なぜ調べようとしたのか
避難所で一番大事なものは何だろうか。
もし避難したら...
ライフラインが途絶えたら...


トイレだ！

自分たちは災害がおき、避難所に避難した時一番必要なものは何かと議論し、水などのライフラインが途絶えたらと考えトイレについて調べようと思いました。

避難所でのトイレについての問題

プライバシー
衛生面
耐久性
数の少なさ



感染症などの二次災害が起これば...
う...



避難所のトイレにおける問題は排泄物を上手く処理できないことによる衛生面、たくさんの方がトイレを使うことによる耐久性、プライバシーの確保、数の多さであり、これらを守らなければ感染症にかかったりストレスなどが溜まってしまいます。

簡易トイレの種類と比較

| 段ボールトイレ | 仮設トイレ |
|----------|----------|
| ○耐久性○ | ○耐久性○ |
| ○衛生面× | ○衛生面○ |
| ×プライバシー○ | ○プライバシー× |
| ○大量生産× | ○大量生産○ |




この二つのトイレの比較をしていきます。耐久性はどちらも良く、頑丈で、衛生面は仮設トイレだと中身の入れ替えができないためきたなく、段ボールトイレは中身を変えられるのできれいです。プライバシーは仮設トイレはドアがついているのでまもれますが、段ボールトイレは丸見えです。段ボールトイレは簡単に作れるので、大量生産可能です。仮設トイレは重いため大量生産にはむいていません。

実際作ってみて...

良い点
中身に工夫を加えて何度でも使えるように！
中身を取り換えることで使いまわし可能。
衛生面、耐久性が良い。
量産型。

悪い点
プライバシーが守れない...



これらの問題点を比較し、実際にトイレを作ってみました。吸水性のあるシートを中に入れ、耐久性、衛生面、数の多さを考えたトイレを作れました。しかし、このトイレではプライバシーを守ることができていないため、完全に問題を解決したことにはなっていません。

地域合同防災訓練を行って


自衛隊の方や地域の「子供たちからヒントをもらえた。」
↓
テントの中に作れば...
プライバシーは守られる。



自衛隊の方々や地域の子どもたちと解決策を考えた結果、テントの中にトイレを設置するとかがえました。少し臭いが気になりますが、プライバシーを守れます。

～まとめ～

避難所でもトイレは大切。
率先して避難してきた人たちの力になりたいと思った。
災害に備えるための知識が高まった。



自分たちがトイレについて考え、災害に備えるための知識が高まり、トイレのありがたみを改めて知ることができました。もし、自分たちのトイレが避難所に提供されたらいいなと思いつつ、避難所の人たちの助けになりたいと思いました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

自衛隊の方々・地域の子どもたち

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(西田葵)</p> <p>① 自分の意見もきちんと尊重し、相手の意見を聴くことでより良いものが作れることが分かった。メンバーの人達と作業していくことが大切だと思った。</p> <p>② TRでの活動を通して今までは自分の意見をはきはきと言えなかったが、今では前よりも自分の意見が言えるようになった。</p> | <p>(屋敷千颯)</p> <p>① 1年間避難所でのトイレについて調べ、作成し班の皆と協力することで、トイレについて分かっただけでなく、自分一人じゃできないことも皆と協力すればできるということ、避難した際に自分でも何かできるということを学んだ。この1年で学びを災害時に生かせるようになりたいと思った。</p> <p>② 今まで、防災にそれほど興味がなかったが1年間避難所でのトイレについて調べることで、知識はもちろん自分でも災害時に何かできるのだと気づいた。自分達が今回作ったトイレが避難所に提供されてほしいし、もし提供されなくても避難所に避難したときには率先して誰かの役に立ちたいと思った。</p> |
| <p>(谷口久利生)</p> <p>① 災害が起きた時の問題として避難所のトイレについての問題があることを知ることができた。さらに、調べていくと避難所でのトイレにはプライバシーが守られにくい環境であること、衛生面を維持する難しさがあること、多数の人たちが利用するため耐久性が必要といった問題があることを知った。</p> <p>② 災害が起こった時に自分たちができる行動は何か考え、取り組んでいこうという思いが高まった。TRの発表では勇気を出して発表することができた。</p> | |

【担当教員 中川かおり 講評】

被災地の避難所ではライフラインが途絶えトイレが使用できない状況や健康被害や衛生面の問題が繰り返し報告される現状にあります。みんなはその課題と真剣に向き合い、解決に向けて試行錯誤を繰り返し取り組むことが出来ていましたね。成果発表では、責任をもって1人1人が役割を果たし堂々と発表することが出来ていました。みんなの活動が地域の避難所の質の向上につながるよう今後も協力をして取り組んでいきましょう。

『3カ国の衣食住(日本・韓国・ブルガリア)』

16班 久保琴充 前田彩花

選択したSDGsと調べたこと

調べたこと

世界の衣食住
その国の特徴

調べた国
アジア州・・・日本
韓国
東南ヨーロッパ・・・ブルガリア

活動の目的
他国の文化を少しでも理解して多文化共生を目指す。



他国の文化について理解が少ないことが、多文化共生を目指す上での課題だと思い、調べることにした。

三カ国の伝統衣装を調べた


日本の伝統衣装 着物
・時代それぞれの特徴を持ちその風潮にあった形になっている

韓国の伝統衣装 チマチョゴリ
・男女共通の上着であるチョゴリと巻きスカートであるチマによって構成される

ブルガリアの伝統衣装 スクマーン
・亜麻布で作った長袖のワンピースの上に重ねて着る

共通点
・衣類がワンピースのようにつながっている形

相違点
・三カ国の生地が違う



日本・韓国・ブルガリアで伝統衣装として昔からある服について調べた。それぞれの国ごとに全く違い、韓国と日本のように近い国でも生地や形が違った。


日本以外の食事を作ってみた!

キンパ

- ・日本との違い
- ・野菜本来の味を生かしている
- ・日本で例えると手巻き寿司のようだった

ポガチャ

- ・日本との違い
- ・とつても固いパン
- ・味がない
- ・大きい



3カ国の料理を実際に作り、比較した結果、日本の料理は味が濃いものが多く、韓国やブルガリアは味が薄いものが多いことが分かった。

三カ国の住居について

日本・・・畳がある 独特なスペースがある

韓国・・・廊下がない 冷蔵庫が二つある

ブルガリア・・・石造りの家 平らな石を屋根瓦につかう

共通点
・ない

相違点
・気候によって家の作りが違う



人々が普段住んでいる住居については国それぞれの特徴があり共通点はなかった。国によって機構が違うため、外壁などの家の作りはかなり違いが出ている。


考察

- 今回調べた三カ国の似ている点
 - ・日本と韓国ではお米を食べている
 - ・衣服の生地が違う類がワンピースのようにつながっている
- 異なる点
 - ・気候が違うから住居の作りが違う

近い国でも食事や住居の違いが分かり、国それぞれの文化や特徴あってとても興味深かった。

まとめ

- ▶ 他国の文化を理解することにより多文化共生の実現につながる
- ▶ 多文化の人でも住みやすいまちづくりができる



この活動を通して様々な国の文化の理解を深め、多くの人に他国の文化を紹介し、多文化共生の実現に貢献したい。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

なし

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(前田彩花)</p> <p>① パワーポイントを作ったりインターネットで調べたりする役割を果たした。役割を果たすことで協力することができ、それが大切なことだとわかった。</p> <p>② 今までの自分では何か物事を進めるときに人に聞かずに調べて自分で解決しようとしていた。だが、班のメンバーが先生に聞いているのを見て私も人に聞いてほかの人の意見を聞こうと思うようになった。</p> | <p>(久保琴充)</p> <p>① 三か国の特色や伝統衣装について学べた。気候などによって、それぞれ住居や衣装、食が違ふことについて学べた。班のメンバーとの話し合いで人と話す力、意見を共有する力が身についた。</p> <p>② もともと世界のことについて、興味はあったけど調べようとは思はなかったので、調べられる良い機会になった。世界について、もっと知りたい、調べたいという意識へと変わった。</p> |
| | |

【担当教員 乙部博章 講評】

自分たちでテーマを見つけて、積極的に探究活動ができていました。特に他国の料理を調べて調理する際には、必要な材料、作り方等を調べて役割分担をして作業ができていました。物事の調べ方、計画の立て方を学ぶことができていたので、2年次にはより深い探究につなげることができると思います。

『世界の祭りと地域の祭り』

17班 岩崎麗奈 谷本芽依 小野夕香子 名越優里

活動の目的
 久世・落合祭りと他国の祭りを調べて比較し、文化の違いを見つけて理解することで、真庭地域を外国の方々でも住みやすい街にしたい。

内容

- ・久世祭りについて保存会の方に話を聞いた
- ・久世祭り・落合祭りについて調べた
- ・中国のお祭りについて調べた
- ・中国のお祭りで作られていたお菓子を作ってみた

真庭地域を外国の方でも楽しめる祭りで、活性化したいと思い、真庭地域と海外の祭りについて調べた。

真庭地域のお祭り①
 ～久世祭り～ だんじり保存会の仁枝さんにインタビュー

- ・毎年10月24・25・26日に久世地域で行われる
- ・派手な祭りで2000～3000人が来場
- ・豊作祈願のための行事が起源となった
- ・だんじり同士をぶつける喧嘩だんじりが行われる

だんじり保存会の二枝さんにインタビューを行い、起源・歴史やだんじり喧嘩についてなど、久世祭りについて多くのことを知ることができた。

真庭地域のお祭り②
 ～落合祭り～

- ・毎年10月20・21日に落合地域で行われる。
- ・豊作祈願のための行事が起源。
- ・伝統料理 鯖寿司(参加者のみ)
- ・西組 栄組 が毎年踊りを披露

真庭高校の近くで行われている祭りで起源は、久世祭りと同じく豊作祈願であることなどが、調べた結果わかった。

中国のお祭り
 ～ヤンコ祭り～

- ・宋時代から行われている。
- ・起源は農業、田植えの豊作祈願のため。
- ・現代は他にも何かめでたいときにも行なわれる。
- ・内容は踊り、行進がメインとなっている、ダンス大会が行われることもある。

日本の近くの国である中国の祭りを調べると、豊作祈願のために行われることなど、落合・久世祭りとの共通点があることが分かった。

中国の伝統的なお菓子
 サンザシ飴

サンザシの実を飴で固めた
 日本でいうリング飴のようなお菓子

1 サンザシ飴

ヤンコ祭りでするまわれる中国の伝統的なお菓子のサンザシ飴を、身近な食材で代用して作った。作るのは大変であったが、味はおいしかった。

まとめ

- ・中国にも真庭地域にもその年の豊作を願って行う祭りがあった
- ・中国も日本も、派手な祭りだった。

地域のお祭りを世界に発信する
 →観光客を増やす
 →地域の活性化

⇒住み続けられる町へ

中国と日本の祭りには共通点があることがわかった。今後は、地域の祭りに実際に参加して、祭りについて詳しく知り、地域の活性化に活かしていきたい。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

二枝 章 様 (久世祭りだんじり保存会)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(谷本芽依)</p> <p>① 久世祭りと落合祭りについて調べ、久世祭りについては、だんじり保存会の二枝さんにお話を伺い、久世祭りについてより詳しいことが分かった。また中国のヤンコ祭りについて調べ、真庭地域の祭りとの共通点などが分かった。</p> <p>② 中間発表などを通して人前に出るのがあまり好きでなかった自分が落ち着いて人前に出られるようになった。またTRの時間の時にリーダーになったことを通してあまり意見をまとめるのが得意ではなかった自分がみんなの意見をまとめられるようになった。</p> | <p>(名越優里)</p> <p>① 一人では難しいことでも、メンバーと協力してお互いに協力しあうことでやり遂げられるということを学んだ。</p> <p>② パワーポイントの作成などを通して、自分の意見を伝えるのが苦手だったが、積極的に伝えることができるようになった。</p> |
| <p>(岩崎麗奈)</p> <p>① メンバーと一緒にいたら困難があっても、お互いに協力しあい支えあうことで、同じ達成感を味わうことができる事を学んだ。</p> <p>② スライドを作成するときに改善点を述べ、良いスライドができるように意見を伝える事ができるようになった。</p> | <p>(小野夕香子)</p> |

【担当教員 乙部博章 講評】

テーマを自ら探し出し、よく調べることができていたと思います。特に、だんじり保存会の二枝さんへのインタビューでは、自分たちで必要な質問を考えて、訊ねることができていました。スライド作成においても、メンバーで話し合いながら、良いスライドが作ることができていました。来年の探究活動にも活かしてほしいです。



第2学年



花谷・宗田・難波
森下・中山・沼野
矢吹・山口・古賀
宮地・小林



令和2年度 2年生 課題探究サポートB 真庭トライ&レポート (TR) 年間活動計画

| 月日 | 探サポB (金曜5限) | | | | | TR (金曜6限) | | | | | | | | |
|--------------------------|-------------|--|------|------|-----------|-----------|---|---|------------------|-------------|--|------|--|--|
| | 回 | 内容 | 形態 | 活動場所 | 担当者 | 回 | 内容 | プロセス | 評価 | 形態 | 活動場所 | 担当者 | | |
| 4月17日 | | TR^ | | | | ①② | ■全体ガイダンス (春休業課題→これまでこれから)
■チャンネル希望調査 | (1)テーマ導入 | 評価1 | 2年全体 | 会議室 | 宗田 | | |
| 4月24日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月1日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月8日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月15日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月22日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月29日 | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月5日 | ① | 思考の手引き～整理・分析編
～テキストLesson07 | 2年全体 | 会議室 | 担任①
宗田 | ③ | ■チャンネル内グループ割 (1班4名)
■探究活動計画とテーマ設定 | (2)テーマ決定
(3)探究活動計画 | 評価1 | 各チャンネル | ①1限
②2限
③3限
+
【電算】
【模擬費】
【図書】
【社会科】
【物理】
【生物】
【化学】
【地理】
【保健】
校外など | 各担当者 | | |
| 6月12日 | ② | 思考の手引き～整理・分析編
～テキストLesson08 | | | | 担任②
古賀 | ④ | ■探究活動
◎五感を通じた実体験を積み重ねる。
◎input (読む聞く)
→output (話す書く行動する)
→outcome (成果・効果) | | | | | | |
| 6月19日 | ③ | 思考の手引き～整理・分析編
～テキストLesson09 | | | | 担任③
森下 | ⑤ | ○自分の目で見る、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる。
○メディア情報 (本・TV・PC) だけに頼らない。
・各プロジェクトで外部講師講演OK
・図書館・インターネットでの調べ学習
・校外インタビュー
・アンケート (生徒・教員・保護者・地域) | | | | | | |
| 6月26日 | ④ | 思考の手引き～整理・分析編
～テキストLesson10 | | | | 担任④
難波 | ⑥ | ・実験・実習・制作
・カメラ・ビデオ活用・パソコン
・調査 (同じ場所に複数回) (異なる場所で比較分析) | | | | | | |
| 7月3日 | | TR^ | | | | 7⑦ | | (4)探究活動① | 評価II
III | | | | | |
| 8月
特別時間割
8/3,4,5,6 | ⑤ | 夏季休業課題
探究レポート説明
(シンキングツール活用) | 2年全体 | 会議室 | 中山 | 9⑧ | ■9/25中間発表会に向けたまとめ (パワーポイント作成)
MANIWAch→電算室、こち防ch→視聴覚教室
・スライド6枚 (作成マニュアルあり)
・プレゼン練習 (原稿なしで発表) | (5)まとめ① | 評価I
II
III | 2年全体 | 会議室 | 2年団 | | |
| 9月11日 | ⑥ | 夏季休業課題
探究レポート発表 | 2年全体 | 会議室 | 担任5
宮地 | 10⑨ | ■9/25中間発表会に向けたまとめ (パワーポイント作成)
MANIWAch→電算室、こち防ch→視聴覚教室
・スライド6枚 (作成マニュアルあり)
・プレゼン練習 (原稿なしで発表) | (6)発表① | | 2年全体 | 会議室 | 2年団 | | |
| 9月18日 | | TR^ | | | | 10⑩ | | (6)発表② | | | | | | |
| 9月25日 | | TR^ | | | | 10⑪ | | (6)発表③ | | | | | | |
| 10月2日 | | TR^ | | | | 10⑫ | ■探究活動
◎五感を通じた実体験を積み重ねる。
◎input (読む聞く)
→output (話す書く行動する)
→outcome (成果・効果) | (4)探究活動② | 評価II
III | 各チャンネル | ①②③
+
④
上記参照 | 各担当者 | | |
| 10月9日 | | TR^ | | | | 10⑬ | | | | | | | | |
| 10月16日 | | TR^ | | | | 10⑭ | | | | | | | | |
| 10月23日 | 7⑮ | ■一生使える探究のコツ
実践の手引き～基礎編
(1/1/1)
(課題研究ポッド
StartBook) | 2Fのみ | 会議室 | 中山 | 11⑮ | | | | | | | | |
| 10月30日 | 8⑯ | ■パフォーマンス評価 | | | | 11⑯ | | | | | | | | |
| 11月6日 | 9⑰ | | | | | 11⑰ | | | | | | | | |
| 11月13日 | 10⑱ | | | | 杉
花谷 | 11⑱ | | | | | | | | |
| 11月20日 | | (トレッキング大会) | | | | | | | (4)探究活動② | 評価II
III | | | | |
| 11月27日 | | TR^ | | | | 12⑲ | ■探究活動◎五感を通じた実体験を積み重ねる。
◎input (読む聞く) →output (話す書く行動する) →outcome (成果・効果) | | | | | | | |
| 12月18日 | | TR^ | | | | 13⑳ | ■1/15学年発表会に向けたまとめ (パワーポイント作成)
MANIWAch→電算室、こち防ch→視聴覚教室
・スライド6枚 (作成マニュアルあり)・プレゼン練習 (原稿なしで発表) | (5)まとめ② | | 各チャンネル | ①1限
②2限
③3限
+
【電算】
【模擬費】
【図書】
【社会科】
【物理】
【生物】
【化学】
【地理】
【保健】
校外など | 各担当者 | | |
| 12/21,22,23
PM | | | | | | | 二者面談中は午前中授業で、午後がフリー!
その午後を使って1/15チャンネル内発表会に向けたまとめ | | | | | | | |
| 1月15日 | | TR^ | | | | 14㉑ | ■学年発表会→代表班選出 (MANIWA④?、こち防①、ユネスコ①) | (6)発表② | 評価I
II
III | | | | | |
| 1月22日 | | TR^ | | | | 14㉒ | ■成果発表会に向けてパワーポイントなど発表準備 (代表班)
■まとめ用子原稿作成 (全班) | (5)まとめ③ | | | | | | |
| 1月27日 | | 1/29 (金) マラソン大会 → 1/27 (水) 7限LHR | | | | 14㉓ | 原稿A: PPTスライド+メモ、原稿B: 気づき+担当教員講評
※成果発表会後、TRなし→成果発表準備と並行してまとめ用子原稿作成。 | | | | | | | |
| 2月5日 | | TR^ | | | | 14㉔ | ■TR成果発表会
学校に戻ってきてアンケート記入
(アンケート予備日: 2/17学年末考査前日午後カット終礼時実施) | (6)発表③
(7)フィードバック
電話 | | 全校 | 総合総合
センター | 2年団 | | |

探サポBへ
(2年生看護科実習期間中のため)

■2年団: 花谷・宗田・難波・矢吹・古賀・森下・宮地・山口・沼野・小林ま・中山

■形態: 学年単位とし、3年間を通して段階的に発展していく。3年間の見通しをもって、総合的な探究の時間『真庭Tri&Report (TR)』を計画する。

【第1学年】『HOW TO LEARN』(ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ) 課題別グループ学習【興味・関心を広げる】

【第2学年】『WHAT TO LEARN』(自分で課題を設定し、調べる) 進路別課題学習【知識・理解を深める】

【第3学年】『HOW TO LIVE』(進路実現・卒業後の生活のために学ぶ) 進路別課題学習【具体的な自身の進路実現】

■学校全体TRテーマ『SDGs』

■まとめ冊子のデータを有効活用してください!

RO1まとめ冊子P.24: 真庭市SDGsパートナー一覧、H30まとめ冊子P.75: 地域の匠・名人・プロフェッショナルの方々、H29まとめ冊子P.78: 特別活動記録メモ (コンテストやイベント)

■2年生68名【普通科36名+看護科32名】→3チャンネル 普通科看護科混合、1班4名が基本 【①11班44名・②4班15名・③2班9名】

▼11月14日 (土) 真庭ひとつながりフォーラム (@総合総合センター) で①②③代表生徒発表

▼1月29日 (金) 地産創進ハイスクールサミット (@鳥取中央育英高校) で代表生徒発表

| CH | チャンネル名 | 活動内容 | 生徒数 | 班番号
(USB番号) | 活動場所 | 担当者 |
|----|-------------|--|----------------|----------------|------|-------------------------|
| ① | MANIWAチャンネル | ■フリーテーマで課題設定、昨年度の継続的な取組にも期待。
コミュニティスペース活用、トンボ学生服廃材活用、森林資源活用など
真庭市役所、真庭いきいきテレビ、地産おこし協力隊、落合重水向津矢住長会、しめ山プロジェクト | 44名
(16・28) | 11班 (1~11) | 1組HR | 宗田 中山
難波 森下
花谷 沼野 |
| ② | こち防チャンネル | ■こち防高校市民防災防犯 (こち防)
6月兵庫県青少年高校訪問 (事前準備・事後振り返り)、8月リーダー研修会 (県・校内)
11月地産創進ハイスクールサミット、11月全国防災フェア@東京、1月兵庫県青少年高校研修
【土砂崩れ・洪水・地震・火災】を各班テーマに探究活動? | 15名
(3・12) | 4班 (12~15) | 2組HR | 矢吹
山口
(小林ま) |
| ③ | ユネスコチャンネル | ■ユネスコスクールとしての活動
11月岡山県高校ユネスコスクール実践交流会 (事前準備・事後振り返り)
ブルガリア高校生との交流・ブルガリア研修 | 9名
(5・4) | 2班 (16~17) | 3組HR | 古賀
宮地 |

■コロナ情報メモ ■ 外部への直接交流体験は難しいので...

▼学習動画紹介、家で何ができるか、youtube (小中高生向けなどターゲットを明確に)、テレワークやってみよう! LINEグループでテレビ会議やってみよう! 家にいながらできるSDGs

▼春休みみんな何してた? (雨晴天気関係ある? 起床時間就業時間は? スマホ何時間? ゲーム? 手伝い? 勉強? オリジナルで考えた遊び・勉強ある?、よく入れたアプリは?)

一問一答は? 一提案 (個人・家族・地域の視点や、小中高生向けの視点)

▼海外の小中高は? ユネスコスクールネットワーク活用で交流可能。

令和2年度 2年TR学年発表会

■ 令和3年1月15日(金) 3・4・5・6限 @会議室

■ 2年生68名(普通科36名・看護科32名) 3チャンネル全17班 各班7分発表・2分教員コメント

①MANIWAch
11班 44名

②こち防ch
4班 15名

③ユネスコch
2班 9名

◎2月5日成果発表会の代表班を決めます。
①MANIWAch 4班、②こち防ch③ユネスコch 1班ずつ、
自分の班以外で「代表にふさわしい!」班3つを選ぶ。
(みなさんのO印は選出の参考データとします)

| 順 | 班 | 発表タイトル | 班員 | 代表に!
O印3つ | メモ | 日程
3限10:55-挨拶
確認事項
自分の名前を○で囲む
その横に●
6分1チャン→7分2チャン |
|--|----|---------------------------|-------------------------|--------------|----|--|
| 1 | 3 | 外国人労働者が住み続けられる街づくりを～in真庭～ | 佐田笙華・中山萌・塚本香菜・原田美空 | | | 11:00-11:09 |
| 2 | 4 | 国際交流を地域活性化へ | 遠藤翔・長尾愛楓・尾崎美・服部海成 | | | 11:10-11:19 |
| 3 | 1 | 落合ヒカリプロジェクト | 澤山希望・小野愛美・築澤ありさ・河原真心 | | | 11:20-11:29 |
| 4 | 2 | 子どもの豊かな想像力を育む映像教材 | 黒田真衣・佐田光・出口璃々・寺崎友香 | | | 11:30-11:39 |
| 5 | 5 | エコバッグ～LET'S REMAKE～ | 中山あみ・林実来・松岡里佳・山口こまち | | | 11:50-11:59 |
| 6 | 6 | 免疫UP料理に挑戦!! | 梶田瑞樹・古川雄斗・大林久姫・岡崎芹奈 | | | 12:00-12:09 |
| 7 | 7 | Let's think!! ～考えることの大切さ～ | 森谷光喜・森元偉楓・中川心那・船木優愛花 | | | 12:10-12:19 |
| 8 | 8 | 定山で ディスカバる 俺達 | 松岡言織・丸本裕士・村上太郎・坂本勇輝 | | | 12:20-12:29 |
| 9 | 9 | タイダイ染め～流行を体験・研究～ | 中山拓斗・山本泰誠・横田実夢・山田宝良 | | | 13:10-13:19 |
| 10 | 10 | 未来へのスキルアップ～落合編～ | 石本陽暉・大谷友哉・櫻井希・林愛音 | | | 13:20-13:29 |
| 11 | 11 | 「真庭」をたずね 「私」を知る | 小見山結名・寺崎千夏・藤田梨紗子・牧美澪 | | | 13:30-13:39 |
| 12 | 12 | 消防士とロープワーク | 戸田優希・保田柚月・柴田将 | | | 13:40-13:49 |
| 13 | 13 | 障がい者と防災 | 仁澤亜紀・小林伊織・宮地樹音・森下真妃 | | | 13:50-13:59 |
| 14 | 14 | 救護 | 中畑澪・平田らん・水杉七聖・溝尾杏美里 | | | 14:10-14:19 |
| 15 | 15 | 衛生管理 | 渡野彩華・岡田千菜歩・森岡美暹・山田昌 | | | 14:20-14:29 |
| 16 | 16 | 日本の文化と外国の文化の違い | 嶋田廉・辻総太郎・本多真人・山口敦啓・横村孝太 | | | 14:30-14:39 |
| 17 | 17 | 海外の食と文化 | 浅尾心・大原菜緒・貝阿彌葵・加藤愛梨 | | | 14:40-14:49 |
| <p>当日連絡! ⇒</p> <p>持参物: □筆記用具・□ひざかけ・□自分たちの班の発表に必要なもの
2限が終わったらすぐに移動してね。10:55挨拶・確認事項説明・11:00～発表スタート!
1/22(金) 5,6限・1/27(水) 7限でまとめ冊子原稿完成, (1/29(土)7限大会) ⇒ 2/5(金) TR成果発表会【6班発表各10分(質疑応答なし)】</p> | | | | | | 14:50-14:55講評
(花谷・宗田)
→用紙回収 |

(1/15教員係分担任メモ)

◆PC(データをデスクトップに) / マイク/スピーカー / 宗田(中山・宗田) ◆灯油(矢吹・小林ま) ◆写真記録(山口・中山) ◆生徒シート集計(難波・森下・沼野・宮地)

◆司会・進行・事前確認事項説明・講評(花谷) ◆タイムキーパー→ベール(古賀)

1班「灯りを灯すART落合ヒカリプロジェクト」

河原真心 澤山希望 築澤ありさ 小野愛美

活動② (落合振興局訪問)

■地域振興局主幹の中川さんと話して

■主な問題


- ・人口減少→ 女性が増えて欲しい (子供の出生)
- ・ごみ問題→ 増加 (全国的な問題)
- ・空き家問題→ 増加 (農産主土、地方全体の問題)

■空き家問題について


落合は空き家が多く夜になると地域全体が暗くなり、それが地域の人達は寂しいと感じていることを知りました。

■私たちが注目したこと

空き家に灯りがつく地域の人々が喜ぶこと (例) 北房ホテル祭



中川さん！




二年時の研究テーマは「ARTを通して地域の課題点を気づかせる」に決め、振興局に真庭の問題を聞きに訪問した。そこで、空き家に灯りがつく地域の人々が喜ぶことに注目した。

活動③ (落合振興局訪問のまとめ)

■私たちが注目したこと

空き家に灯りがつく地域の人々が喜ぶこと → **これはARTだ!!**
(例) 北房ホテル祭

灯りをつけるART 『落合ヒカリプロジェクト』



振興局で注目したことはARTだと思い、灯りをつけるART「落合ヒカリプロジェクト」を実行することに決めた。灯りの材料は、ペットボトルランタンを取り入れることに決めた。

活動⑤ (ランタン制作)

■作り方

- ①ペットボトルを用意する
- ②水を入れ、インクで色を付ける
- ③光を照らす
- ④アレンジを加える

■色の作り方

- ①ペットボトルいっぱい水を入れる
- ②インクを6~9滴入れる

■アレンジ

- ・造花を入れてみた
- ・モールを入れてみた



ペットボトルランタンを作るとき、グラデーションになるように作った。アレンジとして花、モールを入れた。そして振興局にプロジェクトの企画書を提案しに行った。ランタンは好評を得て、企画書を踏まえた概要をまとめた。

活動⑧ 10月21日 (垂水神社のお祭り)

■地域の人のコメント

▼設置前：不安、不満

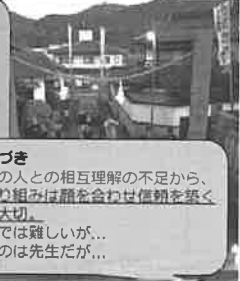
- ①金銭面
- ②管理 (誰が設置&撤去する?)
- ③学生 (学校) と地域の相互理解

▼設置後：安心、満足

- ・すごく綺麗、防災に使える
- ・これからも続けられる、作り方を知りたい!

■学生の気づき


私達と地域の人との相互理解の不足から、地域での取り組みは誰を合わせ信頼を築くことが一番大切。
※授業の中では難しいが...
※対面したのは先生だが...



テスト設置時、地域の方はプロジェクトに不安を抱えていたが、灯りを灯すと満足といった良い結果となった。この活動中に相互理解の不足が発生したことから、相手と気持ちが通じ合っているか確かめることが重要だと気付いた。

活動⑨ 12月23日 (落合ヒカリプロジェクト)

■実際の様子



設置後

- ・明るくてとても綺麗!
- ・たくさんの人が集まった!

実行時、地域の人や、外部から来た人に「とても綺麗」と高評価を得た。また、地域の人にランタンのレシピを配布した。表に「伝えたい思い」や「作り方」、裏に「おすすめの色」を載せた。

まとめ

■落合ヒカリプロジェクトを終えて

▼活動を通じた気づき

- ・相手と自分の気持ちが通じ合っているか確かめることの大切さ
- ・プロジェクト
 - ①たくさんの人の思い
 - ②通じ合う準備計画
 - ③様々な制約
 → プロジェクトの実現
- ・Art活動で地域課題に多くの人が楽しみながら関わった

↓

Artの魅力も再確認

▼自分たちの成長

- ・一人一人が活動の目的に向けて発言・周りの状況を把握して行動できるようになり、チームワークが深まる活動となった。
- ・地域の人との交流を通して、地域活性化に貢献することができた。
- ・成果発表、交流を通してコミュニケーション能力が身についた。
- ・大きい物事の時は、周囲の助けがあって成り立つものだと実感した。

この活動から、相互理解の大切さや、プロジェクト実現の過程、ARTの魅力を確認した。また、一人一人が自分の成長を感じ取ることができた。この活動はSDGsの11、12に当てはまる。

■関わった人たち

地域振興局主幹の中川さん
しめ山プロジェクトのリーダーの池田さん、片岡さん
地域の人

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(河原 真心)</p> <p>① 私がこの活動で学んだ事は、協力の大切さです。ヒカリプロジェクトの達成には協力が不可欠で、特に学校外の地域の人達の存在は必要不可欠なものでした。当たり前ですが、何か大きなプロジェクトを達成するには協力が大切だと改めて気づくと同時に、協力するためのコミュニケーションも大切だと思いました。</p> <p>② 私は誰かと協力して何かを作ることと長い期間を掛けて何かを完成させるのが苦手でしたが、今回の活動を通して自分以外の人と協力する事でいつもなら直ぐに飽きてしまうような物も最後までやり遂げられたと思うし、約一年間掛けて達成したこの活動の達成感はとても気持ち良く、協力することも長期間の活動も悪くないと思えるようになりました。</p> | <p>(築澤 ありさ)</p> <p>① 私がTRで学んだことは地域の人と私たちのコミュニケーションの取り方です。互いの気持ちを理解して、企画を進めることがとても大事なことだと思いました。</p> <p>② 積極的に物事に取り組むことです。私はまわりを見て自分のできることを見つけるのが苦手で、あまり自分から行動しませんが、今回のTRでチームみんなが積極的に行動しているのを見て、自分も頑張らなければと思いました。このことがあってから、前よりも行動できるようになったと思います。</p> |
| <p>(小野 愛美)</p> <p>① 地域の人を通したコミュニケーションの取り方です。自分一人だけで物事を進めていくのではなく、相互の気持ちを理解し合うことがコミュニケーションを円滑に進めていくための重要なことだと学びました。</p> <p>② 客観的にまわりを見ることです。グループ内での役割がない人がいたら振り分ける、話し合いの時に意見を出していなかったら聞きに回る、といった行動をとりました。そうすると、グループ内の人と自分の行動の違いを確かめることができました。このことから、客観的に見る力が身についたと思いました。</p> | <p>(澤山 希望)</p> <p>① 今回のTRで学んだことは対人関係の信頼構築です。面と向かって話合わないで誤解されやすく、関係に悪い影響がでます。だから、正確に情報を届けるためには面と向かい合わないといけないと思った。</p> <p>② 人との関わりかたです。自分はあまり人と関わるのが今より苦手でした。そういったことからTRでは、自分なりに声をだして、自分なりに頑張りました。結果、前より人と接することができました。</p> |

【担当教員 宗田 晃 講評】

とても良い活動になったと思っています。個々に成長目標を持って（私は勝手に設定してました）、皆がそれを達成していたと思います。

チームワークがあったとは思わないし、むしろバラバラな猫の群れみたいなチームだったけど、活動最初の自分より、活動最後の自分の方が、絶対成長してる！全チームの中で、絶対一番成長している（・・）！！

人や社会のために、チームのために、自分の成長のために、「一歩踏み出す」気持ちを忘れないで！「一歩踏み出す」人は、必ず応援されるし、必ず成長するし、必ず人や社会に必要とされる。皆は、このTRで「一歩踏み出す」ことができたチームです（・・）！！

皆の担当の先生で、宗田先生は大満足です！！ありがとう（・・）！！

2班「子どもの豊かな想像力を育む映像教材」


黒田真衣 佐田光 出口璃々 寺崎友香

活動のきっかけ

▶教育・医療に関することで、地域社会に貢献する活動を考えた

■地域社会が抱える課題

- ・コロナ
- ・Stay Home
- ・子どもは遊べてる!?



子ども(就学前)が楽しく遊び、学べる映像教材の作成!

私たちはコロナ渦で教育・医療に関することで地域に貢献できる活動を考えた。このことを踏まえて、心理的にも教育的にもいい、人形を使った映像を作成することにした。

試作の反省

| | |
|--|--|
| ☆良い所 | ☆悪い所 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・他者を想うストーリー◎ ・子どもも分かりやすいかも?◎ ・セリフ感情表現◎ ・制作側の楽しい雰囲気◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・撮影アングル ・声の演技力(調子が単調)・・・× ・映ってはいけないものが・・・× ・入ってはいけない音・・・× ・場面の切り替わり× ・人形フレームアウト・・・× |

▶『子どもが楽しく遊び、学べる映像教材』に欠けているもの

- ①見る側の視点・・・子どもが「(1)理解できる(2)楽しめる」映像効果
- ②本気で遊んでいない・・・ちゃんと「楽しい」を伝えるために、ちゃんと「本気!!!」

実際にいくつかの試作映像を作成し、自分たちで反省をした。その映像の改善点として、背景を作りコマ撮りにして本気で楽しんで演技した。

映像の目的

- ①室内遊びなどの場面で、子ども(就学前)に楽しんで観てもらおう。
- ②教育的な映像で、子どもの心身の成長を促す。

完成した映像の中で、リスの『ボブ』とウサギの『ショート』は、最後に怖い外見の『クモ』とも友達になれた話から、みんなと仲良くしてほしいということを伝えたかった。

改善点

『子どもが楽しく遊び、学べる映像教材』

■学術的根拠

Cinii・・・日本の論文検索サイト
自分たちの活動を「なんとなく」ではなく、「確かな価値」のあるものにするために論文検索から先行研究を探した

★「イメージを育てる指導のあり方を探る」世原裕子(1983)

abstract(若手大学リポソリより引用)

物語番組であるテレビ「人形劇」の視聴において、テレビの映像は、幼児のイメージにどのように働きかけるものなのか、視聴後に見られた遊びのようす、及び、物語の結末を想像して絵話を制作するという形の表現活動からその一面を伺い知ることにより、幼児のイメージを育てる指導のあり方を探る糸口を窺うておこうとした。

経験の乏しい幼児にとっては、映像は物語の世界を擬いていく手がかりであり、鮮明なイメージを描き出す効果も持つ。

多種多様なイメージの蓄えと定義をはかるとともに、次から次へとイメージを結んでいけるような手だてを探る研究を行った。

わかったことは、子どもは直接・間接の経験によってイメージを人格に定着、蓄積させるということ。論文中的実践結果から、私たちの映像にも視聴後、同様の変化や想像力の成長がみられたら良いと考えている。

発表に向けて

■地域振興主幹の中川さんに話を聞いた


発表の場を探しています

落合図書館スウィートブックはどうですか?

■落合図書館スウィートブックとは

落合図書館で行われる、親子が絵本に親しむ機会をもつための、乳幼児を対象とした読み聞かせ会などの行事のこと(落合振興局主催)

⇒真庭市HPより



スウィートブックの子どもたちや職員の方に真剣に見ていただき様々な意見をもらった。実際に身近なお子さんにも見てもらい楽しんでもらえることが分かった。

まとめ

■映像教材を作って


- ・・・相手の立場に立って考えることは難しく、試行錯誤した。
- しかし、楽しむことでより良いものを作ろうという気持ちになった。

■活動を通して

- ・・・「授業の教材作りに似ている」ということを聞いて、教員が身近に感じられたような気がした。

■SDGs

- ・・・子どもに楽しみながら学んでもらう



本気で取り組むことにより楽しんで見てもらうことのできる映像を作ることができた。そして、目標である「学び」を子どもたちに提供することができたのではないかなと思う。

■関わった人たち

- ・振興局の中川さん、大塚さん ・スウィートブックの清友さん
- ・杉先生、沼野先生、中山先生、難波先生
- ・黒田妹、寺崎弟、宗田先生娘（しずくちゃん） ・TR1班のみんな

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(氏名：佐田光)</p> <p>① 相手の立場に立って考えることは難しく、特に子どもの目線を考えて行動することは大変だった。そして、自分たちが楽しんで取り組むことが他者に向けてのより良いものを作るうえでの、鍵となることに気づいた。他に、制作過程での計画性の大切さが分かった。</p> <p>② 一年の時より自分の活動に自信をもち取り組めるようになった。他にも、自分の意見をしっかりと自覚し、班内で積極的に話し合いができるようになった。</p> | <p>(氏名：黒田真衣)</p> <p>① 映像教材の作成の中で気づいたのは、自分は誰かの前に立ってリーダーシップを発揮するより、裏から誰かを支える方が向いているということ。互いを理解して、時に真面目に時にふざけて笑いあえる仲間はとても大切だということが再確認できた。</p> <p>② 班のみんなとの話し合いを通して、自分の意見が遠慮なく言えるようになった。映像の制作を通して、第三者目線を意識できるようになった。</p> |
| <p>(氏名：寺崎友香)</p> <p>① 幼児向けの動画制作には向いていないと気付いた。先生が協力してくれたので、良いスペースで取り組むことができ、内容が深まった。</p> <p>② いつも発表の時、文章を全部朗読してしまうが、今回は自分なりにアレンジして発表することができた。自分の意見が言えるようになった。</p> | <p>(氏名：出口璃々)</p> <p>① TRをするにあたって今回のような内容でも根拠が必要で、根拠を提示することによって相手にも伝わりやすく、また、自分たちのしていることがより、内容が深くなっていったなと思いました。</p> <p>② 私はあまり積極的に自分の意見を発信するタイプではなかったのですが、今回の班活動で班の人たちと、意見を共有したり、交換したりする場面が多かったので積極的に自分から進んで意見を発信できるようになった。</p> |

【担当教員：宗田晃 講評】

とても良い活動になったと思っています。チームCHILDは、本当に手が掛からなかった。探究テーマが決まったら、あとはそのまま一直線！！

活動がスタートした時、「このチームは楽しく探究させる」が、宗田先生の密かな目標でした。何かを創ったり、人や地域の役に立ったり、答えの無い課題を解決したり、探究することって、すごく楽しいのよ！

探究はそもそも正解が無い。何をやって、それが正解になるように、やって楽しくなるように、工夫することが正解なんだ。皆は、人や地域の役に立つことを、自分たちが「楽しくなるように工夫」できたね！だから出来上がった映像は最高だった！活動内容は、全チームの中で一番素晴らしかったと宗田先生はと思っています（。ー。）！！

皆の担当の先生で、宗田先生は大満足です！！ありがとう（。ー。）！！

外国人労働者が住み続けられる街づくりを～in 真庭～
3班: 佐田笙華・中山萌・塚本春菜・原田美空

調べようと思ったきっかけ

- ・私たちが普段使っている通学路で外国人の方とすれ違うことが多く、どんな生活をしているか気になったから
- ・メンバーの1人の家の会社で外国人を雇っているため身近に感じたから

私たちは外国人の方が少しでも住みやすい街を作れないのかと考え、このテーマについて調べました。

活動① 真庭市とSDGsについて

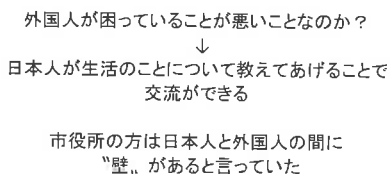
- ・なぜSDGsに取り組もうと思ったのか？
⇒ 真庭市が目指すものとSDGsが目指すものが同じ。
真庭市を日本全国にPRする。
- ・なぜ大阪で真庭市のものが売られているのか？
⇒ 真庭市ではあまり売れない。
作ったものをお金にかえる。
- ・外国人は給付金をもらっているのか？
⇒ 住民票がある場合はもらっている。
- ・真庭市に住んでいる外国人
⇒ 職場の近くに住んでいる。中国・東南アジアの人が多い。
真庭の自然が好きで真庭に住んでいる。



真庭市役所の富永さんにお話を伺い、私たちが真庭市について疑問に思っていることを質問しました。

活動② 真庭市役所の方のお話

真庭市が外国人向けに特別に支援していることは少ないが、様々な問題・相談を聞いてくれ解決してくれる窓口があることを知った。



真庭市役所に行き、吉鶴さんにお話を伺いました。鋭い質問に対しての答えを考え、真庭市の問題点について改めて考えることができました。

活動③ 江森先生にお話を聞いて

市役所の方に聞いたことを踏まえて外国人の方に直接聞きました！

- ・日本での日常生活において一番困っていることは光熱費などの請求書の内容が分からないこと
- ・外国人と日本人の交流の場が少ないこと



実際に交流してみることにしました！

江森先生に伺ったことを踏まえて、実際に外国人の方と交流するために日本語教室訪問に向けて試行錯誤しました

活動⑤ 日本語教室訪問 Let's experience Japanese culture !



吉鶴さんや、江森先生のお話を踏まえて外国人の生徒さんと日本の文化に触れてもらいながら楽しく交流することができました。

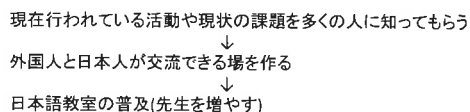
〈分かったこと〉

- 外国人から見て暮らしやすい町とは？
- ・病院や学校などの設備が整っていること
- ・外国人と日本人の交流の場があること

〈解決できていないこと〉

- ・外国人が必要としている日本語教室にしっかりとした後ろ盾がない
- ・日本人が外国人に対して壁があること

私たちにできること



解決策として、私たちにできることは、現在行われている活動や現状の課題を多くの人に知ってもらって外国人と日本人が交流できる場をつくることだと分かりました。

■関わった人たち

草加部小学校(SDGs について授業をしました)、真庭市役所の方(真庭市の外国人労働者の支援について教えていただきました)

江森先生、日本語教室の生徒さん(外国の方の生活や支援の実情、問題点など多くのことを教えていただきました)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(佐田笙華)</p> <p>① 去年とは異なり自分たちで考えて企画し、実行するまでの大変さを知りました。一から作り上げることがすごく難しかったです。</p> <p>② 初めは自分の意見を言おうか迷ったり、言ったら否定されるかと思っていたけど、一種に活動をしていくにつれてここでは自分の思っていることを言ってもいいんだと思えるようになりました。他にも自分から学びたいと思えば思うほど先生方も協力してくれて自分の意見を言うことはとても大切だと思いました。</p> | <p>(中山萌)</p> <p>① 真庭市には自分が思っていたよりたくさん外国の方が働いていたり、住んでいたりなどの生活をしてきたこと。日本人のほうが外国の方との交流を積極的にすることで両方が学びになるということ</p> <p>② 小学生のときからSDGsについて興味を持ってきていたことについて、自分のほうが知識が薄くて活動的ではないというようにならないようにTRが終わっても疑問を持ち調べたり活動したりしようと思った</p> |
| <p>(塚本春菜)</p> <p>① 何事にも挑戦すること
わからないからと言ってすぐに調べるのではなくまず自分仮説をたてるということ</p> <p>② 一年生の時と比べていろんな人と話せるようになったこと。外国人の方と交流してみても英語が話せなくてもジェスチャーとかを使うことで話すことができた。一年生の時はどうプレゼンを作ることで伝わりやすくなるのか分からなかったがTRの活動をしてきて誰に伝えるのかを大切にその人に伝わるようなプレゼンを考えることが必要だということが分かりました。</p> | <p>(原田美空)</p> <p>① 活動を通して学んだ事は話すことの大切さです。なぜなら、外国の方とのコミュニケーションも話すことから始まったからです。</p> <p>② 最初はチームがクラスを飛び越えているということで、うまく話せるか心配だったけど活動について一緒に考えていくうちに言いたい事も少しずつ言えるようになり、みんなで協力して取り組めました。最初の時に比べて自分の考えをまとめてみたり、情報を共有したりする事が出来ました。</p> |

【担当教員 難波周子 講評】

4月の時点では遠慮がちに意見を言ったり、指示を待っていたりとあまり積極的ではなかった4人。「これはどう?」「ここに行こうよ。」と私が何度も言っていました。しかし、江森先生の日本語教室に自分の足で参加し真庭市の現状を自分の耳で聴くことで、4人それぞれの中に「なんとかしなければ」と当事者意識や責任感が芽生えたように思います。それからは「これがやりたい!」と積極的に発言し、「こっちの方がいいんじゃない?」「この場合も想定されるから・・・」としっかりと「考えて」活動できていました。ただ教員に言われたから地域の問題に向き合わざるを得ないということではなく、自ら考え動き失敗し改善して、自分たちの意志で向き合っていく1年となったと思います。

この1年で学んだこと、培った力は直接的にも間接的にも必ず皆さんの支えとなります。1年間お疲れさま!

『国際交流を地域活性化へ』

4班 遠藤翔 長尾愛楓 尾崎葵 服部海成

「国際」をテーマにした理由、活動内容


初めは、...

- ・国際と貧困について興味があった
- ・外国文化に興味があった
- ・1年生TRは地域に注目、2年生では広く国際について探究したい

↓

【活動内容】


1. 外国人と関わりを持っている方々に話を聞きに行った。
2. 外国人にも真庭市の魅力を発信する活動をした。



初めは外国の貧困、外国文化について興味があった。1年時は地域に注目し2年時は広く国際について探究したかったことから、大きな活動としては外国人と関わりを持っている人に話を聞きに行ったり、外国人に真庭の魅力を発信するための動画を作成したりした。

大岩さんからの学び

- ・はにわの森を開設することで
- 留学先での文化を含めて家族との時間を大切にしたいから
- ・留学先で苦労したことは
- 自分の思いを伝えられなかった(言語&文化)



大岩さんの話を聞いて

- ・外国と日本にある壁とは？
- ・そもそも国際とは？

↓

自分たちの【国際に対する考え方】と向き合うきっかけになった

外国の方との言語や文化の壁は私たちが思っていたよりも厚いということを学んだ。また大岩さんの話が「国際とは何なのか」国際に対する考え方と向き合うきっかけになった。

真庭市とドイツの活動

馬場馬術(ドイツ)

日本文化を通じて交流
普通、森山やそば、選手との運動
互いの文化を共有しよう

↓

市民の方々にドイツ文化を知ってもらおう



給食でのドイツ料理の提供

真庭市はドイツのホストタウンなので馬場馬術や日本文化を通じて交流している。その他にもパラスポーツのイベントや地域の子供たちとの交流、給食でのドイツ料理の提供をされている。これらのことから互いの文化を共有しあっていることを理解した。

ユニバーサルスポーツフェスティバル1/24(日)

ドイツは障がい者スポーツの先進国ということで真庭市で開催！(実際に参加しました)



車いすバスケットボールチーム【ウィンディア】の方も参加しバスケットボールの楽しさを伝えた

地元の小学生から高齢者まで幅広い年齢層の人が参加

地元の小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加しパラスポーツに対しての理解を深めた。また車いすバスケットボールチームの方も参加し車いすバスケットではなくバスケットボールというスポーツの楽しさを伝えた。この活動を通して様々な意味でのバリアフリーを実現させたいと強く思った。

PV作成の感想

●工夫した点

- ・外国の方は真庭の自然の豊かさに魅力を感じる
- 川や山、風景を多めに入れる
- ・地元の高校生ならではの視点がかけてよし
- 自分たちも動画に切りアピール
- ・動画のクオリティを高めたい
- 写真、編集に詳しい「伴さん」に協力依頼

高尾 動画だけでなく真庭の方に真庭の魅力を伝えるのが楽しかった

遠藤 どのようものが外国人にウケるのか、考えるのが楽しかった。

尾崎 最初から真庭全体で作ろうとして規模が大きかった。もっと身近に感じたいと思った。

服部 真庭の魅力を高校生でできる範囲でPVを通して伝えるのが大変だった

動画作成から...
話し合いを重ね何を伝えたいか焦点化すること
しっかりと調べ準備しておくこと
の大切さを実感！

外国の方に魅力を発信するPVを作成するにあたって山や川の自然を多く写したり、自分たちも動画に移ったりと工夫した。その他にも写真、動画編集に詳しい伴さんに協力してもらった。しかし個人個人で反省点がみられ、その中から焦点化することと下準備をしておくことの大切さを実感した。


【一年間の活動を振り返って】

なかなか自分たちの納得のいく活動ができなかった...

→活動の振り返りから見えた“すべきだった”こと

- ・「国際」イメージの焦点化
- ・ゴールの焦点化
- ・活動の焦点化

Tryしたからこそ得られたこと！



この1年を振り返るとうまく活動ができなかったように感じた。そこで見えた反省点として、国際のイメージ、チームで成し遂げるためのゴール、具体的な活動、以上3つの焦点化足りなかった。しかしこれらの反省点が上がったということは自分たちがそれなりにTryしたからこそ得られたことだと思う。この反省を次の活動や個々の進路実現のために生かしていきたい。

■関わった人たち

はにわの森 経営者 大岩功さん
 真庭市役所産業観光部産業政策課 内田隼多さん
 動画編集アドバイス・BGM 提供 伴将吾さん
 スペシャルアドバイザー 森年先生

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
 ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
 (どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>長尾 愛楓</p> <p>①最終目標を決められず行動に移すことができなくて大変だった。しかしPV作成でそれぞれの役割を果たせたことがよかった。</p> <p>②TRを通して最初は視野を広く持ちすぎて自分が何をすればいいのを見失っていたが、PV作成という目標を決めてからは計画を立てて実行することができた。</p> | <p>遠藤 翔</p> <p>①一つの目標に絞らずに始めてしまい、メンバー全員の目指す目標が一つに定まらないまま、活動をしてしまった。</p> <p>②PR動画の撮影を始めるまでに時間が掛かってしまった。何を撮るか、どのようなテイストで撮るか、など考えるのにも時間が掛かってしまった。何を撮るかが決まってからは全員の目標が定まり、それぞれの役割が鮮明になった。</p> |
| <p>尾崎 葵</p> <p>①今年1年、国際をテーマに活動してきたが活動をするたびに色々なワードが出てきて、国際という根本的な事がゆらぎ、見失ってしまった</p> <p>②2年時のTRでは自分たちで目標を決めて活動をするということから苦戦した。その中で自分たちがどのような活動をしたらいいのかを模索し進歩することができた。その他にもZOOMを通しての活動の中で世界の幅広さを知った。これらの活動から自分に足りないことである。【具体性を持たせる】と【焦点化】ということを学んだ。並びに共生社会という分野に興味をもち自分の進路が深まった。</p> | <p>服部 海成</p> <p>①一人一人の国際に対するイメージや考え方が少し違って、PV作成という活動目標ができるまでに時間がかかってしまった</p> <p>②最初と設定していた最終目標とは進めていくうちに少しずつ変わっていき、班のメンバーと話し合ったり協力していく中で物事や進む方向などを柔軟に考え、それを実践していくことができた。そこで社会で必要になってくる、チームで物事を成し遂げる力、【協同性】という力を身に着けた。</p> |

【担当教員 難波 周子 講評】

初めから「国際をテーマにしたい!」と決まっていた4人。しかし一言で国際といっても、文化や言語も様々、抱える問題も様々で「国際」という言葉に惑わされた1年だったように思います。また、1人ひとりがしっかりしていたからこそ完全分担になってしまい、【協同性】を生かすことができなかつたとこちらでも反省が残る部分です。

皆のまとめの反省からも分かるように、正直「やりきった!」と思える活動ができなかつたけど、この1年の活動は全く「無」ではありません。むしろ「あり」です。「国際」という概念の難しさを肌で体験し、様々な方のお話を聞いて1年生で学んだこととつなげて考えることができました。

壁にぶつからなければ分からないことはたくさんあります。ここで学んだことや昇華できなかった気持ちを3年生、ないしは将来スカッと晴らしましょう。1年間お疲れさま!

『エコバッグ～LET's REMAKE～』

5班 中山あみ、林実来、松岡里佳、山口こまち

活動目的

レジ袋が有料化になったことからエコバッグの重要性が改めて分かった。



実際にエコバッグを作って周囲の方々に普及活動をしようと思った。

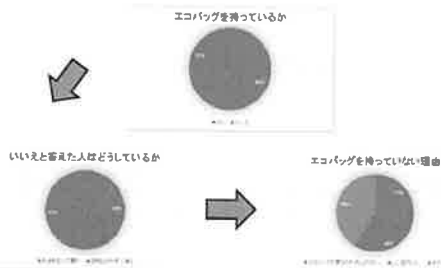
レジ袋が令和2年7月1日から有料化になり、エコバッグの重要性を改めて感じました。そこで、実際に自分たちでエコバッグを作成し、エコバッグの重要性を周囲の方々に伝えたいと思いました。また、エコバッグの普及活動をしたいと考えました。

取り組んだ内容

- ① 去年トンボ学生服さんからいただいた布の余りでエコバッグを作った。
- ② 本校の2年生を対象にエコバッグについてのアンケートを実施した。
- ③ しまむらとザグザグに行きレジ袋についての話を聞いた。
- ④ 真庭市役所環境課の藤田さんにお話を聞いた。
- ⑤ 風呂敷をエコバッグとして活用する方法を調べてまとめたものを資料として配布した。

エコバッグの作り方をインターネットで調べ、実際にミシンを使い一人一つずつ形や素材の違うエコバッグを製作しました。初めての体験だったのでミシンの使い方が分からなかったり、必要以上に縫いすぎてしまったりと様々な失敗がありました。そこから学ぶことも多くありました。

② アンケート結果



本校の2年生を対象にエコバッグの普及率についてのアンケートをしました。アンケートをしたことで、エコバッグを利用している人がどの位いるのかが分かりました。また、レジ袋ではなく、エコバッグを使うことで、海洋汚染と廃棄物が減り持続可能な社会につながるということをもっと知って欲しいと思いました。

③ しまむらの方に話を聞いて…

バイオマスマークについて話を聞きました。

バイオマスマークとは、生物由来の資源（バイオマス）を活用し品質および安全性が関連する法規、基準、規格等に適合している環境商品の目印。

バイオマスマークが付いている袋はレジ袋有料化の対象になっていないため無料。



「しまむら」にレジ袋の話を伺いに行った際、しまむらのレジ袋は無料で提供されていることを知りました。また、レジ袋にはバイオマスマークがついており、環境に優しい素材で作られていることを学びました。このことからレジ袋が全て環境破壊につながる訳ではないことも知りました。

④ 真庭市役所の方に話を聞いて…

最初は自分たちでエコバッグを作ろうと思い、布を提供してくれる企業を教えてくださいたくために真庭市役所の方に来校していただきました。

真庭市役所の方に話を聞いたら一からエコバッグを作らなくても家にある布や風呂敷などを使って結ぶだけで簡単に作れる方法を教えてくださいいただきました。



真庭市役所の藤田さんからお話を伺うまではエコバッグを布から作る方法しか知らなかったため、そのことばかりに目が向いていたが、風呂敷や新聞がエコバッグの代わりになることを教えていただき、布から作るよりも手間がかからず手軽に作れるので、日常生活に取り入れやすいと思いました。また、この方法をみんなに伝えたいと思い、資料を作成しました。

まとめ

今まで自分たちは、エコバッグを作ることしか考えていなかったが、真庭市役所の方から話を聞くとエコバッグを作らなくてもほかの物（布、風呂敷）を使って代用できることを知った。



今回の活動はSDGsの12番と14番に関係していると考えました。12番のつくる責任つかう責任では、不要な布やいらなくなった布などを使いエコバッグを作ることで廃棄物の削減につながると考えました。14番の海の豊かさを守ろうでは、プラスチックごみを無くすことで海洋汚染を減らすことができると考えました。今回の活動を通して、環境汚染について考えることもできました。

■関わった人たち

真庭市役所環境課 藤田さん、しまむらの店員さん、ザグザグの店員さん、2年生（アンケート）

■各自の振り返り

| | |
|--|---|
| <p>（氏名 林 実来）</p> <p>① エコバッグを布から作る方法しか知らなかったため、最初から作ることはばかり考えていたが、真庭市役所の藤田さんにお話を伺い、風呂敷や新聞紙でエコバッグを作る方法を教えていただいた。初めてそのような方法があるのだと学び、とても驚いた。また、外部の方と連携をとることで、自己の学びを深めることもできた。</p> <p>② 自分たちで実際にしまむらやザグザグに行き、レジ袋が有料化になったことについてのお話を聞くことができた。今までは、自分たちだけで行動することに不安があり、なかなか行動に移すことができないことも多かったが、以前よりも積極的に行動できるようになったと思う。</p> | <p>（氏名 松岡 里佳）</p> <p>① TRを有意義な時間にするためには、自分一人の力ではいけないと学んだ。メンバーのみんなと協力し、最終目標であるエコバッグを周りの人達に普及するという目標を達成することができたと感じた。この達成感は、TRの活動をしなければ感じられなかったと思う。</p> <p>② エコバッグを作成したことで、どんなエコバッグが使いやすいのか知りたくなったり、レジ袋はなぜ、店によって値段が違うのか気になったり、一つのことを学ぶともっとたくさんのことを知りたいという向上心をもって行動することができた。また、以前は分からないことがあってもそのままにしてしまうこともあったが、今回は積極的に質問をするなどの行動力も身についたと思う。</p> |
| <p>（氏名 山口 こまち）</p> <p>① はじめはエコバッグを一から作るしか考えてなかったが、エコバッグを布で作らなくても風呂敷や新聞を活用した方法があることを真庭市役所の藤田さんから教えていただいた。外部の方と連携をとることで視野が広がり、新たな気づきをもつことができた。このことから、もっと視野を広げて考えることの重要性について学んだ。</p> <p>② 自分たちで実際に布からエコバッグを作っている時に、メンバーがミシンの使い方や縫い方に困っていたので相手に分かるように実際にやり方を見せながら説明することができた。今まで、人に説明するのはあまり得意な方ではなかったが、TRを通して人に説明する力が身に付いたと思う。</p> | <p>（氏名 中山 あみ）</p> <p>① 先生にアドバイスをもらいながら、エコバッグを普及させることを目標に様々な活動をした。活動をする上で、欠かせなかったのはグループ内での意見を交換だった。他の人の意見を聞くことで、自己の考えを深めることができたり、自分では考えられなかった新たな考えに気づくことができた。このことから協働性の大切さに気づくことができた。</p> <p>② エコバッグを一から製作するのに様々な苦労があったが、みんなで協力しながら作ることができた。また、改善点を話し合い、どのようなエコバッグが使いやすいのかみんなで考えることもできた。さらに、身近なものを活用したエコバッグの方法として風呂敷エコバッグの作り方を資料にまとめ、みんなに配布することができた。このことから、最後まで諦めずに活動をやり遂げる力が身に付いたと思う。</p> |

レジ袋の有料化に伴いエコバッグに着目して活動をしていたが、最初の頃は活動内容に悩むことも多く、すぐに行動に移すことができない時もあった。しかし、少し助言をするとすぐに行動に移し、実際に自分たちの力だけで一からエコバッグを製作することもできた。また、自ら学校周囲のお店にレジ袋について話を聞きに行ったり、市役所の方に話を聞くなど積極的に行動することができていた。最初の頃は、自分たちだけで行動することに不安そうな様子や何かあると「できません。」という消極的な発言も見られていた。活動を通して、少しずつ自分たちだけで活動していく姿や「やってみます。」という積極的な発言もみられるようになり、日々成長していく様子を感じた。今後も誰かに頼るのではなく、まず、自分たちだけでやってみようという前向きな姿勢をもち、何事も挑戦し続けて欲しいと思う。

『免疫UP料理に挑戦！！』

6班 梶田瑞樹、古川雄斗、大林久姫、岡崎芹奈

活動のきっかけ

現在コロナが全国的に流行していて、『免疫力が低下すると感染のリスクが高まる』＝『免疫力がUPする料理を作ろう』と思った。また、食品ロスをなくするため、破棄される食材で料理を作ろうと思った。

研究目的

破棄される食材や真庭の食材を使って免疫UP料理を作る。

目標：SDGs 3 (健康と福祉) 12 (持続可能な消費と生産)

活動内容：醍醐の里にレシピ提供(メニュー開発)

私たちは、SDGsの3と12番を達成することにしました。3番では、免疫を高めることにより、病気にかかりにくい身体にすることができることを目的とし、12番では、破棄される食材を使うことで、食品ロスを防ぎ、環境に配慮することを目的に活動しました。醍醐の里を訪れた際、レストランのメニューとして出していただけということになり、目標も明確なものになりました。

醍醐の里へ訪問

～私たちが聞いたこと～

- ①おいしそうに見える位置
- ②周りの人にレシピを紹介する時にどうやったら上手に伝わるか
- ③売れにくい野菜
- ④地域の特産品が何か

～答え～

- ①いろどりや大きさを考える
- ②商品の前に商品のいいところなどを、イラストなどを使って紹介する。
- ③季節にもよるが、トマト・カボチャ・ゴーヤ・ピーマン・パプリカ・大葉などがあまり売れていないことが分かった。
- ④産直や塩こうじなどを生産している人がいる。ぽぷ丸(パプリカ)を特産品にするための普及活動をしている。

自分たちで免疫に良い食材をインターネットや教科書で調べ、一人一品料理を作りました。また、「醍醐の里」を訪れ、様々なお話を伺いました。また、売れ残りのカボチャや免疫に良いとされる塩麴、真庭で生産されたはちみつ、パプリカを頂いたので、これらを使ってレシピを作る事にしました。また、「ぽぷ丸」というパプリカの普及活動を真庭市が行っていることも知り、ぽぷ丸を使った料理を考えていくことにしました。

久世校地の方にインタビュー

【ぽぷ丸について】

Qどのように料理をしたらおいしいですか？

A. 炒める、つける、煮る、揚げるなどして食べるのがおいしいですよ。

Qぽぷ丸の特徴は何ですか？

A. 甘みが強い(いちご並みの甘さ) 青臭さが少ない 日持ちが良い ビタミンCとカロテンが多い

“ぽぷ丸”を生産したり、普及活動をしている久世校地の3年生にお話を聞きに行きました。そこで、教えていただいたことを取り入れてレシピを考案しました。

落合病院の栄養科の方にインタビュー

Q免疫力を上げるのによい食べ物はありますか？

A. 発酵食品 例：塩こうじ・納豆 野菜 食物繊維の多いもの(腸内環境を整えるから)

Q高齢者の方にあつた食形態はどのようなものがありますか？

A. 柔らかすぎたり硬すぎたりしない。(理由) 骨格筋の衰えや嚥むことで唾液分泌がうながされ虫歯予防にもつながるから。

栄養面や調理する上での工夫点など自分たちだけでは分からないことも多かったため、落合病院の栄養科の方にお話を聞きに行きました。専門的な視点から様々なアドバイスを頂きました。ここで頂いたアドバイスと今までの活動で得たものを踏まえてレシピを作りました。

アドバイスを活かして料理を作る。

【ぽぷ丸ドレッシング】

材料：ぽぷ丸(赤) 2個 玉ねぎ 1個 ★レモン果汁 1個 塩麹(減塩) 大さじ2 ★はちみつ 大さじ1 ★酢 50cc オリーブオイル大さじ1

【カボチャそぼろの塩麴煮】

材料：鶏ひき肉 250g カボチャ 540g ★はちみつ 大さじ3 ★塩麹 大さじ3 油 大さじ3 ★水 1+1/2カップ 大葉(4切り) 適量

作り方

【ぽぷ丸ドレッシング】①ぽぷ丸と玉ねぎをスライスし、ぽぷ丸と塩麴をいれ、さらに2分ほど炒めて火を止める。熱が取れたら、ミキサーに入れ★を入れてなめらかになるまで回す。
【カボチャそぼろの塩麴煮】①かぼちゃの種とワタを取り除き4cm角切りにし、鶏ひき肉と一緒に強火で炒める。カボチャと★を加えて、15～20分煮る。

まとめ

【達成できたこと】

- 破棄される食材や真庭の特産物について実際に道の駅である「醍醐の里」に行って話を聞いたり、免疫UP料理を考案するにあたって栄養士の方に話を聞きに行くなど積極的に行動することができた。実際に試行錯誤しながらメニュー開発をすることができた。

【反省】

- レシピを開発するだけで時間が無くなってしまい、TR発表会までに醍醐の里へのレシピ提供ができなかった。

1/27(水)に、「醍醐の里」のレストランに私たちの考えたレシピを提供しました。また、今回のレシピをお店に置いていただけることにもなりました。最後まで活動をやり遂げることができ、本当に良かったです。また、私たちのレシピを多くの方に知ってもらったり、レシピをもとに作られた料理をたくさんの方に食べていただき、免疫力をupさせてもらえたら嬉しいと思いました。

■関わった人たち

久世校地の3年生（ばぷ丸に関わっている）、醍醐の里の方々、落合病院の栄養科の方

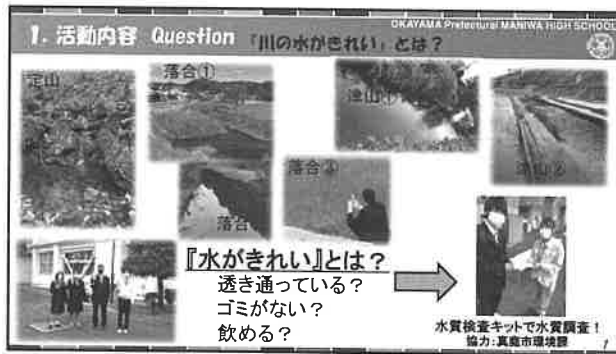
■各自の振り返り

| | |
|---|--|
| <p>(氏名 古川雄斗)</p> <p>① 自分から積極的に行動することが苦手でなかなか行動に移すことができなかった。チーム内で上手く連携がとれていなかったり、自分が何をしたらいいのか悩むことが多かった。このことから自分の意見を伝えることの大切さや自ら行動することの大切さを学んだ。</p> <p>② 人と関わるのが苦手で自分から行動に移したり、発言することがなかなかできなかった。レシピを考案するにあたり、チームの人と協力して何度も試作料理に挑戦する中で、食材を炒めたり、皿洗いをするなどで少しずつ行動に移すことができるようになったと思う。</p> | <p>(氏名 梶田瑞樹)</p> <p>① 免疫力が向上する食材についてネットで調べるだけでは得られる情報が不足していたり、あいまいな情報も多かったため、実際に醍醐の里に話を聞きに行くことで地元の特産品や売れ残りの野菜など具体的な情報を知ることができた。このことから実際に見たり、聞いたりすることの大切さを感じた。</p> <p>② 最初は自分からすぐに行動ができなかった。そのため、活動がスムーズに行えないことやその日の活動があいまいなまま終わってしまうこともあり、困ることも多かった。このことから疑問に思ったことは自分から積極的に聞くように心がけて行動するようになった。</p> |
| <p>(氏名 大林姫久)</p> <p>① 最終的には醍醐の里へレシピを提供することができたが、最終発表までには間に合わなかったため、もう少し計画的に行動する必要性があったと思った。いつ、何を、どのようにするのか最初の頃はお互いに話し合いができておらず、チーム連携が上手くできていなかったことが原因だと思うため、計画的に行動することの重要性と信頼関係を築くことの大切さに気づくことができた。</p> <p>② 以前は大人の方や初めて話す人と緊張してどのように何を話したらいいかわからず、人見知りをすることがとても多かったが、活動をしていく中で沢山の方々にお話をさせていただく機会があり、大人の方や電話越しの方に自分たちの研究目的や訪問する目的、どのようなお話を伺いたいのかなど自分の思いを的確に伝えることができるようになった。</p> | <p>(氏名 岡崎芹奈)</p> <p>① 最初は、お互いに上手く関係性が築けず活動内容の報告や連絡をしないことがあった。それぞれが違う活動をするなどチーム連携ができていなかった。しかし、このままではいけないと感じ、試作料理をするグループと栄養士の方に話を聞きに行くグループに分かれ、それぞれ役割分担をしながらチーム内で協力して活動をする中で少しずつ信頼関係を築くことができた。このことから、チーム連携の大切さに気づくことができた。</p> <p>② 人見知りで話すことが苦手だったが、今回の活動で外部の方と関わったり、チームで連絡や相談をする中で少しずつ、自分から話をするようになった。また、今回初めて、外部の方に電話をする機会があり、初めての経験でとても緊張したが、この経験が自己の成長に大きくつながったと思う。</p> |

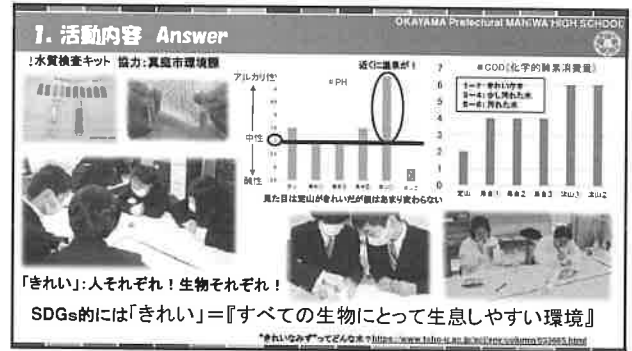
普通科と看護科の男女混合チームで最初はお互いに遠慮して、発現することにためらう様子や遠慮している様子も見られたが、少しずつ関係性を築き、充実した活動をするようになっていた。コロナウイルス感染症が拡大する中、どうすればコロナウイルスに負けない身体づくりができるのかインターネットで調べる中で“免疫力向上”が重要であると知り、そこからテーマや目標を自分たちで決めることもできました。何度も試作料理にも挑戦したり、地産地消の食材や食品ロスにも着目した料理を考案するなど活動内容はどれも本当に素晴らしい内容であった。また、「醍醐の里」にお話を聞きに行った際、最終的に自分たちの考案した料理がレストランで提供していただけるというお話いただき、その目標に向かって懸命に取り組む姿は他の生徒の模範であった。野菜を育てる生産者の思いを聞きに行ったり、栄養士さんのアドバイスを取り入れながらレシピを考案し、目標であった「醍醐の里」へレシピを提供することもできた。この経験を糧に今後も最後まで諦めずに頑張る姿勢を持ち続け、何事にも挑戦し続けて欲しい。

『Let's Think ~考えることの大切さ~』

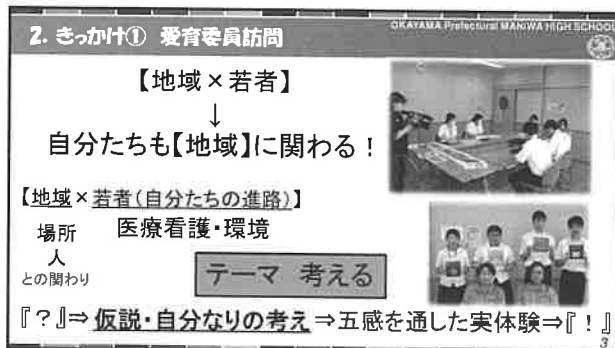
7班 中川 心那 船木 優愛花 森谷 光喜 森元 偉楓



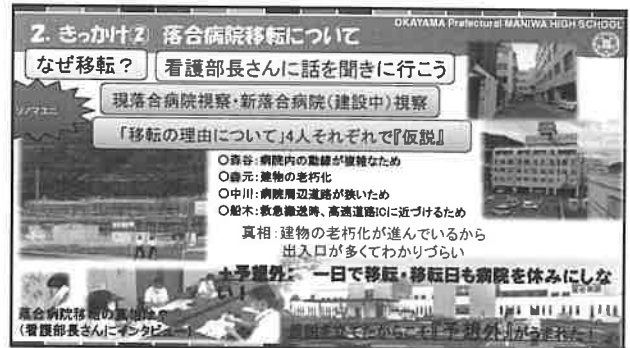
① 活動の中心となったのは川の水質調査。メンバーの家の近くの川の水と定山の川の水を比較して、川の水のきれいさについて考えた。真庭市環境課を訪れ、水質検査キットを提供していただいた。PH(水素イオン濃度指数【酸性・中性・アルカリ性】)とCOD(化学的酸素消費量)という2種類の測定を行った。



② 測定結果から水は周囲の環境の影響を受けていることがよくわかる。『きれい』の捉え方は人によって異なる。人間だけでなく、生物によっても捉え方は異なるだろう。SDGs的に考えると『きれい』=『地球上すべての生物にとって生息しやすい環境』であるという結論に至った。SDGs17の目標では人だけでなく生物のことを考慮していかないといけないと気づいた。



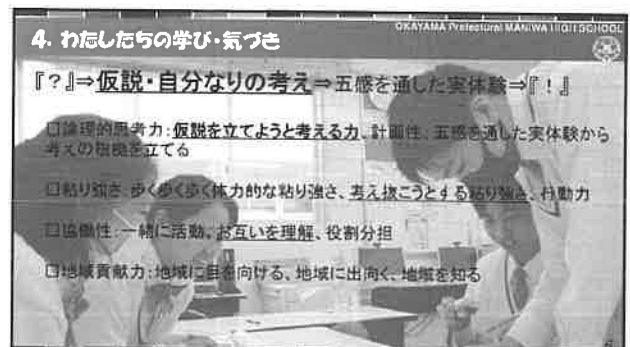
③ 活動は愛育委員の方との交流ではじまった。そこで、地域に対して自分たち高校生が関わっていくことが大切だと気づいた。その際に、自分たちの進路(医療看護・環境)に関わる地域探究活動をしたと考えた。さらに、この活動内容に加えて、『考える』ことを常に心がけるというテーマを設定した。



④ 次に、落合病院移転理由について注目し、すぐに人に答えを聞きに行くのではなく、現在の落合病院と移転先を視察し、自分たちなりにその理由を『考える』ことにした。その後、落合病院の看護部長さんに話を聞いた。事前に予想した情報と予想外の情報が明確になり、仮説を立てたからこそ予想外という印象をもつことができたことに気づいた。



⑤ SDGs17の目標の中でも3番と6番に関わる取組になった。SDGsと『考える』をつなげて考えると、SDGs目標達成はすべての人のためだけではなく、植物や動物なども含めた地球上すべての生物のための目標達成を目指していくべきだと気づいた。



⑥ 最後に、皆さんも疑問があればスマホですぐに調べてしまうのではなく、結果を知る前に少しでも自分で考える時間を作ってみてください。そうすることで、見え方や考え方が変わり、視野も広がっていくと思います。自分なりの考えを大切にしていきたいと思います。

■関わった人たち

真庭市愛育委員会の杉本会長さんと藤平副会長さん
 (真庭いきいきテレビ『SDGsって何?』の収録で取材させていただきました)
 落合病院大西看護部長さん(落合病院移転についてお話をお伺いしました。)
 真庭市環境課浅野さん(水質検査キットを提供いただきました)
 真庭高校久世校地永田先生(糖度計をお借りしました。)
 8班のメンバーたち(お米やカレーや水の糖度を調査させてもらいました。)

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
 ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
 (どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(中川心那)</p> <p>① 電話をかける前に、自分たちは分かっているけど電話相手には分かりにくい情報ではないかと考えることができ、先生に褒めてもらった。相手によって、伝える情報の順番を変えたり、情報を違うことばで言い換えたり、話しことばだけでなく書きことばや写真・動画などを使ったり、情報の伝え方を意識して取り組むことを心がけた。</p> <p>② いろんなところに一緒に行き体験を積み重ねる内にメンバー同士の仲も深まり、お互いの得意なこと不得意なことが分かるようになった。得意な場面で自主的に動けたり、苦手な場面で助けてと伝えたり、多少人見知りな性格の私も打ち解けて積極的に取り組むことができた。</p> | <p>(船木優愛花)</p> <p>① これまでの授業での話し合いではただその場で思いついたことをすぐに発言していたけど、落合病院移転や水質検査結果の考察を通して、発言する前に『どうして?なぜ?』と自分なりに予想したり仮説を立てたりすることで、根拠を持って自分の意見を伝えられるようになった。</p> <p>② インタビュー訪問の事前電話を休みの日に自宅でひとりですることになり不安いっぱいだったが、無事に訪問日時を決めてアポをとることができたときは安心だし自信にもなった。ネット上の書きことばでのやりとりばかりの私にとって、大人の人と直接電話で話をして役割を果たすことができた体験は大きな自信となった。</p> |
| <p>(森谷光喜)</p> <p>① 日常生活の中で生じた疑問を、これまではすぐスマホで調べて分かった気になっていた。調べる前に、なぜそうなのかと自分なりに考え仮説を立てることで、手に入れた情報の中でも、『予想どおり』『予想外』などの印象に差が出るので、記憶にも差が出る。「分かった」というレベルが上がったと思う。</p> <p>② 糖度計や水質検査キットを使いながら、専門用語が出てくることが多くあった。そういう難しいことばについて、前半は先生に言われてから調べていたが、後半は先生に言われる前に調べておいて、先生に言われたときにはすぐに答えられるようになっていたことが成長だと思う。</p> | <p>(森元偉楓)</p> <p>① 班の中でそれぞれの仮説を出し合うことで、多様なものの考え方を知ることができたし、自分にはない考え方を徐々に自分のものにすることができた。それがいろんな視点で物事を考えられる力につながったと思う。</p> <p>② 家の近くや学校周辺の水を集めたり、水質検査キットを森谷君と二人で受け取りに市役所に行ったり、道具の準備片付けなど自分たちで最初から最後までやったり、「自分たちでTRに取り組んでいる!」と実感でき、さらに自主的主体的に活動に取り組むようになっていった。日常生活でも仮説を立てる「考える」習慣が身に付き、いろんなことに興味を持つようになった。</p> |

【担当教員 中山順充 講評】

愛育委員会の活動、落合病院移転の理由、糖度計による調査、川の水質検査、学校内外で見つけた疑問、など取り組んだ活動は多岐に渡るが、そこには「考える」というテーマがしっかりと貫かれている。6月時点ではすぐに僕に質問や相談に来ていたが、早い段階で、班内で考えを出し合い、「明日のTRは〇〇に行き〇〇しようということになりました。そこで学校のデジカメを貸してもらえますか?」というように「考える」ことを実践できるようになった。Google Classroomも活用してお互いの考えを出し合い「考える」ことを深めることができた。【21世紀型能力(生きる力)】⇒【①基礎力】(知識・技能)の周りに【②思考力】(考える力)があり、さらにその周りに【③実践力】(コミュニケーション・協働性・行動力)がある。7班の活動は②にスポットを当てたが、結果的には②だけでなく①③の向上にもつながった。逆に言うと、「考える」力を軽視(②×)しては、偽の情報にだまされたり(①×)、他者と一緒に活動できなかつたり(③×)するおそれがある。①確かな知識・技術をもとに、②論理的に考え、③他者と協働して実行に移す4人の活躍に期待したい。

『S定山で Dディスカバる 俺達 GuyS』

8班：松岡壱織・丸本裕士・村上太郎・坂本勇輝



① 定山は真庭市北房にある担当中山先生所有の山なので、自由に活動することができた。現地視察後、日帰りキャンプ・ガチキャンプをしたいと考えた俺達は、それを実現するための準備として、火起こし・湯沸かし・メスティン調理の訓練を繰り返した。現地に行き、山道整備にも取り組んだ。



② 俺達は夏休みに日帰りワンデイキャンプを実現した。10:00~18:30。川から水を運び、かまどでご飯を炊いた。手分けをして山道整備にも取り組んだ。前回刈った草もあつという間に伸びていて山の管理が大変なのがよく分かった。昼食後は川の中を歩いて上るリポートレッキング。メンバー同士のキズナが深まっていった。



③ ワンデイキャンプを終え、次は泊りガチキャンプに向けて、ファイアースターターを使って着火・火おこしの訓練、夕方暗くなる前にスピーディーにテントを張れるようにテント張り訓練、自分で考えたメニューでメスティンというアウトドアグッズで調理訓練。訓練訓練訓練の繰り返し。誰でも火おこしできる。一人一人自信を高めていく俺達。



④ 10/16金・17土にガチキャンプ実現。放課後出発、夕方4時半到着。暗くなる前にテント張り・水汲み・火おこしをスムーズに完了。訓練のたまもの。夕方6時、辺りは真っ暗。BBQ後には先生は離れた所へ移動。静まりかえった暗間に残される俺達4人だったが、夜中に先生のテント襲撃！バチが当たったのか翌朝は雨。



⑤ 4月に一人一人イメージマップで自分自身を掘り下げた。でも自分のことが分からない、自身がない、そんな4人。THE OUTWARD BOUND TRUST という冒険教育機関の考えを参考に、流行りのアウトドア活動に取り組み、自然理解・自己理解を深めるために俺達のTRは始まった。



⑥ 厳しい体験を乗り越えて自分が成長することを実感した。ディスカバリーチャンネルの真似をするから『ディスカバる』ってタイトルをつけたが、ディスカバった(発見した)のは「俺達自身」。つまり自己理解が深まったってこと。このTR、本当に本当にタメになった。

■関わった人たち

中山家一族（お山のご提供）、7班のメンバーたち（撮影など）、尾崎葵くん（一緒に草刈り）
 山陽新聞社中田さん（取材していただき山陽新聞に掲載していただきました）
 森年先生（活動にもご同行いただきご助言いただきました）、山口先生（キャンプの時に薪をいただきました）

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
 （どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか）

| | |
|---|--|
| <p>（坂本勇輝）</p> <p>①思い通りにならない自然相手の活動をチームで乗り越え自信を積み重ねた。仲間と協力するという協働性の大切さを痛感した。雨・寒さ・暗闇・静けさなど過酷な環境下でアウトドア活動に取り組むことで自分自身を成長させることができると感じた。</p> <p>②自分の考えを積極的に伝えられるようになった。みんなとの話し合いを重ねていくうちに、自分の意見に自信を持てるようになり、活発性が増し、限られた条件の中で何ができるかを仲間と共有し、自分とは全く違った視点からの意見を吸収していくことで企画力を手に入れた。</p> | <p>（丸本裕士）</p> <p>①キャンプは想像以上の寒さ、暗闇、静けさ、雨。朝起きてすべ濡れの靴を履いて片付け。そんなタフな活動の中で、チームの中で自分がすべきこと、自分に何ができるかわかって、行動に移すこと、メンバーに指示を出すことができるようになった。それもスピーディに。</p> <p>②この活動を始める前は、自分の意見を言葉に表すのが難しくなかなか人に伝えることができなかつたが、自分たちで活動する内容を考えたり準備物を考えたりしているうちに、自分が何をしたいか、それに対して自分に何ができるかを考え、メンバーに伝えられるようになった。</p> |
| <p>（松岡壱織）</p> <p>①寒かったり雨が降ったり足を怪我したりしても、どれも楽しい体験ばかりだった。活動を積み重ねていく中で、自分自身をよく理解していた（何ができて何ができないのか）。アウトドア活動の失敗体験からも前向きな考え方や粘り強さを身に付けた。</p> <p>②単にアウトドア知識・技術が高まったり、キャンプを楽しんだりしただけでなく、山と直接触れ合うことで魅力・大切さ・整備の大変さなど身をもって学んだ。山に対してどんどん興味がわき、進路の視野に入れていなかった森林整備など山の仕事に興味を持つようになった。</p> | <p>（村上太郎）</p> <p>①やりたいことを計画だけで終わらせず、すべてやりきることができた。道具があつたから？場所があつたから？多分仲間がいたから。計画段階で、雨が降ったらどうする？など事前にいろいろ起こりそうなことを考えて準備を整えておく「予想する力」があつた。</p> <p>②最初は自然やアウトドアの知識や興味があまりなく、森林に対して何かははっきりした考えというもの自体がなかつた。しかし、山という学校とは違うところで、仲間に参加してもらったり、仲間の考えを聞いたり、TR活動を通して、森林に対する見方・考え方が変わった。</p> |

【担当教員 中山順充 講評】

4月4人のイメージマップでは「自信のなさ」「ゲーム」が共通ワード。そこで『アウトドア体験を通じた自然理解・自己理解（成長）』と探究テーマを設定。実体験を積み重ねて体験の〔量〕を増やして体験の〔質〕を高めた。Google Classroom を活用して毎時間の振り返りを丁寧に行った。よいチーム3条件①目標を共有すること②互いに必要性を感じる③役割と信頼があること、を繰り返し伝え、本当によいチームになった。【論理的思考力】⇒起こりうることを予想して準備したり、必要な知識・技能を身に付けてからキャンプに臨んだり、あと〇分したら片付けよう！とタイムマネジメントしたりなど、計画する力が高まった。【粘り強さ】⇒雨だからこそ、寒いからこそ、真っ暗だからこそできる活動を考え、過酷な自然環境を前向きに乗り越えられるようになった。【協働性】⇒自分はこれをするから、君は〇〇してと、まず自分から動き他者を動かすことができるようになった。このTRで身に付けた力が将来ずっと君たちの力として生かされると信じている。

★最後に★キャンプも思い出に変わろうとしているなあ。過去のことにしたくないな。春休みもキャンプするか？定山じゃないとこにでもどうだい？ヤバイ、わくわくが止まらない…。

タイダイ染め～流行を体験・研究～

9班 中山拓斗・山本泰誠・横田実夢・山田宝良

活動内容・きっかけ

1. パートナーシップについて調べた
- ↓
2. 落合振興局の中川さんに相談
- ↓
3. パートナーシップ案の変更
- ↓
4. タイダイ染め案
- ↓
5. 実際に活動してみた



■パートナーシップについて調べた。落合振興局の中川さんにパートナーシップについて相談しアドバイスを受けた。そこで、パートナーシップは「難しい課題」と言われ案を変更した。最近流行りのタイダイ染めに案を変更した。

「タイダイ染め」とは？

- タイダイ染め → Tie = 縛る , Dye = 染める という意味

<メリット>

- ・縛り方で全く違う模様が出来上がる
- ・手作業で作る → 同じデザインの色が2つと悪い
- ・自分好みの布を作ることが出来る



<デメリット>

- ・化学染料を使うので、環境に悪い
- ・費用がかかる

■タイダイ染めについて調べた。タイダイ染めは、縛って染めるという意味だった。メリットは、個性が出ること、デメリットは、費用が掛かることが分かった。

「タイダイ染め」
↓
「草木染め」



■「タイダイ染め」から「草木染め」に変更！
変更理由は、費用がかかること、環境に悪いことから案を変更した。

「草木染め」とは？

<学んだこと>

- 草木染め → 植物の葉・茎・根などを煮て染めるやり方

<メリット>

- ・深みのある色合いが出せる
- ・身近な植物を使ってできる
- ・家庭にある道具を使って、安全にできる

<デメリット>

- ・日光や摩擦に弱い
- ・準備と手間がかかる



■草木染めについて調べた。草木染めは、植物の葉や茎、根で染めるやり方。メリットは、環境にいいこと、デメリットは、手間がかかることが分かった。

染めるのに向いている草木

<例>

- ・玉ねぎの皮…黄色
- ・ヨモギの葉…黄緑色
- ・赤しそ…ピンク色
- ・みかんの皮…濃い黄色
- ・アトウの皮…薄い紫色、濃い紫色
- ・ナスの皮…暗い紫色

など

■染めるのに向いている草木について調べた。例として、玉ねぎの皮は黄色、赤しそはピンク色に染まることが分かった。

まとめ

体験し経験をすることで

「粘り強さ」と「協働性」が身についた

SDGsの目標



■まとめは、体験し経験をすることで「粘り強さ」と「協働性」が身についた。SDGsの目標の、9・12・15の目標に当てはまると思った。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭市落合振興局地域振興課参事 中川 晃吉さん(テーマとしたい“SDGsの目標”について役場に勤める立場としてアドバイスをいただいた。)
 ひのき草木染織工房 加納 容子さん(実際に染め物を製作、販売している工房を訪問し、作品・工房を見せていただいたり、染め物についてインタビューしたりして、染め物についての見識を深めた。)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(中山拓斗)</p> <p>①今回のTRを通して、1人ではなかなかうまくいかないことでも班のみんなが色々な意見を出してくれたので、仲間の大切さを学ぶことができた。</p> <p>②最初は失敗をしたら「嫌だ」と思っていたけど、失敗を経験することで、失敗しても失敗を恐れない気持ちになることができた。また、班のメンバーと意見交換をすることで、コミュニケーション能力が身についた。</p> | <p>(横田実夢)</p> <p>① 今年のTRでは、みんなと協力することの大切さを学んだ。班のみんなと協力し、一つのことを最後までやり遂げることで、粘り強さを身につけることができた。</p> <p>② 今までは、失敗したらそれで終わり、ゲームオーバーという感じだったが、何度も何度も失敗を経験しながらも、その失敗を次に生かそうとする思考力と、前向きな姿勢が身についた。</p> |
| <p>(山本泰誠)</p> <p>① TRを通して僕は、メンバーと協力して一つのことをする大切さを学んだ。1人ではできないこともメンバーと協力することでできるようになり、いいものができるようになった。</p> <p>② 自分は積極的ではなかったけど、TRを通して班のみんなと話すことができ、自分から意見を出せるようになった。</p> | <p>(山田宝良)</p> <p>① 今回のTRにおいて、私は考える事の大切さを一番に学びました。しないといけないことは一つじゃないから、何回も失敗を重ねることで次に活かしていけるという力を身につけることが出来ました。</p> <p>② 考える力が身についただけでなく、協力する事や周りへ発信する力もついたと思うから、今後私の目指す看護医療の場面において、その力を有効に使っていきたいと思います。自分で頑張るだけじゃなくて、周りに頼る大切さも実感出来たので、本当にいろんな学びが出来て充実したものになりました。</p> |

【担当教員 花谷智行 講評】

途中でテーマを変更することになったが、粘り強く活動できた。とにかくやってみる、そこからまた次の課題に取り組んでみる、そういった活動に粘り強く取り組んでいくことができていた。活動を通して色々な課題なども発見することができ、染め物を作るということが、思った以上に奥が深いことに気づくとともに、SDGsと結びつけ、深く学ぶ姿勢が身についたのではないかな。4人が、一年間を通して次第に協力して活動できていて、協働性がより身についたと感じている。

未来へのスキルアップ～落合編～

10班 石本陽輝・大谷友哉・櫻井希・林愛音

町の障害物とは？

例えば

- ・点字ブロックがボロボロ
- ・コンクリート蓋の隙間
- ・道のくぼみ など



真庭にユニバーサルデザインを！！

私たちは、町の障害物を探すため、落合地域を探索した。私たちにできることを考えた結果、それらをまとめ真庭市に提案することを思いついた。そして真庭を住みやすい町にするために、真庭をユニバーサルデザイン化しようと考えた。

提案書作成



提案書(真庭高校二年TR「真庭市に提案」全13ページ)を振興局に提出



12/23 中川さん、大塚さんと振興局で話し合い

私たちが作成した提案書を振興局に提出し、話し合いを行った。話し合いの中で、私たちは知らなかった真庭の現状や真庭市が目指しているものを教えていただいた。

振興局訪問

- ・個人の土地か市の管理かで対応が変わる
- ・予算などもあるが、緊急であれば市が対応
- ・真庭市の人口は年700人減少している
- ・人口が減るのは仕方ない→どうやって緩やかにするか
- ・真庭は「誰でも住みやすい町」=「共生社会」



私たちが提案したことに対して、「個人の土地か市の管理かで対応が変わる」「予算などもあるが緊急であれば市が対応する」という意見をいただいた。真庭の現状で「人口が年700人減少している」こと、今後の方針では、人口が減るのは仕方ないのでそれをどうやって緩やかにするかということ、いろいろな年代の人が共生できる「共生社会」にしていきたいと言っていた。

高校生にできることを考える

提案したことの中で高校生にできることはないか...
→提案したものは大体が費用と時間がかかるものばかり

もしできることがあれば力になりたい！そこで振興局の方に提案
→「点字ブロックを直すなら高校生でもできます！」

「なら、一緒にやろう！」



点字ブロックの修理

落合振興局の大塚さんと落合駅の点字ブロックを直す
→最終発表後に実行
天候の関係で、年始にしようと思っていたが延期に...



振興局の方と時間を合わせ、最終発表後に実行することにした。

まとめ

真庭を住みやすい町にするために、高校生ができることを考えた

日常生活から災害時まで、わたしたちにできる支援
振興局の方と話し合い、活動



人と人との関わり合い

いろいろな人の視点から見て、考え、行動する

一年を通し私たちは、真庭を住みやすい町にするために自分たち高校生にできることを考えた。その中で、人と人との関わり合いやいろいろな人の視点から見て、考え、行動することを学んだ。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

2年団の先生方と3学年の保護者の方(アンケートにご協力いただいた)
 真庭市落合振興局地域振興課参事 中川 晃吉さんと総務課主事 大塚 哲史さん(点字ブロック
 修理に協力していただいた)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(大谷友哉)</p> <p>① 高齢者や子どもが住みやすくするにはどうすればいいか客観的に見ることができた。</p> <p>② いろいろな人に協力してもらったおかげで自分達がやりたいことを行動に移すことができる力がついた。</p> | <p>(櫻井希)</p> <p>① 1から考え行動することで深い学びができ、また新たな考えを持つことができた。『考える』と『学び』は互いに深め合うことができると気づいた。</p> <p>② 1年間の活動を通して、今までは真庭のことだけを見て・考え・行動していたが、真庭+コロナで変わった社会という背景を踏まえて見て・考え・行動できるようになった。</p> |
| <p>(林愛音)</p> <p>① いろいろな状況、人の立場から考え、それはどのような役割を担っているかを考えることができた。それを踏まえて、高校生にできることを考え行動することができた。</p> <p>② 今までは視野が狭く限定的な考え方しかできていなかったが、活動を通し、複数の視点から物事をとらえられるようになった。</p> | <p>(石本陽暉)</p> <p>① 男女に分かれて男子は外で写真を撮る女子はパワーポイントを作るなどの役割分担ができた。</p> <p>② 地域とつながる活動ができ、真庭のことがもっと好きになった。</p> |

【担当教員 花谷智行 講評】

年度当初、医療・福祉の面から自分たちが地元真庭にできることはないか、というところからスタートし、保護者、教員へのアンケートを実施し、地域の課題と自分たちにできることを検討した。そこから、“日常から緊急事態の時まで自分たちにできる支援”をテーマに、前半は災害時における支援活動(災害が起きたときの応急処置の方法など)について実際に身近なもので体験を重ねていた。4人のメンバーで考え、まずはできるところからやってみる、そういった行動力と協力して活動する協働性を身につけることができていた。前ページには、後半の活動のみがまとめられているが、前半の活動があったからこそ、地域の課題をより身近に感じ、色々な立場から物事を見ることができ、後半の活動につながったと感じている。実際に、地域を見て回り、企画書を作成し、自分たちで真庭市に交渉し、一つの形ができたことはよい経験になったのではないか。

11班 「真庭」をたずね 「私」を知る

小見山結名, 寺崎千夏, 藤田梨紗子, 牧美澗

きっかけ・目的

- 真庭市以外から真庭高校看護科へ進学。
⇒真庭高校での学習・活動を通して「真庭市」をよりよく知りたい、後輩に伝えたい、そして「自分のまち」をよりよくしたい!!
- 「自分のまち」と「真庭市」を知る。調べる。比べる。

私たちは4人全員真庭市以外の県南から真庭高校に進学。「真庭市をよりよく知りたい」と思い、「自分のまち」と「真庭市」を調べた。それぞれの市のSDGsに関する取り組みや新型コロナウイルスの対策などを比較し、気付いたところや問題点などを話し合った。

活動①

- 未来に残したい「真庭市」の風景を集める。
- 真庭市公式Instagramに「高校生カメラマン」として協力することに!!
- 真庭市役所、旧遷喬尋常小学校、ジェラート醜翻楼、真庭高校久世校地などを訪れ、たくさんの風景を集める。

真庭市公式Instagramに掲載されました!

「真庭市」を知るために、真庭市内の様々な場所を訪れ、風景(写真)を集めてまわった。その中で「真庭市公式Instagram」に「高校生カメラマン」として協力することになる。私たちの撮影した写真は、実際に「真庭市公式Instagram」で見ることができます。

活動②

- 「真庭市公式Instagram」に高校生カメラマンとして協力することに絞って活動する。
⇒真庭市役所総合政策部秘書広報課へ

多彩な真庭
子どもからお年寄りまで

- 「写真が上手」でなくて良い。
- 高校生の目線で!
- 家族、後輩、友人に見せたい風景

「真庭市公式Instagram」のフォロワー数を増やすための方法を考え、実行する。

- 独自のハッシュタグを考える
- チラシを作成し、配布する

- #まにわにきゅんです。
- #真庭を解剖
- #真庭の沼にハマりんちゃい

市役所の方にお話を聞きに行き、高校生の目線で誰でも分かる「多彩な真庭」を集めてほしいとのアドバイスをもらった。「真庭市公式Instagram」のフォロワー数を増やすために独自のハッシュタグを考えたり、ポスターを作成して真庭高校の生徒に配布したりした。

活動③

- 「未来に残したい真庭の風景・人・財産」の写真をたくさん集める。

「真庭市公式Instagram」の運営メンバーでもある、フォトグラファーのオグゾンさんに「スマホで撮れるインスタ映え写真」教室を開いていただく。

さらに地域の様々な方にお話を聞いたり、活動に協力したりして「未来に残したい真庭の風景・人・財産」の写真をたくさん集めた。校長先生には「ここでの学びを将来に生かしてほしい」「人との出会いを大切にしてほしい」というお話も聞かせていただいた。

まとめ～活動を通して～

- 「真庭市」をより知ることができた!
- 「人とのつながり」の大切さを知った!

私たちの目指す「看護師」の姿を再確認!

ねばり強さ 協働性 地域参画力

「真庭」を知ることで、将来目指す「私」を再発見!

TRの活動を通して、物事をいろいろな視点で見て考えること、気持ちや考えはそれぞれ違うこと、相手の意見を否定せず受け入れること、自分の意見を謙虚な気持ちできちんと誠実に伝えることの大切さを学ぶとともに4人で協力して活動できるようになった。

お知らせ・お願い

Follow Me!!
Check it out!!

「真庭市公式Instagram」
@maniwa_official #maniwapics
2月1日～3月末各振興局にて展示中!
私たちの考えた「#真庭にキュンです」が、ポスターに採用されました!!

⇒2021年2月現在 フォロワー数1,780人

「真庭市公式Instagram」のポスターには、私たちの考えたハッシュタグが採用され、私たちの活動が真庭市内外の人を少しずつ動かしていることを実感。これからも協力を続けていきたいです! 皆さんも是非是非チェック&フォローをよろしくお願い致します!!

■関わった人たち

真庭市役所総合政策部の嶋田さん、植木さん（「真庭市公式 Instagram」の運営メンバー）
 太田昇真庭市長さん他、真庭市役所で出会った皆さんとまにぞう
 真庭高校校長先生、森年先生、ART チーム（1班）のメンバー
 久世校地の購買のおばちゃん（柴田さん）、女子寮の風間管理人さん（森さん）
 フォトグラファーのオグソンさん（「真庭市公式 Instagram」の運営メンバー）

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
 ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
 （どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか）

| | |
|---|---|
| <p>（小見山結名）</p> <p>① 真庭市のいい所（SDGs の取り組み、自然や人柄の良さなど）を知ることができ、物事を色々な視点で考えることの大切さを知った。また、真庭市は自分の市よりSDGsの取り組みに力を入れていることを知った。</p> <p>② 地域の方々に関わることで、言葉遣いや態度に気を付けたり、相手の意見をしっかり聞いたり、自分の思いや意見を伝えたりするコミュニケーションの大切さを学んだ。謙虚で誠実な看護師になりたいと改めて再確認することができた。また、チームで活動することで、お互い意見を伝え合い協力することができるようになった。</p> | <p>（寺崎千夏）</p> <p>① 今まで知らなかったことを発見できた。地域の人の温かみや、各市によって取り組みが違うことを知った。特に真庭市は現状を踏まえて改善策を立てていた。人と交流するなかで、人との関わりが大事だと気づいた。</p> <p>② 真庭にあまり興味がなかったけど、真庭の人と関わり、真庭の良いところを見つけたことで、興味が持てた。活動を通して、チームのみんなとそれぞれ話すことで、自分が思わなかった意見を知ることができ、考えはそれぞれ違うということを知った。1年間で、いろいろな体験ができて楽しかった。</p> |
| <p>（藤田梨紗子）</p> <p>① 活動を通して、真庭に来て2年、真庭の地元を守る方々の心の温かさに触れ、豊かな自然を身近に感じ、「真庭」をいろいろな視点で見ることができた。チームで、意見を出し合い、まとめてから、行動に移すことができたので、協働性から得られる輪の絆を感じた。</p> <p>② いろいろな方と関わることで、傾聴する姿勢や、言葉使い、質問内容など相手の気持ちを考えて行動・発言をする大切さを学んだ。チームで話し合いをする際には、謙虚さを忘れず、意見を伝える力がついたと思う。人生の中で、真庭市に住まわせて頂いていることに感謝して、これからも真庭のPRを続けていきたいと思う。</p> | <p>（牧 美濤）</p> <p>① 真庭市の方々積極的に地域活性化に努めていて驚いた。実際に真庭市の方々と話して真庭のことをもっと広めてほしいと言われたことが印象に残った。高校生カメラマンとしての協力を通して、疑問があれば自分から聞くこと・相手の立場になって考えること・責任を持って動き、やり遂げることの大切さを学んだ。</p> <p>② 今までは物事を複数の視点から見るのが得意ではなかったけど、活動を通してその力がついたと思う。また、進路や目指す看護師像について浮かんでおらず今後どうすべきか悩んでいたけど、活動を通してそれを再確認することができた。また、自分の意見を言うのが苦手だったけど、活動を通して、振り返りの時間に意見を出し合うことで他のメンバーの意見を聞き、自分の意見を言うことで情報共有をすることができたと思う。</p> |

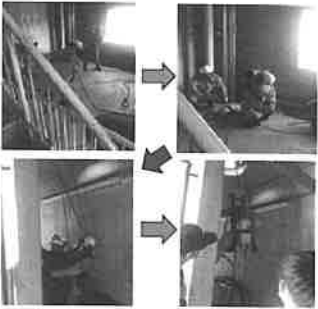
【担当教員 沼野真由美 講評】

1年前の自分と今の自分を比べてみてください。1年前は↑こんなこと書けたかなあ？年度当初、4人と初めて顔を合わせ、活動を始めた頃は、こちらから「これはどう？」「あんなことしてみたら？」と声をかけ、その通りに進んでいましたね。しかし「真庭市公式 Instagram」の協力を依頼され興味を持ってからは、みんなから「△△がしてみたい！」「〇〇に行ってみたい！」と提案するようになり、「それいいね！でも…」などと、相手の思いを受け入れながら、自分の意見を伝えられるようになりました。この1年で、本当に多くの経験をし、様々なことができるようになり、たくさんのことに気づき、学びました。この活動が今後の授業、実習、進路実現に生かされ、今みんなが描く理想の「看護師」になれることを祈っています。4人と活動できて、楽しかった！！ありがとう！！

「消防士とロープワーク」

12班: 保田 柚月 戸田 優希 柴田 将

消防署の仕事内容



- ・ 点呼 大交替 車両点検・資機材点検 (8:30)
- ・ ↓
- ・ 業務 (デスクワーク/災害を想定した訓練) (9:00)
- ・ ↓
- ・ 昼食・休憩 (12:00)
- ・ ↓
- ・ 訓練、署外活動 (13:00)
- ・ ↓
- ・ 夕食 (18:00)
- ・ ↓
- ・ 深夜勤務 (一時間交代の通信勤務など) (22:00)
- ・ ↓
- ・ 起床 (5:00) 勤務交代 (8:30)


実際に行って訓練の様子を見て掛け声が大きく、合図に合わせてとてもスピーディに対応していて感服しました。

消防署へ訪問させて頂いた時の記録

訪問した日の要請数は34回

- 1 続けて行っている活動
- 2 定期的に美作地区の道の下調べ
- 3 災害時の要請が多い場所
- 4 加えて教えていただいたこと

定期的な美作地区の道の下調べ
 2 消防士として心がけていること
 消防士はただ火を消すだけでなく水による水損を最小限にするのもプロの仕事
 3 災害時の要請が多い場所
 災害時の要請は災害場所より避難所からの方が多
 4 加えて教えていただいたこと
 ・ 今どきは泡消火 (水と泡消化薬剤の混合水)
 化学消防自動車に設備されている
 火を泡で覆い窒息させながら冷却




- ・ 南海トラフは近い将来起こる可能性あり (今のうちから防災用品を揃えて置こう)

予想以上に通報が頻繁で驚きました。津山市、美作市の通報は全て津山市の指令室に電話がかかりそこからその要請場所に指令が出るそうです。

自衛隊

- ・ 人探し・人命救助
- ・ 危険な場所の探索
- ・ 壊れた場所の橋などを作る (資機材豊富)
- ・ 放射線対策




危険な区域の後処理・人探し

消防士

支援車で (家の無くなった人の寝泊りを)する場所の確保、食料など


- ・ 一軒一軒家を探索 (三人一組)
- ・ 発見された人を運ぶ
- ・ 自衛隊の手伝い



被災者へのサポート

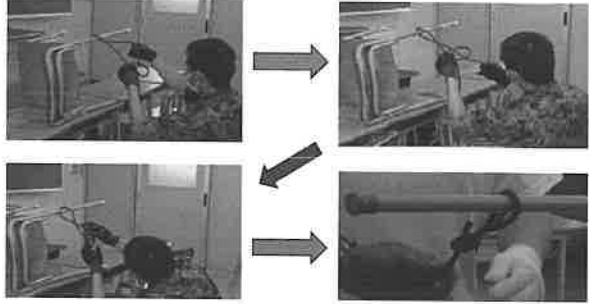
自衛隊は行方不明者を探したり(危険地帯、危険物)の処理をして消防士は避難民の支援などそれぞれ役割が徹底して分けられている。ことを知りました。

溺れた人を助ける



洪水などで溺れている人をロープで引っ張るときに、ロープをつかみやすくするように工夫したロープワークです。

物を動かす際に外れにくくする



複数人または単体で物を動かす際に、結んだ対象が外れにくくなるやり方で力強く引っ張ってもほどけないとわかりました。

消防署からのお願い

人それぞれ苦しさがある通報して下さるのは悪い訳ではありませんがもし歩ける気力があるなら
 限りその足で病院へ行っていただけると助かります。
 一つの手として自分のかかりつけ医を持って置く
 と言う事をお勧めします。
 本当に必要としている人のもとに人員を送れない
 という事態が起きないようにご協力をお願いします。

擦り傷などで通報する人なども居るので、もっと公共機関を最後の切り札並みに使ってほしいと思います。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

消防署の方々、自衛隊の方々
その他「こち防」に関わっていただいたすべての方々

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

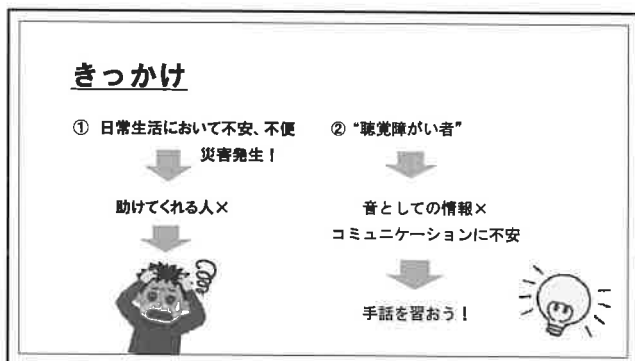
| | |
|---|--|
| <p>(氏名 戸田 優希)</p> <p>①
消防本部に行って職員の方の東日本大震災での体験を聞いたり起震車体験をしたり、自衛隊の方と交流することによって災害についてより深く知ることができた。</p> <p>②
災害と防災活動について以前よりもよく考えるようになった。</p> | <p>(氏名 保田 柚月)</p> <p>①
調査したり聞き取ったことをポイント押さえて簡潔にまとめることが学べた。</p> <p>②消防本部を訪問することにより、目指す職業の勤務内容や勤務の実際を知り、就職に対する自覚と就職試験に挑む士気が高まった。</p> |
| <p>(氏名 柴田 将)</p> <p>①
今年のTRを通して一番よかったことは災害時のロープの結び方を学ぶことができたことです。また、災害時の消防士に役割や仕事について内容を知ることができました。</p> <p>②消防本部に行く前にパソコンで調べ学習をしていたがばらばらに調べるのではなく何について調べるかきちんと分担していたので、積極的に質問をしたり意見を言うことができた。その結果、グループでの積極的に話し合いに参加できるようになった。</p> | |

【担当教員 矢吹実 講評】

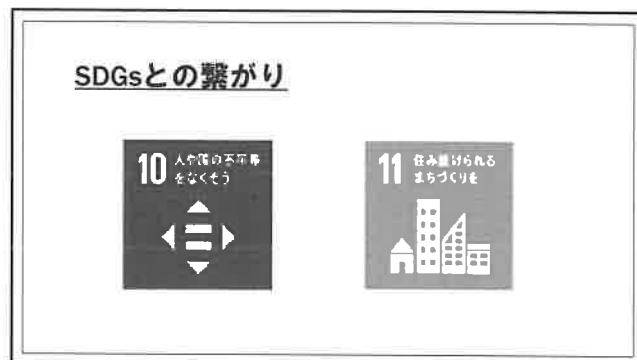
こち防グループとしての活動として素直な疑問を解決していった活動だったと思います。防災センターの見学、質疑・応答を通して消防・救急の実際を知り、防災リーダー研修や地域防災訓練に参加し災害救急の実際を体験できたことは諸君の近い将来にきっと役立つ活動になったと思います。

13班 障がい者と防災

仁澤亜紀 小林伊織 宮地樹音 森下真妃



社会から冷たい目を向けられたり、外見から障がいがあると分かりづらかったりする障がい者の役に立ちたいと思い活動を始めた。
障がい者の中でも私たちは特に「聴覚障がい者」に注目した。



障がい者の有無に関わらず、みんなが平等に安心安全に暮らせる社会にしたいと思い、
10 「人や国の不平等をなくそう」
11 「住み続けられるまちづくりを」を選んだ。



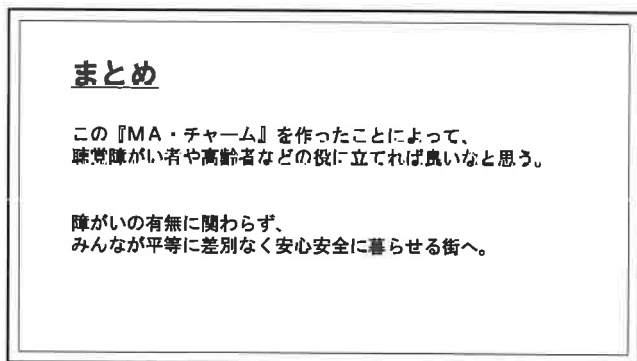
手話を習得しようとしたが、想像以上に難しかった。手話以外でもっと簡単に聴覚障がい者とコミュニケーションをとれる方法が無いかと探していた際に、「コミュニケーションチャーム」というものを発見した。



そこで私たちは、「コミュニケーションチャーム」を作ることにした。久世にある「グリッチ合同会社 黒田和美さん」が協力してくださり、自分たちでデザインを考え、約30個作ることができた。



私たちはこのチャームに名前を付けた。真庭の「ま」とお守りという意味である「チャーム」を掛け合わせて、その名も「MA・チャーム」!! 真庭市産のヒノキを使い、縦10センチ横6センチの大きさに作った。



「MA・チャーム」がたくさんの人の役に立てれば良いと思う。
障がい者を差別したり冷たい目を向けたりせず、みんなが平等に暮らせる社会になれば良いなおもう。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

グリッチ合同会社 黒田和美さん
真庭市バイオマス課

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(氏名 仁澤 亜紀)</p> <p>①
手話が想像以上に難しかった。災害時に誰かの役に立てるようになりたいと思い活動を深めていきコミュニケーションボードの作製へと進んでいったが、MA・チャームがとても好評でとても嬉しかった。</p> <p>②
今まで障がい者についてあまり考えたがなかったけど今年の活動で障がい者や高齢者を含めみんなが平等に暮らせるような社会になればよいと思うようになった。</p> | <p>(氏名 小林 伊織)</p> <p>①
大人の方と今まで話し合ったり関わりを持つことが少なかったが、TRを通して積極的に自分の意見を大人の方に伝えることができたり意見を話すことができることがわかった。</p> <p>②
最初は手話が全くわからなく、障がい者の気持ちなど理解することができないと思ったけれど、MA・チャームを製作する過程で障がい者の気持ちが少しわかるようになった。また、自分たちは障がい者のために何ができるのか考えられるようになった。</p> |
| <p>(氏名 宮地 樹音)</p> <p>①
立場が上の方と話し合ったり意見を出し合ったりすることで、言葉遣いに注意して接することの大切さを改めて学んだ。</p> <p>②
手話の難しさを実感した。災害時の避難所について調べたり、聴覚障害者が避難所に来た際にコミュニケーションを取るためのMA・チャームを作ったり、手話を習ったりしたことで、TR活動に取り組むことの大切さがわかった。</p> | <p>(氏名 森下 真妃)</p> <p>①
聴覚障害者の方をどのように手助けしたらよいかわからなかったが、MA・チャーム製作を通して手助けが誰でもできることがわかった。</p> <p>②
手話でのコミュニケーションは大変難しいことを実感できた。コミュニケーション・チャームは手話を補うものとしてとても有効な手段だとわかった。</p> |

【担当教員 矢吹実 講評】

こち防グループにふさわしい探究テーマでした。避難所での障がいを持つ人々への配慮から手話の学習が始まり、コミュニケーションボードの製作へと進み、活動が深まっていったことが非常によかったですと思います。コロナ禍であること、福島県沖で震度6強の地震が発生し避難所がマスコミで取り上げられたこと等を背景に、外国人、障がいを持つ人々などへの配慮が行き届いた避難所経営が各自治体で模索されています。この探究活動はそういった流れの最先端を行くものとして大いに評価しています。

「救護」

14班 溝尾杏美里・中畑滯・平田らん・水杉七聖

■活動のきっかけ

- ・看護に繋がると思ったから
- ・応急処置の方法を知っておきたかったから

■活動内容

- ・心肺蘇生法や緊急時の止血法、ロープワークなどを、インターネットや看護の教科書で調べたり自衛隊の方々に教えていただいた。



今回調べるまでは、AEDの使い方や止血法を知らなかったのが知識と技術を得ることが、一人でも多くの人を救えることに繋がると思った。

心肺蘇生法は、実践しましたが動画なので乗せられませんでした。

ポイントとして、胸骨が5cm沈むくらいの強さで行うこと。AEDが到着したらAEDの指示に従うことです。

■止血法

- ・直接圧迫止血法
直接止血部位をガーゼなどで直接圧迫する方法

- 1 傷口が汚れている場合は、流水で流す
- 2 清潔な布やハンカチを傷口に当て強く圧迫する
この時傷口は心臓より高く上げる

コツ：出血部位を確実に押さえる
血液を直接手で触らないよう、ナイロン袋などで手を覆って行つとよい



・間接圧迫法

傷口を圧迫しても出血が止まらないときは
直接圧迫をしながら傷口よりも心臓に近いところの止血点を強く圧迫する

二つの方法で止血できない場合はすぐに119番通報をする



止血点：傷口より心臓に近い動脈
(上腕の中央内側)

実践して思ったことは、これで本当に血が止まるのかなと思いました。
もしけがした人がいたらこれを生かして手当てしたいです。

調べたときは押す強さや押し方が何となくイメージできたけど
実際にやってみると力加減が難しかった。

ロープワーク

災害時などに使えるロープの結び方を、自衛隊の方に教えていただきました。

いろいろな結び方を教わりましたが、その中から一番よく使われるもやい結びを紹介します。

もやい結びの特徴

- ・結び方が簡単
- ・結び目が強固→重いものを持ち上げたりするときに使う
- ・一度結んだら輪の大きさが変わらない→人命救助に使える

■まとめ

- ・知識を持っているか持っていないかで助けることができる確率が違ってくるから知識を持つことが重要だと思った。
なのでこれだけで終わらず知識を深めていきたいと思った。

- ・日ごろから応急手当に関する知識と技術を一人でも多くの人が身につけておくことが大切だと思った。



自衛隊の方に教えてもらうまではロープにこんな結び方があることは知らなかった。
やってみて思ったことは、簡単に早く結べる。

今回調べるまでは、AEDの使い方や止血法を知らなかったのが知識と技術を得ることが、一人でも多くの人を救えることに繋がると思った。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他のの方々)

自衛隊の方々

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>水杉七聖</p> <p>①ロープワークで簡単にむすべて、かつ、人を助けるために使えることが分かったから良かった輪の大きさがひっぱっても変わらないから苦しくないことがわかりました</p> <p>②ロープの結び方ひとつで、救助の仕方が違うという考え方にかわることができました。でロープの結び方について調べて、実践した人口呼吸の息をどのくらい吹きかけるのがいいのかを調べた。</p> | <p>平田らん</p> <p>①ロープ一本で人の命を助けられることを知れてよかったです。いろいろの結び方や玉結びを一気に何個も作る方法や人体の結び方をしれました。</p> <p>②AEDのやり方、ロープでの助け方やタオルでやり方を知れたことにより家族や友達を助けられると考えるととても自信をもって遭難できる気がします(遭難する予定はございません)。</p> |
| <p>中畑滯</p> <p>①人の命を助ける方法は沢山あるということを知った。ロープの結び方を自衛隊の方々に教えていただいてまた一つ人の命を助ける方法を知れた。</p> <p>②自衛隊の方々に話を聞いたときに、人を助けるときに一番大事なものは、勇気だといわれていたので今回学んだことを生かし、勇気をもって助けられるようになりたい。</p> | <p>溝尾杏美里</p> <p>①EDの使い方、ロープの結び方止血の方法などたくさんの救助の仕方を知れた。</p> <p>②識がないかあるかでは人を助けられる確率が変わってくると思うのでこれからも知識を深めていきたいと思った。</p> |

【担当教員 山口明 講評】

中間発表会では、心肺蘇生法もロープワークも、イラストや写真等による説明のみであったが、その後、フィードバックシートを元に改良を重ね、どちらも動画を撮ってスライドに埋め込んで、とてもわかりやすい発表ができました。動画を撮ることにより、心肺蘇生法もロープワークも繰り返し行い、よく身についたのではないのでしょうか。こういうことは一度やっても日が経つと忘れてしまいます。繰り返し行う事が大切だと思います。

「公衆衛生」

15班 渡野彩華 岡田千菜歩 森岡美遥 山田昌

なぜ公衆衛生について調べたか...

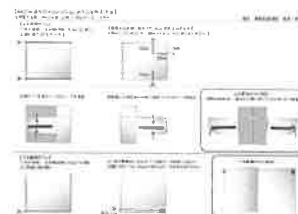
- 災害時に使えると思ったし調べたい内容にも沿っていたから。
- 医療関係に進みたいと思う人が多かったから調べようと思った。

避難所での課題を考えた際、衛生管理が不十分だと考えた。
そして、現在コロナ禍と言う状況で感染を予防するために公衆衛生について詳しく調べた。

防護服の作り方

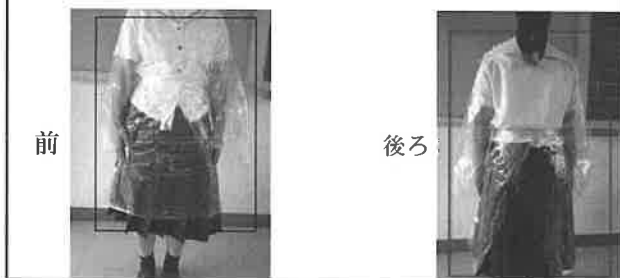
- 用意する物
- ✓45ℓゴミ袋（透明）
 - ✓ガムテープ
 - ✓ハサミ

作り方



コロナ禍で医療従事者たちがコロナウイルス感染者と向きあっている現状に目をむけた。そんな中コロナウイルスから身を守る為の個人防護用具が不足している現状を知った。そのためいざという時避難所でも簡単に作れる個人防護用具を作った。

完成！



実際に作った。考察として1身近にあるもので簡単に作れる。2いざという時にでも簡単に作れる。ということが分かった。改善点として感染する確率を減らすなら全身を覆う防護服にすべきだと思った。

ろ過装置

災害時に水がなかった時のろ過装置の作り方

- 用意するもの
- ✓ガーゼ
 - ✓木炭
 - ✓砂利
 - ✓ペットボトル

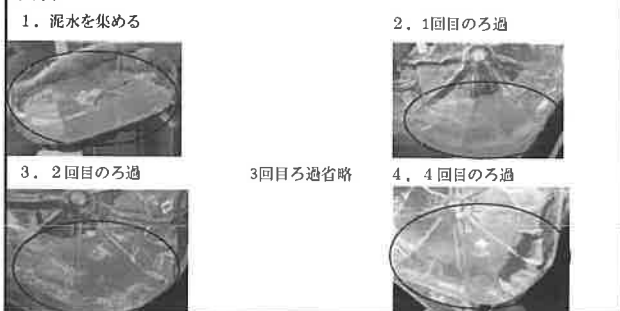
ペットボトル下から

- 1.砂利
- 2.ガーゼ
- 3.木炭
- 4.ガーゼ
5. 砂利



災害時で水がなかった時に身近なもので簡単に作って使用できるろ過装置を作りました。

手順



実際に作った。考察として、最初に比べて水が透明になったが、完全には透明にならなかった。そして、何回かすると炭が出てくるから定期的に交換が必要。

まとめ

- ・どちらも災害時に使える。
- ・身近の物で簡単に作ることができる。
- ・災害が起きた時に役立てたい。
- ・炭が減ったら補給する。
- ・週に1度ガーゼ・炭を煮沸消毒する。

手作りろ過装置と防具服どちらも災害時に使え、身近なもので作ることができるので災害が起こった時に役立てたい。
ろ過装置は炭が減ったら補給することと、週に一回ガーゼ・炭を沸騰消毒して使用する。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

なし

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(氏名 渡野彩華)</p> <p>① 今年コロナウイルスの関係もあって医療従事者の方に直接会って話を聞くことができませんでした。しかし、自分たちで災害時にどんな不便があるのかを考えることができ、考える力がついたと思った。</p> <p>② 今年のTRは、例年とは違うTRだったけど自分なりに何ができるのか、このコロナ禍の中でどう活動をしていけばいいのか、考えることができた。</p> | <p>(氏名 岡田干菜歩)</p> <p>① グループでは最初は気づいたことなど意見の言い合いがうまくいってなかったがTRをすすめることでグループ内で意見を共有し合いながら活動を行えるになったこと。</p> <p>② 個人の方では自分から進んでアイデアを言えるようになった事と、活動をより良いものにしようとする向上心が生まれた事です。</p> |
| <p>(氏名 森岡美遥)</p> <p>① 昨年コロナが流行している現在、避難所での感染対策という所に目を付け調べ始めたが、コロナ禍で全然校外に出ることができず、昨年度より学びについては少なくなりましたがコロナにより感染症というものを再確認する事ができた年になった</p> <p>② 今までは、自分の意見がなかなかいえなかったが今年のTRでは、自分の意見が言えるようになった。</p> | <p>(氏名 山田昌)</p> <p>① コロナ禍と結びつけて考えると不可能ばかりではなく、工夫をすれば可能になる事もたくさんある事が分かった。避難所では何が課題かという所から考え始めることで実際避難されている方の立場に立って内容を考えられた。</p> <p>② グループワークをする際今までは意見を発した後、すぐ引っ込んでしまったり、実行に移しても伝わらないことが多かった。しかし、メンバーからの言葉に助けられつつ意見に責任をもてたり、思っていることが伝わるまで言うことができた。</p> |

【担当教員 山口明 講評】

TRとしては、初めての「こち防チャンネル」の取り組みでした。一体何をしたらよいのか？何ができるのか？と考え込む日々のように見えました。ちょうどコロナも流行し、感染対策も考えないといけない状況で、実際に災害が起こった時の避難所での生活を一生懸命想像し、何か役に立つことはないか？と考えていました。雨水や泥水等のろ過装置やポリ袋でできる防護服など実際に身近なもので作成することができました。もしもの時に、考えて、工夫し、そして行動する力がついたのではないのでしょうか。

日本の文化と外国の文化の違い

16班 峪田廉 山口敦誉 楨村孝太 辻総太郎 本多真人

福祥閣にインタビューのため訪問に行きました。



福祥閣さんの客の割合は日本人95%、外国人が5%程。従業員は友達紹介、インターネットで探しています。従業員の方について、中国から来られました。ご主人さまが先でその後、家族で日本に来られたそうです。「真庭市の人は中国の人と比べ優しく毎日楽しい！」

中国の人と比べて真庭の人は優しいといわれ、真庭の地域の方が優しいので、真庭市は外国の方にとっても住みやすい地域だと思った。真庭は山、川、自然がたくさんで快適に暮らせる。

私たちのグループは世界と日本の食文化の違いについて調べた。違いを知るため真庭市にある福祥閣にインタビューにいった。

岡山県ユネスコスクール実践交流会 (2020.11.14)



「WITH コロナ時代の高校生 ESD」をテーマにZOOMミーティング
真庭高校実践発表・他校実践発表・意見交換・ESDアクション宣言

次に他校の人たちとユネスコスクール会議で話しました。各校のESDにかかわる取り組みが知ることができた。今後の取り組みの参考になった。

ユネスコスクールの取り組むESD (持続可能な開発のための教育)

【知識、価値観、行動等】
環境、経済、社会の総合的な発展

ESDの目標

- すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動があらゆる教育や学びの場に取り込まれている
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

「環境、社会、経済の総合的な発展が目的が基本的な考え方」というESDの基本的な考え方を知ることができた。ESDの達成目標を自分たちなりにまとめた。注目してほしいところは色を変えるなどして見えやすくなるように工夫した。

岡山県のユネスコスクール(高校は10校)

- 岡山学芸館高等学校
- 岡山県立岡山一宮高等学校
- ノートルダム清心学園清心女子高等学校
- 岡山県立矢掛高等学校
- 岡山龍谷高等学校
- 岡山県立真庭高等学校
- 岡山県美作高等学校
- 岡山県立林野高等学校
- 岡山県立和気岡谷学校
- おかやま山陽高等学校

現在の岡山県ユネスコスクール加盟承認された高校はこの10校。年に1回これらの高校が集まって実践交流会を行っているが、今年度はコロナの関係で実際に集まることができず、zoomミーティングとなった。

他校のSDGs活動(ESD)の発表を聞いて良いと思った所

- 学芸館はESD活動を展開していき未来の社会をかえるという目標で活動をおこなっていた
- 龍谷高等学校は他国と関わり考えを深めたりプラスチックのゴミ減少の活動をおこなっていた
- 清心は貧困な国への寄付をしたりオンラインで他国と国際交流をおこなっていた

ユネスコスクール交流会を通して他校はどのような取り組みをしているのか知ることができた。他校の取り組みを参考に色々な事に取り組んでいきたい。

思ったこと・感じたこと

- 高校生と交流することで、他の学校がどのような状況なのか、知ることができた。
- 共通する話題をグループで考えることができ、いろいろな意見が出てきて、それを共有することで、自分では気付かなかったことが気付けてよかった。

実際に海外の方に聞くことでネットよりも深く知ることができ興味が沸いた。海外の方が真庭に住みたいと思えるように取り組んでいきたい。ESDをもっとたくさんの人に伝えていきたいと思う。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

福祥閣の方 ユネスコスクールの方々

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(峪田廉)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外と日本の違い ・他校の人は積極的に海外と交流している <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見だけでなく他人の意見を尊重してスライド作成による協調性 ・本番までにどうすれば間に合うかを考え一時間を大切にす計画性と最後までやりきる粘り強さ | <p>(山口敦誉)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人から見た真庭の良さ ・他校の人のESDに関わる取り組み <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中華料理屋にインタビューに行き話しを聞いた後海外に興味を持ち始めた! ・どうすれば効率よく進めることができるか考えみんなの意見を尊重しつつ、役割分担し全員で達成しきることができた! |
| <p>(辻総太郎)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国文化の多様性 ・日本文化との比較 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化について調べていく内にさらに詳しくしれた。 ・興味があまりなかった国でも今回のしらべ学習で色々な国に興味を沸いてきて興味がなかった国に興味をわいた | <p>(槇村孝太)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と海外の食の違い ・外国人が日本に住む難しさ <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校の人と交流したときに、意見を出し合っ、知らないことを一緒に考えることができた ・海外のことを調べることで知らなかったことを学んで知識として身についた |

【担当教員 古賀壮一郎 講評】

外国文化についての興味という点が共通していたものの、4月の活動開始当初は具体的にどのような活動を行えばよいか方向性がなかなか見えず苦しんだ。しかし福祥閣での中国出身の方へのインタビューをきっかけに、「真庭市における外国人の生活」「外国人の目から見た真庭市」という具体的な視点がメンバーで共有されるようになり、研究が前進した。また、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で本来行われるはずであったブルガリアとの交流など、ユネスコスクールとしての活動が大きく制限されることになったが、オンライン会議を中心とした県内各校との交流を通して「高校生としてどのような活動ができるのか」という自覚が芽生えていったのではないかと思う。今後はこのTRの活動で得た知見を糧として、それぞれの進路志望の実現に邁進していくことを期待している。

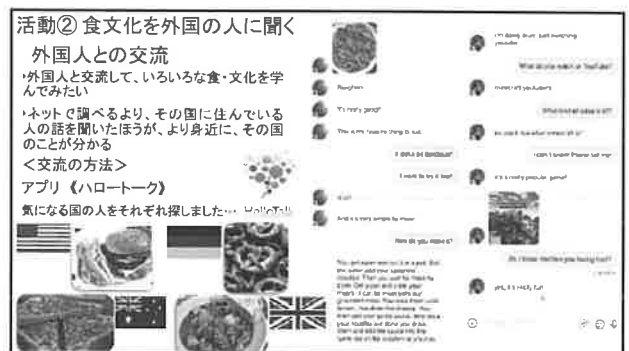
『海外の食と文化』

17班 大原 菜緒、浅尾 心、貝阿彌 葵、加藤 愛梨



活動① 真庭市ホストタウン応援動画プロジェクト

①ドイツの選手に向けた応援メッセージ動画の作成に参加した。スケッチブックの背景は日本らしさを出すために折り紙を使ってドイツの国旗をかき、馬術ということで馬を描いた。真ん中にはドイツ語で「応援しています」という意味の文字を書いた。撮影の背景にも折り紙を折って貼り付け、スケッチブックとドイツの国旗を持って動画を撮った。



活動② 食文化を外国の人に聞く

外国人との交流
外国人と交流して、いろいろな食・文化を学んでみたい

ネットと調べより、その国に住んでいる人の話を聞いたほうが、より身近に、その国のこと分かる

<交流の方法>
アプリ（ハロートーク）
気になる国の人をそれぞれ探しました…！

②一年生の時には、ユネスコスクールの活動でブルガリアの人と直接交流することができた。今年はそのような活動ができないので、海外の人と会話できるアプリでの交流を考えた。アプリを使って交流してみて、送られてくる英語を翻訳して読んだり、自分の言葉を英訳して返信したりと、会話するのが難しかった。



活動③ 各国の料理を作りました

アメリカ: スモア 浅尾 心
ドイツ: フラムクーヘン 大原 菜緒

熱で溶かしたマシュマロとチョコレートをクラッカーやビスケットでサンドしたお菓子

長方形に薄く伸ばしたパン生地にサワークリーム、スライスした玉ねぎとベーコンをのせて焼いたもの

③海外の人に様々な料理を聞くことができたので、自分たちでも海外の料理のレシピを探し、食材を集めて実際に作ってみた。スモアは、簡単に作ることができ、少し甘かったがおいしかった。今度は抹茶味のスモアも作ってみたい。フラムクーヘンのフラムは炎、クーヘンはケーキという意味。味は爽やかでおいしかった。

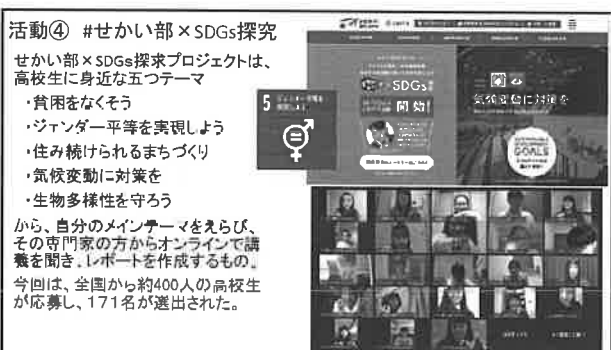


オーストラリア: ラミントン 加藤 愛梨
イギリス: アイリッシュシチュー 貝阿彌 葵

四角状に切ったスポンジケーキを伝統的なチョコレートソースでコーティングし、乾燥ココナッツをまぶして作られるもの

本来はマトンの首の骨付き肉と野菜、アイリッシュポテトをじっくり煮込んだもの

④ラミントンは、食べてみてココナッツファインが口に合わなかった。海外のお菓子が日本のお菓子より甘い理由を調べてみると、文化の違いによることがわかった。アイリッシュシチューは、お酒を使った料理を食べる機会が初めてだったので、美味しく感じなかった。お酒を使う理由をしらべると、肉の臭みを消したり、アイリッシュは寒い地域なので体を温めるために使うことがわかった。



活動④ #せかい部 x SDGs探究

せかい部 x SDGs探究プロジェクトは、高校生に身近な五つテーマ

- ・貧困をなくそう
- ・ジェンダー平等を實現しよう
- ・住み続けられるまちづくり
- ・気候変動に対策を
- ・生物多様性を守ろう

から、自分のメインテーマをえらび、その専門家の方からオンラインで講義を聞き、レポートを作成するもの。今回は、全国から約400人の高校生が応募し、171名が選出された。

⑤国会議員やニュージーランド大使館の職員など様々な専門家にオンラインで話を聞くことができ、日本のジェンダー平等に足りないものは何かを学んだ。また、他の高校生レポートの活動をたくさん知り、多くの刺激を受けることができた。



まとめ・感想

外国人とアプリを通して会話することで、各国の環境や文化などの違いで、食物や料理法が異なることが分かった。

せかい部では、普段は話を聞けないような方のお話をきけて、とても貴重な体験になった。今回の活動を通してこれからも自分が感じたことなどをSNSで発信していきたい。

⑥海外の人に食文化を聞き、そこから自分の地元の食と文化についても調べたことで、海外と同じように地元落合にも地域と食文化に関りがあることが分かった。せかい部の活動では、参加していた他の高校生たちのSNSを見て、団体を立ち上げたり、ボランティアに進んで参加していて、とても刺激を受け、自分も自ら行動できるような力をつけようと思った。

■関わった人たち

真庭市生活環境部スポーツ・文化振興課 二宗さん

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(貝阿彌 葵)</p> <p>① 日本と海外の国々を比べてみて、料理の味や使う食材、調理方法などが全てにおいて文化に関わっていることに気が付いた。そこから文化と食は切っても切れない関係にあることを学ぶことができた。</p> <p>② 以前は海外の人と話すことに少し抵抗があり、大変そうとか難しそうだという考えがあった。しかし、国境を越えての繋がりをハロートークで持ち、そこで気軽に話すことができたことで、今まで知らなかった知識が増え、海外の人と話すことへの抵抗が無くなった。</p> | <p>(加藤 愛梨)</p> <p>① 海外の人とアプリを通して交流してみて、英訳をした文章だけでは、話がかみ合わずコミュニケーションが難しかった。実際に会って会話することで伝わること、文字だけでは伝わらないことがあるということを改めて学ぶことができた。</p> <p>② 今まで海外の人と話す機会が無く、英語はそこまで必要ではないと考えていた。しかし、海外の人と会話する中で、英訳アプリを活用して交流することにも限界あると感じ、英語を身につけることがとても大切だと思った。</p> |
| <p>(浅尾 心)</p> <p>① 海外の人に食文化を聞くことができ、そこから自分の地元の食と文化についても調べたことで、海外と同じように自分の地元でも、地域と食文化に関わりがあることを学ぶことができた。海外の人と初めてアプリを使って交流して、今まで知らなかった事を知ることができ、海外への関心が深まった。</p> <p>② 1年生の時に比べ、テーマに関心をもって自ら積極的に調べることができた。これから先、海外の人と交流する機会があれば、英語の知識を身につけて今回よりもたくさんの交流ができるようになりたいと思えるようになった。</p> | <p>(大原 菜緒)</p> <p>① せかい部で日本のジェンダー平等がとても遅れていて、その原因中に教育が大きく関わっていることや、個人の意識で変わることができると学んだ。他の高校生レポーターと実際に交流することは無かったが、その活動をたくさん知ることができて、多くの刺激を受けた。</p> <p>② 1年生の時はせかい部に興味があっても参加するところまで行動できななかったが、今年は応募し、積極的に活動に参加することができ、行動力が身についた。人前で話すことは得意ではなかったが、代表発表に選ばれ練習をたくさんし、堂々と発表することができ、自信がついた。</p> |

【担当教員 宮地結子 講評】

今年度は例年のようなユネスコスクールの活動ができず苦労しましたが、その中でよく工夫して活動できたと思います。初めこそ、こちらから指示を出していましたが、徐々に私からの先の予定の話やアドバイスだけで、自分たちで見通しを持って計画的に取り組めるようになりましたね。今年度の活動の中で、4人とも、一人ひとりが自分の興味のあること・担当することにしっかりと取り組み、責任を持って活動できることがよくわかりました。また、2年生の中での最終発表・2年代表としてのTR成果発表において、どちらも順番が最後で緊張する中、直前の不安な様子を感じさせない堂々とした発表をすることができました。自分のことを低く評価しがちなみんなですが、昨年度と比べて積極的にできたこと、自分の成長した部分を認めて、自信を持ってほしいと思います。この活動が今後の授業、進路実現に生かされ、みんなのことを後押しする力になるとうれしいです。私は一緒に活動していて、4人とも頼もしく、安心して活動をサポートすることができました。そして何より楽しかったです！ありがとう！



第3学年



令和2年度 3年生 真庭トライ&レポート(TR) 年間活動計画

| No. | 月 日 | プロセス | 評価 | 内 容 | 形 態 | 活動場所 | 担当者 | |
|-----|--------|-----------------------|----------------------|---|-----------------|---|------|--|
| 1 | 4月20日 | 臨時休校 | | | | | | |
| 2 | 4月27日 | | | | | | | |
| 3 | 5月25日 | | | | | | | |
| 4 | 6月1日 | (1)テーマ導入 | 評価
I | 真庭トライ&レポート ガイダンスとプロジェクト希望調査 | 3年
普通科
全体 | 会議室 | 安東 | |
| 5 | 6月8日 | (2)テーマ設定
(3)探究活動計画 | | テーマ設定①[志望理由]手帳を使って3年間の活動を洗い出す①(ブレンストーミング) | | | | |
| 6 | 6月15日 | (4)探究活動 | 評価
II
III | ■五感を通じた実体験を積み重ねる。

進路に関する情報を「自分の目で見、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる」 | 各プロジェクト | 各プロジェクト
下記参照

PC使用
電算室
(1年視聴覚) | 各担当者 | |
| 7 | 6月22日 | | | | | | | |
| 8 | 6月29日 | | | | | | | |
| 9 | 7月6日 | | | | | | | |
| 10 | 7月20日 | | | | | | | |
| 11 | 7月27日 | | | ・各プロジェクトで外部講師招聘可
・図書館・インターネットでの調べ学習
・校外インタビュー
・アンケート(生徒・教員・保護者・地域)
・実験・実習・制作
・カメラ・ビデオ活用・パソコン
・調査(同じOCに複数回、異なるOCで比較分析) | | | | |
| 12 | 9月14日 | (5)まとめ
(6)発表 | | ■まとめ パワーポイント作成
・スライド6枚 A4タテ | | | | |
| 13 | 9月28日 | | | | | | | |
| 14 | 10月5日 | | | | | | | |
| 15 | 10月19日 | (7)フィードバック
・総括 | 評価
I
II
III | ■TR評価アンケート
■『後輩たちへのメッセージ』記入 | 各クラス | 各HR | HR担任 | |
| 16 | 10月26日 | | | | | | | |
| 17 | 11月2日 | | | | | | | |
| 18 | 11月9日 | | | | | | | |
| 19 | 12月7日 | | | | | | | |
| 20 | 12月14日 | | | | | | | |

※3年団:栗木・下山・竹原・小林あ・杉・水本・安東・佐古

- 形態:学年単位とし、3年間を通して段階的に発展していく。3年間の見直しをもって、『総学TR』を計画する。
- 【第1学年】“HOW TO LEARN”(ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ)課題別グループ学習[興味・関心を広げる]
- 【第2学年】“WHAT TO LEARN”(自分で課題を設定し、調べる)進路別課題学習・看護臨床実習における看護研究[知識・理解を深める]
- 【第3学年】“HOW TO LIVE”(進路実現・卒業後の生活のために学ぶ)進路別課題学習[具体的な自身の進路実現]

■月曜日6限。12月までで終了。2月5日成果発表会は1・2年生のみ。

■探究活動における7つのプロセス: (1)テーマ導入, (2)テーマ設定, (3)探究活動計画, (4)探究活動, (5)まとめ, (6)発表, (7)総括・フィードバック

■評価:上記7つのプロセスを3つ(1, 2, 3/4/5, 6, 7)に分けて、それぞれ担当教員がABCで評価する。出欠はクラス担任が管理する

■3年生(F):『自分の進路』という柱から【テーマ設定】を行う。※体験の質・量を向上。『地域とつながる』視点。

1年『真庭魅力化プロジェクト』, 2年『SDGs』

プロジェクト内のグループ編成については、個人・グループどちらでもOK。

例)志望大学の公開講座に参加→課題の発見→テーマ設定→地域とつながる探究活動→進路に結びつける

| | | |
|---|--------------|----------------------|
| <p>■① 国立大学を中心とした入試対策チャンネル
(国公立4年大総合型選抜、学校推薦型選抜を目指す生徒+公立短大総合型選抜を目指す生徒、共通テスト利用の推薦も含む。)
グループではなく、個人でテーマ設定(1・2年時に探求したテーマを継続する)
各自狙いとする総合型選抜、学校推薦型選抜入試を挙げ、それに向けた取り組み
調査研究プレゼン</p> | 電算室
3-2HR | 安東
竹原
栗木
佐古 |
| <p>■② 専門学校への入試対策チャンネル
(専門 進学希望者) ※テーマ設定については、個人・グループいずれも可とする。
※GW・夏休みでのオープンキャンパスに向けた取り組み(予約・注意事項・面接)
※受験校決定・決定後には徹底研究(入試の内容に応じた学習・活動)に取り組む。
※合格後には、プレゼンテーション・PC活用講座(進学後に必要な分野の学習に取り組む。)</p> | 講義室
3-1HR | 杉
水本 |
| <p>■③ 就職を主とした対策チャンネル
(就職希望者) 求人票の見方、SPI2攻略、適性検査・一般常識トレーニング、面接、
真庭地域産業調べ(真庭高校や落合高校の歴史)、資格調べ
内定獲得後には、社会人マナー講座(ネクタイ・化粧)、礼状、年賀状など。</p> | 進路
資料室 | 下山
小林あ |

※活動場所【HR】【図書室】【社会科教室】【電算室PC】【4-1】【4-2】

※豊田校長・武村副校長・吉原教頭にも就職面接など指導サポートをしていただく

※田中ひ・岡本先生にも可能な範囲で医療看護系志望生徒の指導を依頼する



